

元総社蒼海遺跡群

元総社小見遺跡

元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、板東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世、近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域に800余基の存在していたことが伝えられています。その中には大室四古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も9基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示す通り、政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏・上杉氏・武田氏・北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏・松平氏が居城した関東三大名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。まさに、前橋はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度発掘調査を行いました元総社小見遺跡は、前橋市の西部に位置し国府推定域のわずかに西側に位置します。国府に関連すると思われる掘立柱建物跡は検出されませんでしたが、道路状造構や数多くの堅穴住居跡が検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国府周辺の集落の変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりましては、ご協力いただきました市区画整理第二課、地元関係者、調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成13年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 阿部明雄

例　　言

1. 本書は、元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県前橋市元總社町地内に所在する。
3. 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査専門委員会が主体となり、前橋市教育委員会の指導のもと、山武考古学研究所が担当した。調査面積・期間・担当者は次の通りである。

調査面積　　2,150m²

発掘・整理期間　平成13年2月9日～平成13年3月23日

発掘担当者　　長谷川一郎・日沖剛史（山武考古学研究所）

整理担当者　　長谷川一郎・折原洋一・湯原勝美（山武考古学研究所）

4. 本書の執筆分担は次の通りである。

第Ⅰ章…鈴木雅浩（前橋市教育委員会）、第Ⅱ～Ⅳ章…長谷川、第V・VI章…長谷川・折原・湯原

5. 調査にかかる遺物・図面・写真等の資料は、一括して前橋市教育委員会が保管している。

6. 発掘調査参加者は次の通りである。

石田貴弘 磯田二郎 磯田政男 今井峰子 宇津木明子 小田 保 奥野賢司 金井道治 金井百合子
木下雅文 小出拓磨 小林光子 近藤四郎 斎藤 明 斎藤茂作 桜井敬一 桜井れい 重田由紀恵
白石 晃 須田安雄 須田宗孝 須藤ユカエ 富田信夫 中沢愛次郎 中沢嘉代子 中沢常雄
堀越道男 権越律子 松田 実 松本英明 馬渕恵美子 黒 準一 三友昭彦 宮下哲之 茂木美雪
吉田 健 吉田三枝子 吉田善紀 稲賀 晃

凡　　例

1. 掘図中に記載した北方位は座標北を示す。

2. 本遺跡の略称は12A107である。

3. 各遺構の略称は次の通りである。

J…绳文時代の竪穴住居跡　　H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　B…掘立柱建物跡
T…竪穴状遺構　　X…性格不明遺構　　A…道路状遺構　　W…溝跡　　D…土坑

4. 遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。

遺構　竪穴住居跡・掘立柱建物跡・道路状遺構の平面・断面図…1/80　竪の平面・断面図…1/40
全体図…1/200、1/1,000

遺物　　掘図中において各個に示した。

5. 計測値については、() は現存値、〔 〕は復元推定値を表す。

6. 遺物の掘図中に使用したスクリーントーン表示は以下の通りである。



目 次

序

例言・凡例

第Ⅰ章 調査に至る経緯 1

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 1

　第1節 遺跡の立地 1

　第2節 歴史的環境 1

第Ⅲ章 調査の方法と経過 5

　第1節 発掘調査の経過 5

　　第1項 調査方針 5

　　第2項 調査の経過 5

　第2節 整理調査の経過 7

第Ⅳ章 基本層序 7

第Ⅴ章 遺構と遺物 8

　第1節 坑穴住居跡 8

　第2節 挖立柱建物跡 14

　第3節 坑穴状遺構 14

　第4節 性格不明遺構 14

　第5節 道路状遺構 14

　第6節 溝跡 15

　第7節 土坑 15

第VI章 まとめ 15

付編 自然科学分析 29

報告書抄録

挿図目次

Fig. 1 元総社小見遺跡位置図	2	Fig. 19 H - 52・54・72号住居跡	47
Fig. 2 地籍図	2	Fig. 20 H - 58・59・60・64号住居跡	48
Fig. 3 遺跡周辺の地形図	4	Fig. 21 H - 67・68・70・71・73号住居跡	49
Fig. 4 調査区設定図	6	Fig. 22 H - 74・77・79・80号住居跡	50
Fig. 5 基本土層柱状図	7	Fig. 23 H - 83・85～88号住居跡	51
Fig. 6 壊穴住居跡時期別配置図	16	Fig. 24 H - 89・98号住居跡	52
Fig. 7 時期別の壊穴住居跡の主軸方向	17	Fig. 25 II - 98・99号住居跡	53
Fig. 8 元総社小見遺跡全体図	33・34	Fig. 26 B - 1号掘立柱建物跡、A - 3号道路状遺構	54
Fig. 9 元総社小見遺跡1～5区遺構全体図	35・36	Fig. 27 J - 1号住居跡、遺構外出土遺物	55
Fig. 10 元総社小見遺跡6～8区遺構全体図	37・38	Fig. 28 J - 2号住居跡、遺構外出土遺物	56
Fig. 11 J - 1・2号住居跡	39	Fig. 29 H - 3・4・8・9・11・13号住居跡出土遺物	57
Fig. 12 H - 3・4号住居跡	40	Fig. 30 H - 16・19～21号住居跡出土遺物	58
Fig. 13 H - 3・8号住居跡	41	Fig. 31 H - 21・23・31・34・35号住居跡出土遺物	59
Fig. 14 H - 9・11・13・16号住居跡	42	Fig. 32 II - 43・52・54・58～60・64・67・ 68・70・71号住居跡出土遺物	60
Fig. 15 H - 19・20号住居跡	43	Fig. 33 H - 73・74・77・79・80・83・85～ 89号住居跡出土遺物	61
Fig. 16 H - 21号住居跡	44	Fig. 34 H - 98・99号住居跡、遺構外出土遺物	62
Fig. 17 H - 23・31・34号住居跡	45		
Fig. 18 H - 35・43・45号住居跡、D - 14号土坑	46		

表 目 次

Tab. 1 周辺の遺跡一覧表	3	Tab. 10 土坑一覧表	21
Tab. 2 壊穴住居跡（縄文）一覧表	18	Tab. 11 縄文時代 遺物観察表	22
Tab. 3 壊穴住居跡（古墳～平安）一覧表（1）	18	Tab. 12 古墳～平安時代 遺物観察表（1）	22
Tab. 4 壊穴住居跡（古墳～平安）一覧表（2）	19	Tab. 13 古墳～平安時代 遺物観察表（2）	23
Tab. 5 壊穴住居跡（古墳～平安）一覧表（3）	20	Tab. 14 古墳～平安時代 遺物観察表（3）	24
Tab. 6 壊穴状遺構一覧表	20	Tab. 15 古墳～平安時代 遺物観察表（4）	25
Tab. 7 性格不明遺構一覧表	20	Tab. 16 古墳～平安時代 遺物観察表（5）	26
Tab. 8 道路状遺構一覧表	20	Tab. 17 古墳～平安時代 遺物観察表（6）	27
Tab. 9 溝跡一覧表	20	Tab. 18 古墳～平安時代 遺物観察表（7）	28

写真図版目次

PL. 1	H - 40号住居跡全景	H - 87号住居跡全景
調査前現況	H - 42・43号住居跡全景	H - 88号住居跡全景
J - 1号住居跡遺物出土状況	H - 45号住居跡全景	II - 88号住居跡遺物出土状況
J - 1号住居跡全景	PL. 5	H - 89号住居跡全景
J - 2号住居跡遺物出土状況	H - 47号住居跡全景	H - 90号住居跡彌形全景
J - 4号住居跡全景	H - 52号住居跡全景	PL. 9
H - 1号住居跡全景	H - 55号住居跡全景	H - 91号住居跡全景
H - 2号住居跡全景	H - 54・72号住居跡全景	H - 95号住居跡全景
H - 3号住居跡全景	H - 57号住居跡全景	H - 97号住居跡全景
PL. 2	H - 58号住居跡全景	H - 98号住居跡全景
H - 3・5号住居跡全景	H - 59号住居跡全景	II - 98号住居跡西端全景
H - 4号住居跡全景	H - 60号住居跡全景	H - 99号住居跡全景
H - 7・8号住居跡全景	PL. 6	H - 99号住居跡遺物出土状況
H - 9号住居跡全景	H - 60号住居跡遺物出土状況	II - 99号住居跡遺物出土状況
H - 10号住居跡全景	H - 61号住居跡全景	PL. 10
H - 11号住居跡全景	H - 62号住居跡全景	H - 100号住居跡全景
H - 14号住居跡全景	H - 63号住居跡全景	X - 4号不明遺構跡全景
H - 15・18・22・27号住居跡全 景	H - 64号住居跡全景	X - 4号不明遺構跡セクション
PL. 3	H - 64号住居跡遺物出土状況	B - 1号掘立柱建物跡全景
H - 16号住居跡全景	H - 67号住居跡全景	B - 1号掘立柱建物跡 P - 1セク ション
H - 19号住居跡全景	H - 68・71号住居跡、D - 27号 土坑全景	A - 3号道路状遺構
H - 19号住居跡遺物出土状況	PL. 7	W - 7号溝跡
H - 20号住居跡全景	H - 69・70号住居跡全景	8区調査終了状況
H - 21・29号住居跡全景	H - 73号住居跡全景	PL. 11 出土遺物
H - 21号住居跡遺物出土状況	H - 73号住居跡彌形全景	PL. 12 出土遺物
H - 23号住居跡全景	H - 74号住居跡全景	PL. 13 出土遺物
H - 25・26・32号住居跡全景	II - 76～78号住居跡全景	PL. 14 出土遺物
PL. 4	H - 78号住居跡全景	PL. 15 出土遺物
H - 26号住居跡全景	H - 80号住居跡全景	PL. 16 出土遺物
H - 32号住居跡全景	H - 81号住居跡全景	PL. 17 出土遺物
H - 34号住居跡貯藏穴遺物出土 状況	PL. 8	PL. 18 出土遺物
H - 35号住居跡全景	H - 83・92・93号住居跡全景	
H - 38・31号住居跡全景	H - 84号住居跡全景	
	II - 85・86号住居跡全景	

第Ⅰ章 調査に至る経緯

前橋市都市計画事業元総社蓄水地区画整理事業に先立ち、都市計画部区画整理第二課より埋蔵文化財の照会があり前橋市教育委員会文化財保護課で協議・検討を行った。その結果、今回実施する区画整理事業地内は、想定上野国府城の西に位置し、周辺には国分寺・国分尼寺があり、本遺跡が重要域に隣接していることから、当該事業に先立って発掘調査を実施することとした。

平成12年12月6日付けで前橋市長森原弥惣治（前橋市都市計画部区画整理第二課）より前橋市教育委員会にて区画整理事業に伴う本発掘調査依頼がなされ、前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団がこれを受諾し、2月6日両者の間で本発掘調査の委託契約が締結された。その後、前橋市埋蔵文化財発掘調査団は本発掘調査を民間調査機関（山武考古学研究所）に委託し、2月9日付けで契約を締結した。発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと、平成13年3月23日までの調査期間で実施した。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の立地

前橋市は、地質及び地形から東北部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地、東部の広瀬川低地帯、南部の現利根川氾濫原の4地域に分けられる。本遺跡が立地する前橋台地は、古くは浅間山の山体崩壊が原因とされる前橋泥流により形成された洪積台地で、その後、河川の浸食、湿地化などを経て現在に至っている。台地の東側には広瀬川低地帯が幅3kmの細長い冲積地として広がり、台地の中央には現利根川が貫流している。

前橋台地の西部には相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下している。これらの諸河川は台地を刻んで細長い微高地を作り上げている。元総社小見遺跡は染谷川と牛池川に挟まれた微高地上に立地し、群馬県庁より西へ約2km、JR上越線新前橋駅の北方約2kmに位置している。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺は上野国府城として想定される地域であり、周辺で行われた発掘調査の成果からは縄文時代からの連続とした生活の痕跡が発見されている。

縄文時代では国分寺中間地域遺跡や産業道路東・西遺跡があり、前期・中期の集落遺跡が調査されている。その他、下東西遺跡、清里南部遺跡群、清里・陣場遺跡、中島遺跡、長久保遺跡なども挙げられる。

弥生時代の調査例は少なく、中期後半の環濠集落である清里・庚申塚遺跡と後期の住居が検出された国分寺中間地域、桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡などが散見される程度である。

古墳時代では6世紀前半の川原石を用いた積石塚である山王古墳、それに続く本遺跡の北約2kmの総社古墳群が挙げられる。また、国指定史跡で前方部と後方部に石室を有する総社二子山古墳、巨石使用の横穴式石室をもつ愛宕山古墳、主軸70mを測る遠見山古墳、また県内最終末期と考えられ仏教文化の影響を強



Fig.1 元總社小見遺跡位置図 (1 : 25,000)

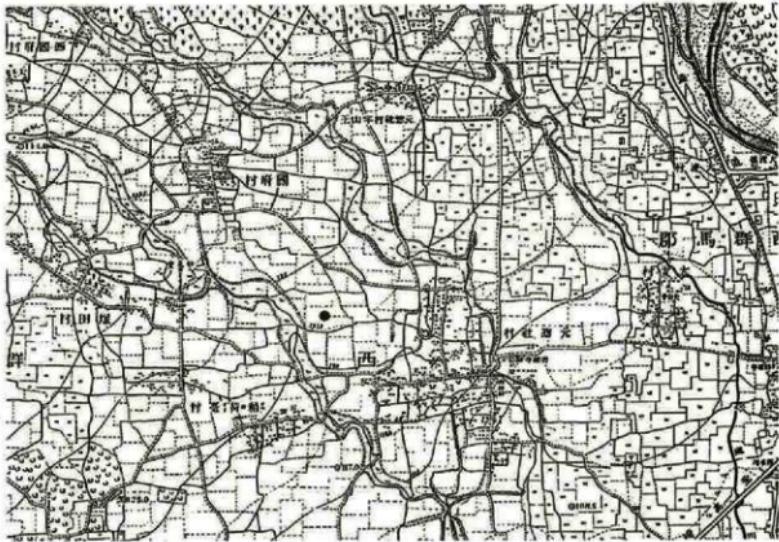


Fig.2 地籍図 (1 : 25,000)

Tab.1 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	縦文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世
1	元松林小見遺跡	住居跡		集落	集落	溝
2	上野国府推定地					
3	上野国分寺跡				基礎・塗地・塼	
4	上野国分尼寺跡				中門跡・金堂跡・講堂跡	
5	山王庵寺遺跡				住居跡・掘立柱・塔心礎	
6	國分城遺跡			住居跡	住居跡・井戸・地下式土坑	
7	上野国分僧寺・尼寺中間地域	住居跡	住居跡	住居跡	住居跡	土坑墓・溝・井戸
8	鳥羽遺跡				住居跡・溝・井戸・畠	居館・講・畠
9	後泥開遺跡			住居跡	住居跡・小鍛冶跡	井戸
10	啄山村水遺跡				住居跡・井戸・溝	
11	元能社小学校校庭遺跡				住居跡・掘立柱建物	
12	元能社明神遺跡			住居跡・水田	住居跡・掘立柱建物・溝・井戸・水田	溝・井戸
13	草作遺跡				住居跡・井戸・溝	
14	南泉越南遺跡			住居跡・竪穴状遺構		溝
15	南泉櫻遺跡			住居跡	溝	溝
16	呂南時廻向遺跡			建物遺構・柱痕		
17	大屋敷遺跡	住居跡		住居跡	住居跡・溝	溝・井戸
18	村東遺跡				住居跡	柴研場
19	弥勒遺跡					墳墓
20	天神遺跡				住居跡・井戸	
21	寺田遺跡			水田・溝	住居跡・溝	溝・井戸
22	能社岡泉明神北遺跡			水田・溝	住居跡	溝・井戸
23	星敷日遺跡			住居跡	住居跡	井戸
24	上野国分寺参道遺跡			住居跡	住居跡	溝・井戸

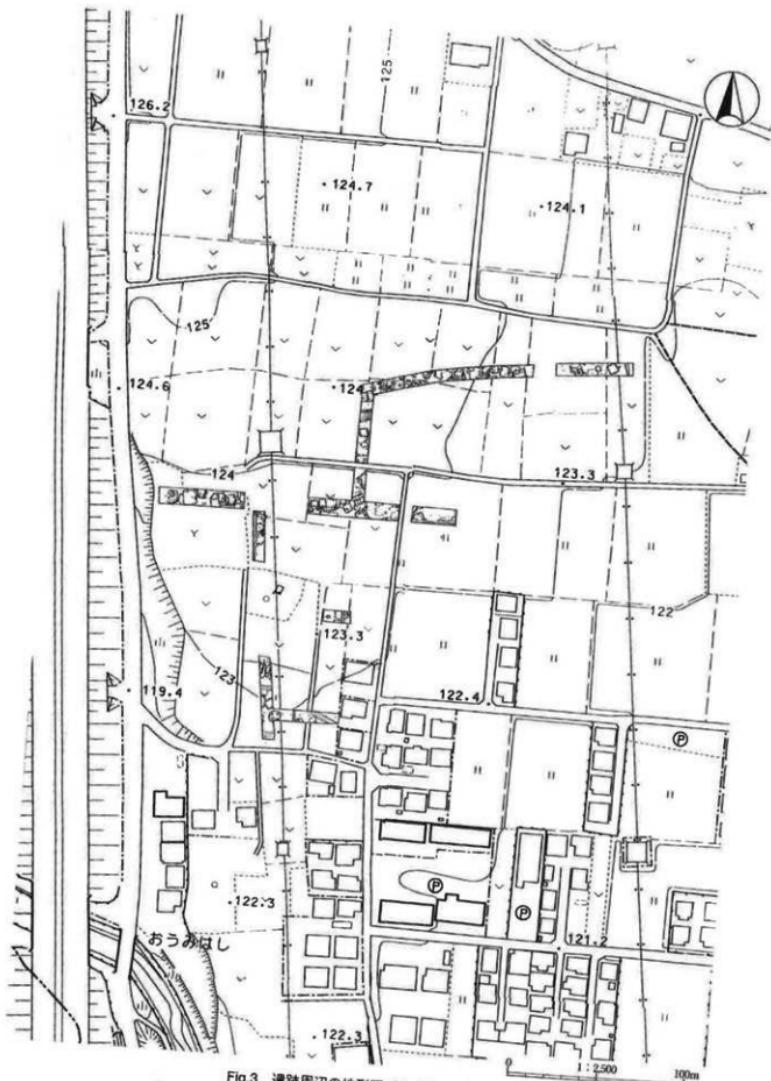


Fig.3 遺跡周辺の地形図 (1 : 2,500)

く受けた宝塔山古墳と蛇穴山古墳など多数所在する。

奈良・平安時代に至ると、国府、国分僧寺・尼寺が運営され、古代上野の政治・文化の中心地としての様相を帶びてくる。国府周辺遺跡には、閑泉塚造跡、閑泉塚南遺跡、小見遺跡、草作遺跡、大友屋敷遺跡、寺田遺跡、元總社小学校校庭遺跡、天神遺跡、染谷川遺跡、弥勒遺跡がある。

国分寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら発掘調査が進められるようになつた。国分僧寺の発掘調査は昭和55年から始まり、礎石、築地、堀などが確認されている。国分寺周辺の遺跡としては、中尾遺跡、鳥羽遺跡、国分寺中間地域遺跡等があり、これらの遺跡からは奈良・平安時代の住居跡が多数検出されている。また、多くの遺跡から、縄釉陶器、灰釉陶器、白磁、硯、墨書き土器等の出土がみられ、鳥羽遺跡からは神社跡と推定される特殊遺構も検出されている。

中世には蒼海城が築かれる。現在の街路の祖形は、蒼海城の堀割り跡が道路に変化したものであり、蒼海城の繩張り自体も国府跡を利用したものである。

第Ⅲ章 調査の方法と経過

第1節 発掘調査の経過

第1項 調査方針

調査を実施した発掘箇所は、元總社蒼海上地区画整理事業における道路部分の調査のため、幅6m、8mの極めて狭長なトレンチ状の調査区で、調査の都合上1~8区に調査区を分けた。

グリッドの設定は公共座標に基づいて行った。名称は第一次確認調査の設定を踏襲し、元總社蒼海遺跡群全体で共通する名称を使用した。グリッドの起点(X0, Y0)における公共座標は以下の通りである。

$$\text{第IX系 } X = +43700.000 \text{ m } Y = -72000.000 \text{ m}$$

グリッドは公共座標に基づいて4×4mで設定し、南北方向をY軸として北から南へY1、Y2、Y3…、東西方向をX軸として西から東へX1、X2、X3…と付番した。今回の調査では、この起点よりさらに西側に位置する地区があり、これらの地区についてはグリッド名称の数字の前に「-」(マイナス)を付して表し、起点から西へX-1、X-2、X-3…と表記した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。全測量中の表記方法はX軸を上段にY軸を下段に記して「X-1, Y2」のように表記した。

調査は、表土掘削、遺構確認、測量基準杭打設、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の順で行った。遺構の記録は1/20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、1/10、1/40縮尺を使用した。遺跡全調査図は個別遺構図をもとに作成した。

写真撮影は調査の各段階に応じて随時行い、白黒35mm判、カラーリバーサル35mm判を使用した。

第2項 調査の経過

調査は平成13年2月9日から同年3月23日まで行った。発掘調査の経過概要は下記の通りである。

平成13年

2月上旬 現地にて調査実施予定地の確認を行う。

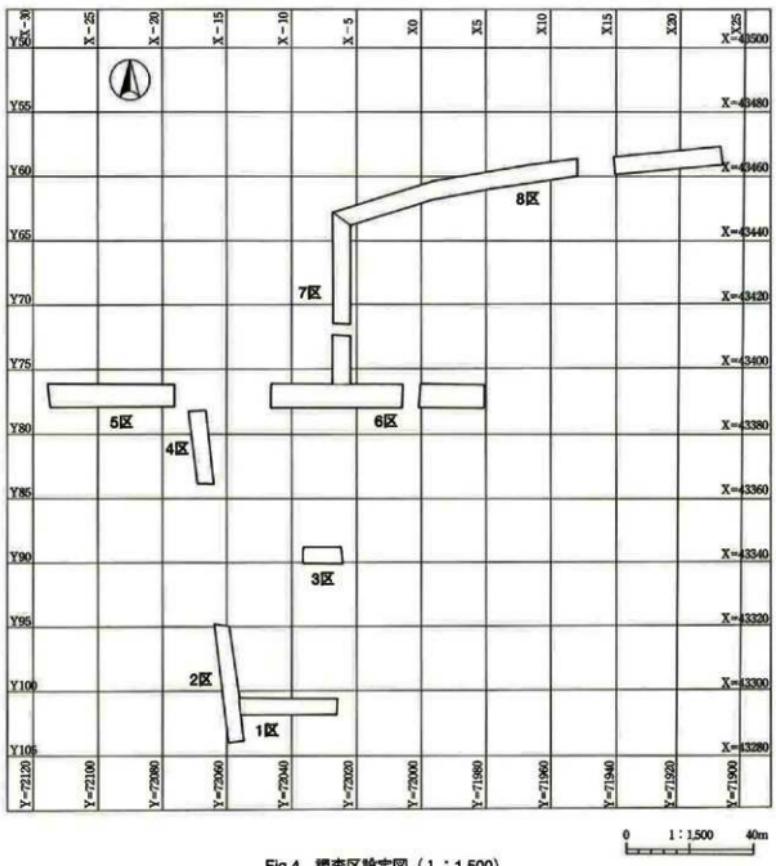


Fig.4 調査区設定図 (1 : 1,500)

中旬 発掘事務所用ボックスハウス、トイレの搬入、設置を行う。発掘器材の搬入を行う。

下旬 調査区の設定を行う。重機による表土排土を開始する。テントの設営を行う。防塙対策として残土置き場にブルーシートを被せる。遺構確認作業を行う。住居跡が激しく重複して検出される。表土排土作業を行う。ベンチマーク、グリッド杭を設置する。遺構掘り下げ作業を開始する。

3月上旬 遺構の掘り下げ、実測及び写真撮影を進行する。

中旬 調査区の埋戻し作業を行う。発掘器材の撤収を行い、現地での調査を終了する。

第2節 遺物整理の経過

本遺跡の整理作業は、平成13年2月9日から平成13年3月23日まで行った。出土した遺物は全量水洗作業を行い、遺構ごとに仕分けした。その後、インクジェットプリンターを使用し、注記を行った。注記不可能な細片についてはビニール袋に入れ、必要事項を記入して整理した。遺物の接合・復元は可能な限り行い、接合にはセメダインCを、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂（バイサム）を用いて修復を行った。

現地で作成した実測図は遺構ごとに整理し、図面保管封筒に保管した。

検出された遺構・遺物の数量に基づき、報告書作成用の割り付けを決定した。遺構図面は図面修正を加えた後にトレース作業、版組を行い、遺物実測は原寸実測を基本として、トレース作業、版組を行った。上記の作業に並行して、遺構・遺物の事実記載、調査内容についての原稿を執筆した。遺物写真撮影には、カラーネガ35mm判フィルムを使用した。

第Ⅳ章 基本層序

本遺跡は総社砂層と通称される黄褐色の砂質土を掘り込んで遺構が構築されているが、台地上を北東-南西方向に走る谷状地形があり、谷を埋めるように黒褐色土が厚く堆積している。1区の全域と5区の東過半部ではこの黒褐色土が検出されていて、遺構はこの層を掘り込んで構築されている。台地上のⅢ層、谷地形部でのⅢ'層とともに、それぞれの地点での遺構埋土と同質の層で、古代の遺構確認はこの層を除去した面（台地上ではⅥ層上面、谷地形の地区ではⅣ'層上面）で可能である。

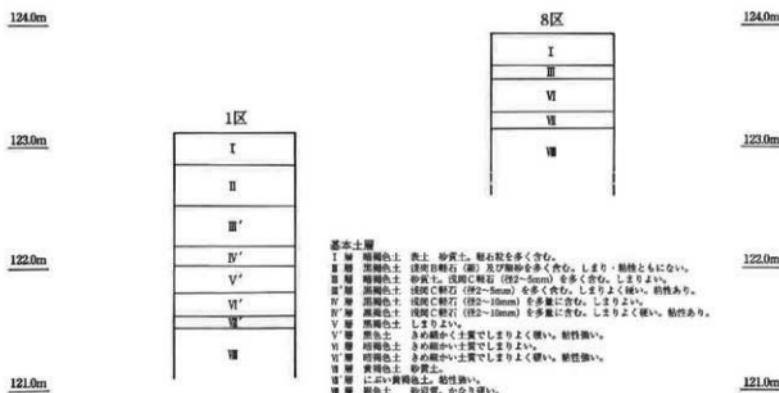


Fig. 5 基本土層柱状図

第V章 遺構と遺物

第1節 穹穴住居跡

竪穴住居跡は、調査区のはば全域から93軒が検出されている。その内訳は、縄文時代3軒、古墳～奈良・平安時代90軒である。規模などの詳細については竪穴住居跡一覧表（Tab.2-5）に示したとおりである。以下、主な竪穴住居跡について述べる。

縄文時代

J-1号住居跡 (Fig.10, PL.1)

位置 1区。X-14、Y101グリッド。 形状等 円形。東西4.76m、南北(4.60)m、壁現高0.40m。 炉無し。 壁溝 無し。 貯藏穴 南東隅部から方形基調のものが1基検出されている。 重複 無し。 時期 出土遺物から諸磯b式期と考えられる。 出土遺物 土器4点、石器（石鐵、不明品）2点を図示した。

J-2号住居跡 (Fig.10, PL.1)

位置 7区。X-7、Y68グリッド。 形状等 大半が削平を受けており、平面形状は不明。東西(3.50)m、南北(3.10)m、壁現高0.25m。 炉 無し。 壁溝 無し。 貯藏穴 不明。 重複 H-67号住居跡に切られる。 時期 出土遺物から加曾利E4式期と考えられる。 出土遺物 土器2点を図示した。

古墳～奈良・平安時代

H-3号住居跡 (Fig.11・12, PL.1・2)

位置 5区。X-26、Y76・77グリッド。 主軸方位 N-96°-E。 形状等 正方形。東西5.84m、南北6.28m、壁現高0.42m。貼り床を有するもので、掘形を調査した結果、建て替えもしくは拡張されている状況が判明した。 窓 東壁中央やや南寄りに付設されている。袖部には芯材として自然石を使用する。 壁溝 無し。 貯藏穴 無し。 重複 H-5号住居跡を切り、H-4号住居跡に切られる。H-6号住居跡とは新旧不明。 時期 出土遺物から8世紀と考えられる。 出土遺物 上師器3点、鉄製品（釘、引手）2点を図示した。

H-4号住居跡 (Fig.11, PL.2)

位置 5区。X-26、Y76グリッド。 主軸方位 不明。 形状等 不明。東西(2.90)m、南北(1.90)m、壁現高0.15m。 窓 不明。 壁溝 無し。 貯藏穴 不明。 重複 H-3・5号住居跡を切る。 時期 出土遺物から10世紀と考えられる。 出土遺物 上師器1点、灰釉陶器2点、不明鉄製品1点を図示した。

H-8号住居跡 (Fig.12, PL.2)

位置 5区。X-28、Y76・77グリッド。 主軸方位 N-94°-E。 形状等 不明。東西(4.52)m、南北5.20m、壁現高0.25m。貼り床を有するもので、北側の床下からは不整形な土坑が1基検出されている。 窓 東壁南寄りに付設されている。燃焼部から丸瓦が出土している。 壁溝 無し。 貯藏穴 無し。 重複 H-7号住居跡に切られる、H-6号住居跡とは新旧不明。 時期 出土遺物から8世紀と考えられる。 出土遺物 須恵器2点、丸瓦1点、金屬製品（逆輪）1点、石製品（紡錘車）1点を図示した。

H-9号住居跡 (Fig.13, PL.2)

位置 5区。X-25、Y76グリッド。 主軸方位 N-94°-E。 形状等 横長長方形。東西3.48m、南北(3.64)m、壁現高0.34m。竈 東壁に付設されている。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。重複 H-35号住居跡を切る。時期 出土遺物から10世紀前半～中頃と考えられる。出土遺物 須恵器1点、灰釉陶器1点、不明鉄製品1点を図示した。

H-11号住居跡 (Fig.13, PL.2)

位置 3区。X-7、Y89グリッド。 主軸方位 不明。 形状等 不明。東西(2.50)m、南北(3.10)m、壁現高0.32m。竈 不明。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。重複 H-10号住居跡、W-5号溝跡に切られる。時期 出土遺物から6世紀末～7世紀前半と考えられる。出土遺物 土師器9点、須恵器(内1点は円面鏡)3点を図示した。

H-13号住居跡 (Fig.13)

位置 3区。X-8、Y89グリッド。 主軸方位 不明。 形状等 不明。東西(4.50)m、南北(1.00)m、壁現高0.30m。竈 不明。壁溝 なし。貯蔵穴 不明。重複 W-5号溝跡に切られる。時期 不明。出土遺物 鉄製品(刀子)1点を図示した。

H-16号住居跡 (Fig.13, PL.2・3)

位置 4区。X-18、Y80グリッド。 主軸方位 N-91°-E。 形状等 横長長方形。東西2.58m、南北3.86m、壁現高0.33m。竈 東壁南寄りに付設されている。袖部には芯材として丸瓦、砂岩ブロックを使用する。壁溝 無し。貯蔵穴 竈の右脇、南東隅部から1基検出されている。隅丸長方形。重複 II-17号住居跡に切られる。時期 出土遺物から9～10世紀と考えられる。出土遺物 須恵器2点、丸瓦1点、鉄製品(鎌)1点を図示した。

H-19号住居跡 (Fig.14, PL.3)

位置 5区。X-23、Y77グリッド。 主軸方位 N-98°-E。 形状等 横長長方形。東西4.10m、南北(1.40)m、壁現高0.55m。竈 東壁南寄りに付設されている。焚口に相当する両袖部の先端には、底部を欠損する土師器甕がそれぞれ逆位で1個体ずつ設置されている。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。重複 X-2号性格不明遺構を切り、H-45号住居跡、D-12号土坑に切られる。時期 出土遺物から6世紀後半～7世紀前半と考えられる。出土遺物 土師器2点、不明鉄製品1点を図示した。

H-20号住居跡 (Fig.14, PL.3)

位置 5区。X-22、Y77グリッド。 主軸方位 N-89°-E。 形状等 横長長方形。東西2.64m、南北3.82m、壁現高0.21m。竈 東壁南寄りに付設されている。燃焼部から平瓦が出土している。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。重複 H-21・45号住居跡を切る。時期 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。出土遺物 床面中央付近から大粒の自然石が多量に出土している。須恵器1点、鉄製品(釘)1点を図示した。

H-21号住居跡 (Fig.15, PL.3)

位置 5区。X-21、Y76・77グリッド。 主軸方位 N-95°-E。 形状等 正方形。東西4.48m、南北3.96m、壁現高0.32m。竈 東壁南寄りに付設されている。焚口部からは、底部を欠損した土師器甕が入れ子状に連なって3個体出土している。焚口に高架されていたものと考えられるが、それを支えていたはずの袖部の状況は判然としない。袖部はほとんど遺存しておらず、芯材に相当するものも検出されなかった。壁溝 ほぼ全周する。貯蔵穴 竈の右脇、南東隅部から1基検出されている。円形。重複 H-29号住

居跡を切り、H-20・45号住居跡に切られる。 時期 出土遺物から7世紀前半と考えられる。 出土遺物 土師器6点、石製品(臼玉)1点を図示した。

H-23号住居跡 (Fig.16, PL.3)

位置 5区。X-20, Y77グリッド。 主軸方位 不明。 形状等 不明。 東西3.65m、南北(2.20)m、壁現高0.16m。 龍 不明。 壁溝 無し。 貯藏穴 不明。 重複 H-21号住居跡を切る。 時期 出土遺物から9世紀と考えられる。 出土遺物 須恵器2点、平瓦1点、土製品(紡錘車)1点、鉄製品(釘)1点を図示した。

H-31号住居跡 (Fig.16, PL.4)

位置 6区。X-9, Y76グリッド。 主軸方位 N-91°-E。 形状等 不明。 東西(1.50)m、南北(3.80)m、壁現高0.26m。 龍 東壁南寄りに付設されている。両袖部には芯材として自然石を使用する。粗粒安山岩。 壁溝 無し。 貯藏穴 不明。 重複 無し。 時期 出土遺物から8世紀と考えられる。 出土遺物 土師器2点、鉄製品(鎌)1点、古錢(元豐通宝)1点を図示した。

H-34号住居跡 (Fig.16, PL.4)

位置 6区。X-6, Y76グリッド。 主軸方位 N-85°-E。 形状等 不明。 東西(3.90)m、南北(4.40)m、壁現高0.06m。竪手前の床下から土坑が1基検出されている。 龍 東壁南寄りに付設されている。 壁溝 不明。 貯藏穴 龍の右脇、南東隅部から1基検出されている。円形。 重複 H-43・44号住居跡、B-1号掘立柱建物跡を切る。 時期 出土遺物から9世紀後半~10世紀前半と考えられる。 出土遺物 貯藏穴付近から遺物がまとまって出土している。須恵器10点を図示した。

H-35号住居跡 (Fig.17, PL.4)

位置 5区。X-25, Y76グリッド。 主軸方位 N-91°-E。 形状等 横長長方形。東西3.84m、南北(3.58)m、壁現高0.10m。 龍 東壁に付設されている。 壁溝 東・西壁際で確認されているが、南壁際では検出されなかった。 貯藏穴 南西隅部から1基検出されている。不整椎円形。 重複 H-9号住居跡に切られる。 時期 出土遺物から9世紀末と考えられる。 出土遺物 須恵器3点、不明鉄製品1点、不明石製品1点を図示した。

H-43号住居跡 (Fig.17, PL.4)

位置 6区。X-6, Y77グリッド。 主軸方位 不明。 形状等 長方形。東西4.70m、南北5.14m、壁現高0.47m。検出された3箇所の主柱穴は、いずれも深く0.78m前後ある。 炉 不明。 壁溝 北・西壁際で確認されている。 貯藏穴 北東隅部から1基検出されている。円形。 重複 D-14号土坑に切られる。 H-42号住居跡とは新旧不明。 時期 出土遺物から4世紀と考えられる。石田川式期。 出土遺物 土師器2点を図示した。

H-45号住居跡 (Fig.17, PL.4)

位置 5区。X-22, Y76グリッド。 主軸方位 N-92°-E。 形状等 横長長方形。北西側に張り出し部をもつ。平面形は、楕円形の土坑と重複しているようにも見えるが、連続した床面をもつ一連の遺構である。東西2.84m、南北3.60m、壁現高0.28m。 龍 東壁南寄りに付設されている。 壁溝 無し。 貯藏穴 無し。 重複 H-19・21・29号住居跡を切り、H-20号住居跡に切られる。 時期 出土遺物から8世紀と考えられる。

H-52号住居跡 (Fig.18, PL.5)

位置 7区。X-6, Y74グリッド。 主軸方位 N-65°-E。 形状等 横長長方形。東西(2.08)m、南

北3.04m、壁現高0.43m。竈 東壁北寄りに付設されている。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。重複 H-54号住居跡を切る。時期 出土遺物から7世紀末～8世紀前半と考えられる。出土遺物 土師器1点、須恵器1点、不明鉄製品1点を図示した。

H-54号住居跡 (Fig.18, PL.5)

位置 7区。X-6、Y73グリッド。主軸方位 不明。形状等 不明。東西(5.40)m、南北(5.40)m、壁現高0.50m。炉 不明。壁溝 北・西壁際で確認されている。貯蔵穴 北西隅部から1基検出されている。円形。重複 H-52、72号住居跡に切られる。時期 出土遺物から4世紀と考えられる。石田川式期。出土遺物 土師器2点を図示した。

H-58号住居跡 (Fig.19, PL.5)

位置 6区。X-0、Y76グリッド。主軸方位 N-105°-E。形状等 不明。東西(1.80)m、南北(2.20)m、壁現高0.12m。竈 東壁に付設されている。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。重複 H-57・59号住居跡に切られる。時期 出土遺物から6世紀と考えられる。出土遺物 土師器1点、土製品(支脚)1点、鉄製品(釘)1点、不明石製品1点を図示した。

H-59号住居跡 (Fig.19, PL.5)

位置 6区。X-0、Y76グリッド。主軸方位 不明。形状等 不明。東西(2.50)m、南北(0.85)m、壁現高0.12m。竈 東壁南よりに付設されている。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。重複 H-58号住居跡を切る。時期 出土遺物から9世紀末～10世紀前半と考えられる。出土遺物 土師器1点、須恵器2点、平瓦1点を図示した。

H-60号住居跡 (Fig.19, PL.5・6)

位置 6区。X-0、Y77グリッド。主軸方位 N-55°-E。形状等 不明。東西(4.80)m、南北(4.00)m、壁現高0.28m。竈 東壁に付設されている。左袖部の先端に立石が遺存する。壁溝 北・東壁際で確認されている。貯蔵穴 不明。重複 H-57号住居跡に切られる。時期 出土遺物から6世紀と考えられる。出土遺物 北西側の床面から、いわゆる薦石と思われる細長い自然石がまとまって出土している。総数25点。大きさは長さ15cm前後、径8cm前後である。土師器1点、石製品(支脚)1点を図示した。

H-64号住居跡 (Fig.19, PL.6)

位置 7区。X-6、Y69グリッド。主軸方位 不明。形状等 不明。東西2.70m、南北(2.20)m、壁現高0.33m。竈 東壁に付設されている。左袖部の先端から、底部を欠損する土師器壺が1点逆位で検出されている。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。重複 H-62号住居跡に切られる。時期 出土遺物から6世紀後半と考えられる。出土遺物 土師器2点を図示した。

H-67号住居跡 (Fig.20, PL.6)

位置 7区。X-7、Y68グリッド。主軸方位 N-100°-W。形状等 正方形。東西3.24m、南北3.20m、壁現高0.54m。竈 西壁南寄りと南壁東寄りの2箇所から検出されている。西壁に付設されているものが住居廃絶時まで使用されていた窓で、南壁のものはすでに埋め戻されて壁の一部となっている。壁溝 ほぼ全周する。貯蔵穴 竈左脇、南西隅部から1基検出されている。円形。重複 J-2号住居跡を切る。時期 出土遺物から6世紀と考えられる。出土遺物 土師器2点、石製品(臼玉、杵鍤車)2点を図示した。

H-68号住居跡 (Fig.20, PL.6)

位置 7区。X-6、Y64グリッド。 主軸方位 不明。 形状等 長方形。東西3.80m、南北4.28m、壁現高0.30m。 窓 不明。 壁溝 北・東壁際と南壁際の一部に確認されている。 貯蔵穴 不明。 重複 H-69号住居跡を切り、H-71号住居跡、D-27号土坑に切られる。 時期 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。 出土遺物 土師器1点、鉄製品（刀子、不明）2点を図示した。

H-70号住居跡 (Fig.20, PL.7)

位置 8区。X-6、Y62グリッド。 主軸方位 不明。 形状等 不明。壁現高0.20m。 窓 東壁に付設されている。 壁溝 不明。 貯蔵穴 窓右脇、南東隅部から1基検出されている。梢円形。 重複 H-69号住居跡とは新旧不明。 時期 出土遺物から9世紀と考えられる。 出土遺物 石製品（紡錘車）1点を図示した。

H-71号住居跡 (Fig.20, PL.6)

位置 7区。X-7、Y64グリッド。 主軸方位 N-66°-E。 形状等 横長長方形。東西(2.90)m、南北3.60m、壁現高0.35m。中央南西側の床下から土坑が1基検出されている。 窓 東壁南寄りに付設されている。 壁溝 北・東壁際の一部に確認されている。 貯蔵穴 窓右脇、南東隅部から1基検出されている。梢円形。 重複 H-68号住居跡を切り、D-27号土坑に切られる。 時期 出土遺物から10世紀前半と考えられる。 出土遺物 灰釉陶器2点、須恵器1点を図示した。

H-73号住居跡 (Fig.20, PL.7)

位置 8区。X 0、Y60グリッド。 主軸方位 N-87°-E。 形状等 不明。東西3.54m、南北2.30m、壁現高0.20m。 窓 東壁に付設されている。燃焼部から瓦が出土している。 壁溝 無し。 貯蔵穴 不明。 重複 H-100号住居跡を切る。 時期 出土遺物から10世紀と考えられる。 出土遺物 土師器1点、須恵器1点を図示した。

H-74号住居跡 (Fig.21, PL.7)

位置 8区。X 1、Y60グリッド。 主軸方位 不明。 形状等 不明。東西2.50m、南北(3.20)m、壁現高0.37m。 窓 東壁に付設されている。 壁溝 西壁際と南壁際の一部に確認されている。 貯蔵穴 不明。 重複 無し。 時期 出土遺物から8世紀と考えられる。 出土遺物 土師器1点、鉄製品（鉄鎌）1点を図示した。

H-77号住居跡 (Fig.21, PL.7)

位置 8区。X 2、Y61グリッド。 主軸方位 不明。 形状等 不明。壁現高0.30m。 窓 南壁に付設されている。 壁溝 不明。 貯蔵穴 不明。 重複 H-78号住居跡を切り、H-76号住居跡に切られる。 時期 出土遺物から8世紀後半～9世紀初頭と考えられる。 出土遺物 須恵器1点を図示した。

H-79号住居跡 (Fig.21, PL.-)

位置 8区。X 3、Y60グリッド。 主軸方位 N-125°-E。 形状等 不明。東西(2.00)m、南北(1.80)m、壁現高0.32m。 窓 東壁に付設されている。 壁溝 不明。 貯蔵穴 不明。 重複 H-80号住居跡を切る。 時期 出土遺物から10世紀と考えられる。 出土遺物 土師器1点、須恵器1点、灰釉陶器1点、羽釜1点を図示した。

H-80号住居跡 (Fig.21, PL.7)

位置 8区。X 3、Y60グリッド。 主軸方位 N-92°-E。 形状等 横長長方形。東西3.48m、南北(3.75)m、壁現高0.24m。 窓 東壁南寄りに付設されている。 壁溝 不明。 貯蔵穴 窓右脇、南東隅部から1基検出されている。円形。 重複 H-81号住居跡を切り、H-79号住居跡に切られる。 時期

出土遺物から8世紀と考えられる。出土遺物 土師器1点、石製品（白玉）1点を図示した。

H-83号住居跡 (Fig.22, PL.8)

位置 8区。X 6、Y60グリッド。主軸方位 不明。形状等 不明。東西(2.50)m、南北(4.90)m、壁現高0.14m。竈 東壁に付設されている。壁溝 不明。貯蔵穴 不明。重複 H-92・93号住居跡に切られる。時期 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。出土遺物 土師器1点、灰釉陶器1点、鉄製品（釘、不明）5点を図示した。

H-85号住居跡 (Fig.22, PL.8)

位置 8区。X 6、Y60グリッド。主軸方位 不明。形状等 不明。東西3.20m、南北(2.00)m、壁現高0.24m。竈 不明。壁溝 不明。貯蔵穴 不明。重複 D-37号土坑を切り、H-86号住居跡に切られる。時期 出土遺物から9～10世紀と考えられる。出土遺物 土師器1点、鉄製品（釘、鉄鎌）2点を図示した。

H-86号住居跡 (Fig.22, PL.8)

位置 8区。X 7、Y60グリッド。主軸方位 不明。形状等 不明。東西(2.80)m、南北(0.66)m、壁現高0.30m。竈 不明。壁溝 不明。貯蔵穴 不明。重複 D-37号土坑を切り、H-85号住居跡に切られる。時期 不明。出土遺物 土師器1点、平瓦1点を図示した。

H-87号住居跡 (Fig.22, PL.8)

位置 8区。X 7、Y59グリッド。主軸方位 N-75°-E。形状等 不明。東西3.40m、南北(2.86)m、壁現高0.24m。竈 東壁中央南寄りに付設されている。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。重複 H-98号住居跡を切る。時期 出土遺物から9世紀と考えられる。出土遺物 土師器1点、須恵器1点を図示した。

H-88号住居跡 (Fig.22, PL.8)

位置 8区。X 9、Y59グリッド。主軸方位 N-96°-E。形状等 縦長方形。東西3.80m、南北3.10m、壁現高0.22m。竈 東壁南寄りに付設されている。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。重複 H-91号住居跡を切る。内面に粘土を貼り付けた土坑によって切られる。時期 出土遺物から10世紀と考えられる。出土遺物 灰釉陶器2点を図示した。

H-89号住居跡 (Fig.23, PL.8)

位置 8区。X 8、Y59グリッド。主軸方位 N-87°-E。形状等 横長長方形。東西3.30m、南北4.40m、壁現高0.14m。竈 東壁中央南寄りに付設されている。壁溝 西壁際に確認されている。貯蔵穴 無し。重複 H-90・98号住居跡を切る。時期 出土遺物から8世紀～9世紀後半と考えられる。出土遺物 須恵器1点、鉄製品（刀子、火打金）2点、土製品（土鍤）1点を図示した。

H-98号住居跡 (Fig.23・24, PL.9)

位置 8区。X 8、Y59グリッド。主軸方位 N-58°-E。形状等 不明。東西4.32m、南北(3.00)m、壁現高0.26m。竈 東壁と西壁の2箇所から検出されている。西壁に付設されているものが住居廃絶時まで使用されていた竈で、東壁のものはすでに埋め戻されている。燃焼部中央に支脚が1本立った状況で遺存する。壁溝 無し。貯蔵穴 竈左脇、北東隅部から1基検出されている。隅丸長方形。重複 H-87・89号住居跡に切られる。時期 出土遺物から6世紀後半～7世紀と考えられる。出土遺物 土師器4点、鉄製品（刀子）1点を図示した。

H-99号住居跡 (Fig.24, PL.9)

位置 8 区。X21、Y58 グリッド。 主軸方位 N-50°-E。 形状等 横長長方形。東西3.48m、南北3.90m、壁高0.62m。 窓 東壁南寄りに付設されている。燃焼部中央から底部を欠損した土師器窓が逆位で出土している。両袖部の先端には石を抜いたと思われる抜き取り穴が残る。 壁溝 窓を除き、全周する。 貯蔵穴 無し。 重複 A-4号道路状遺構に切られる。 時期 出土遺物から7世紀後半～8世紀と考えられる。 出土遺物 土師器4点、須恵器2点を図示した。

第2節 挖立柱建物跡

掘立柱建物跡は1棟検出されている。

B-1号掘立柱建物跡 (Fig.25, PL.10)

位置 6・7区。X-6・-7、Y75・76グリッド。 形状等 東西棟の総柱建物である。平面形はほぼ正方形を呈し、規模は東西3間(4.05m)×南北2間(3.90m)である。柱間寸法は、東西1.35m等間、南北は北から1.65m、2.25mである。 主軸方位 N-63°-E。 面積 15.80m²。 柱穴 円形。直径0.90m前後、深さ0.19～0.65m。 重複 H-34・44号住居跡に切られ、H-53号住居跡を切る。 時期 時期を確認できる遺物の出土はないが、遺構の重複関係から大まかに6世紀～9世紀前半と考えられる。

第3節 積穴状遺構

積穴住居跡に該当しない方形に掘り込まれた遺構を積穴状遺構とした。6区と8区からそれぞれ1基ずつ検出されている。時期や性格を示すような遺物の出土はない。規模などの詳細については積穴状遺構一覧表 (Tab.6) に示したとおりである。

第4節 性格不明遺構

比較的規模が大きく不整形な遺構を性格不明遺構とした。5基検出されている。X-2・4号性格不明遺構は縄文時代、ほか2基は古墳時代以降の所産と思われる。遺構の性格を示唆するような遺物の出土はない。規模などの詳細については性格不明遺構一覧表 (Tab.7) に示したとおりである。

第5節 道路状遺構

道路状遺構は4条検出されている。

このうちA-3号道路状遺構は両側に側溝をもつ大規模な道路である。7区から検出されている。確認された規模は、全長5.30m、全幅5.00m、道幅2.90～3.40mで、側溝は上幅0.60～1.35m、深さ0.50mである。主軸方位はN-77°-Eを示す。時期特定可能な遺物の出土がないため、具体的な機能年代については不明であるが、周辺に高密度で分布する遺構群とまったく重複がみとめられないことから、時期幅をもって継続的に利用されていた可能性がある。

A-1・2・4号道路状遺構については、いずれも帯状に延びる硬化面として検出されている。これらは

重複する遺構をすべて切っており、比較的新しい遺構の可能性がある。規模などの詳細については道路状況一覧表 (Tab.8) に示したとおりである。

第6節 溝 跡

溝跡は8条検出されている。調査区の幅が狭いため全貌が把握できるものはないが、W-2号溝跡を除き、いずれも東西南北を考慮して構築されているようである。規模などの詳細については溝跡一覧表 (Tab.9) に示したとおりである。

第7節 土 坑

土坑は24基検出されている。概して出土遺物が乏しく、時期や性格が把握できるものは少ない。各土坑の規模などについては土坑一覧表 (Tab.10) に示したとおりである。

第VII章 まとめ

本遺跡からは、縄文時代前・中期、古墳時代前・後期、奈良・平安時代の各時代にわたる資料が得られておりが、量的な主体を占めるのは6世紀から10世紀にかけての遺構と遺物である。

本遺跡は、四府推定城の北西側に近接して位置する。このため、ここでは近隣の遺跡で適用されている従来の時期区分にしたがい、I期（～7世紀前半、律令期以前）、II期（7世紀後半～10世紀初頭、律令期）、III期（10世紀前半～、律令期以後）の3時期に大別して集落跡を概観する。

I期（～7世紀前半）

縄文時代の遺構は、堅穴住居跡3軒、性格不明遺構2基が検出されている。遺構の時期は、諸磯b・c式期、加曾利E4式期で、いずれも調査区内においては散発的な検出状況にある。

古墳時代前期の遺構は、堅穴住居跡3軒である。6・7区に位置するもので、調査区中央付近から近接して検出されている。4世紀代の遺物は、1・4・8区を除いた各区から出土がみられるが、量的には6・7区がもっと多く、該期の集落跡は同付近を中心として展開するものと思われる。

本期の主体をなすのは6世紀から7世紀前半の時期である。この時期に該当する堅穴住居跡は16軒あり、6・7区を中心として広範に分布がみられる。竈は東壁に付設されるものが大半であるが、II-67・98号住居跡の2軒だけは例外的に西壁に付設されている。この2軒は、竈の造り替えがなされており、廃絶される最終段階で使用されていたのが西壁の竈である。造り替え以前の竈は、H-67号住居跡が南壁、H-98号住居跡が東壁に付設されていた。

II期（7世紀後半～10世紀初頭）

本期の堅穴住居跡は38軒あり、調査区のほぼ全域にわたって分布がみられる。このうち、7世紀後半に特定できる堅穴住居跡は確認されておらず、そのほとんどが8・9世紀を中心とするものである。遺構の全貌がわかるものは少ないが、いずれも竈は北東から東側に向けて付設されている。

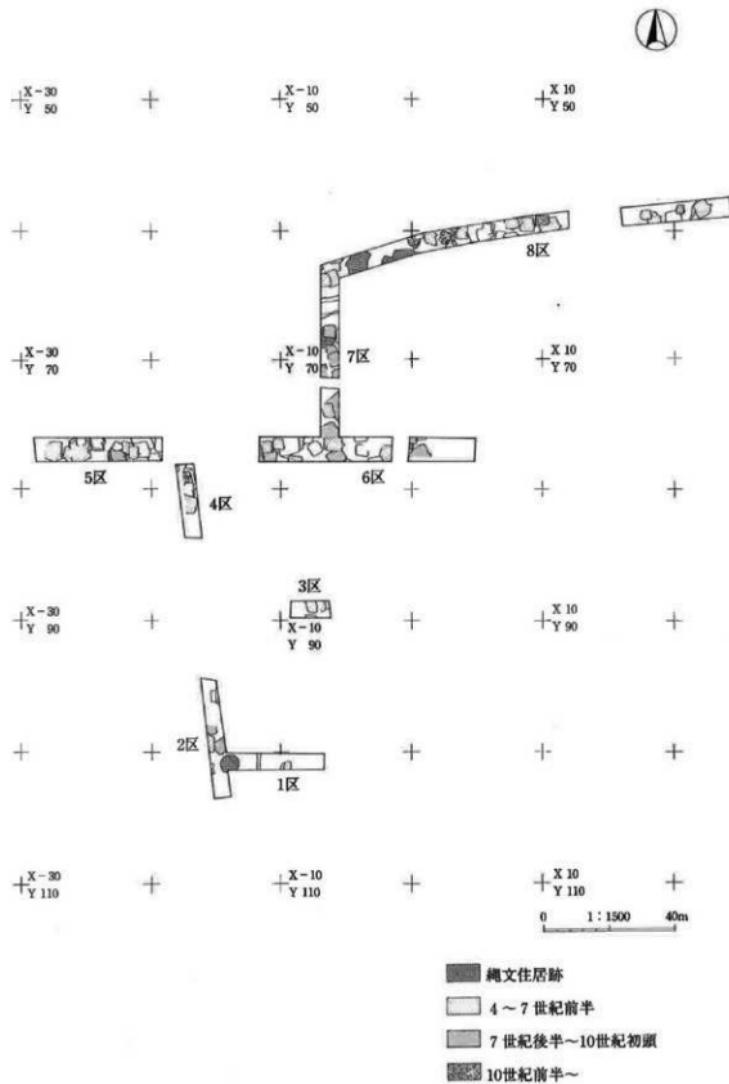


Fig.6 堪穴住居跡時期別配置図 (1:1,500)

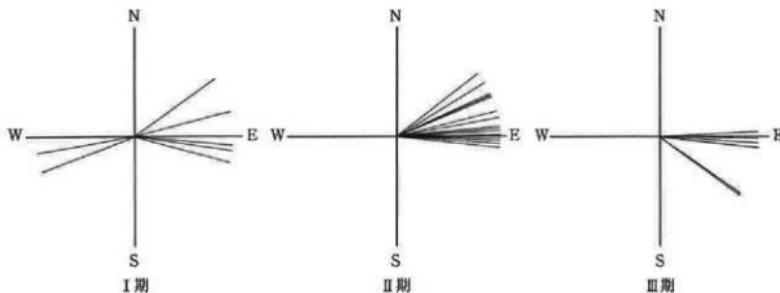


Fig.7 時期別の竪穴住居跡の主軸方向

III期（10世紀前半～）

本期の竪穴住居跡は8軒検出されており、調査区の中央から北側にかけて広範な分布状況を示す。確認できる竪穴住居跡をみる限り、主軸方位はN-90°-Eを中心まとまりをみせるが、このうちH-76・79号住居跡の2軒だけはN-125°-E方向を指向している。

本遺跡から検出された遺構の中で、特に注意すべき遺構としてA-3号道路状遺構がある。両側に側溝をもつ内法2.90～3.40mの大規模な道路で、ほぼ東西方向(N-77°-E)に延びる。時期特定可能な遺物の出土がないため、具体的な機能年代については不明であるが、周辺に高密度で分布するI～II期の遺構群とまったく重複がみられないことから、ある程度の時期幅をもって集落内で継続的に機能していたものと考えられる。同遺構は、断片的にその一部が検出されているだけで、これまでに発掘調査が行われた近隣遺跡でも、これに連続すると思われる遺構は検出されていない。全貌は不明ながら、同遺構が検出された地点からみて、国府域の北端と国分僧寺・尼寺の南側を通る東西方向の主要道路のひとつであった可能性も考えられる。同遺構を含め、当地域の古代道路網については、今後の調査例の増加をまってあらためて検討を加える必要があろう。

参考文献

- 前橋市史編さん委員会 1971 『前橋市史』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999 『総社開泉明神北遺跡』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001 『五代江戸屋敷遺跡』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001 『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺跡確認調査Ⅱ』
- 前橋市教育委員会 1988 『芳賀東部団地遺跡Ⅱ—古墳—平安時代編 その2—』
- 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)』
- 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)』
- 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(5)』
- 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(8)』

Tab.2 積穴住居跡（縄文）一覧表

遺構名	位置			規模(m)	平面形状	朝	壁 構 造	貯藏 穴	主な出土遺物	掲載遺物 番号	時期	
	地区	グリッド	東西	南北	壁高							
J-1	1区	X-14, Y101	4.76	(4.60)	0.40	円形	無	無	南東	深鉢、石鑑	1~6	説明b式期
J-2	7区	X-7, Y68	(3.50)	(3.10)	0.25	-	無	無	-	深鉢	7~8	加曾利E式期
J-3	欠番											
J-4	8区	X-1, Y61	(6.64)	(3.10)	0.60	方形か	有	有	-			

Tab.3 積穴住居跡（古墳～平安）一覧表(1)

遺構名	位置			規模(m)	平面形状	主方位	壁	壁 構 造	貯藏 穴	主な出土遺物	掲載遺物 番号	時期	
	地区	グリッド	東西	南北	壁高								
H-1	2区	X-15, Y100	4.03	3.54	0.45	正方形	-	-	有	-		6C前	
H-2	2区	X-16, Y101	(0.90)	(3.40)	0.12	-	-	-	無	-		9C	
H-3	5区	X-26, Y77-77	5.84	6.28	0.42	正方形	N-96°-E	東	無	無	釘、引手	15~19	8C
H-4	5区	X-26, Y76	(2.90)	(1.90)	0.15	-	-	-	無	-	灰陶陶器壺・水瓶	20~23	10C
H-5	5区	X-26, Y76	(2.20)	(1.60)	0.27	-	-	-	無	-		9C	
H-6	5区	X-27, Y77	(2.10)	4.40	0.19	-	-	-	無	-		8C	
H-7	5区	X-27, Y78	(2.50)	(1.40)	0.38	-	-	-	無	-			
H-8	5区	X-28, Y76-77	(4.52)	5.20	0.25	-	N-94°-E	東	無	無	丸瓦、連續、筋織席	24~28	8C
H-9	5区	X-25, Y76	3.48	(3.64)	0.34	横訛長方形	N-94°-E	東	無	無	灰陶陶器段壺	29~31	10C前～中
H-10	3区	X-8, Y89	5.30	(3.40)	0.31	-	N-76°-E	東	無	-		6C後～7C前	
H-11	3区	X-7, Y89	(2.50)	(3.10)	0.32	-	-	-	無	-	円面鏡	32~43	6C末～7C前
H-12	欠番												
H-13	3区	X-8, Y89	(4.50)	(1.80)	0.30	-	-	-	無	-	刀子	44	
H-14	2区	X-16, Y99	(2.03)	4.53	0.40	-	-	-	有	-		9C	
H-15	4区	X-17, Y81	(2.90)	(1.70)	0.10	-	-	-	無	-		8~9C	
H-16	4区	X-18, Y80	2.58	3.86	0.38	横長方形	N-91°-E	東	無	南東	丸瓦、錐	45~48	9~10C
H-17	4区	X-17, Y80	(0.70)	(2.30)	0.15	-	-	-	無	-		9~10C	
H-18	4区	X-18, Y79	(2.85)	(2.30)	0.23	-	-	-	無	-		10C	
H-19	5区	X-23, Y77	4.10	(4.40)	0.55	横長方形	N-98°-E	東	無	-	不明鉄製品	49~51	6C後～7C前
H-20	5区	X-22, Y77	2.64	3.82	0.21	横長方形	N-89°-E	東	無	無	釘	52~53	9C後～10C前
H-21	5区	X-21, Y76-77	4.48	8.96	0.32	正方形	N-95°-E	東	有	南東	白玉	54~60	7C前
H-22	4区	X-18, Y78	2.65	(3.40)	0.22	横長方形	N-85°-E	東	無	-			
H-23	5区	X-20, Y77	3.65	(2.20)	0.16	-	-	-	無	-	平瓦、釘	61~65	9C
H-24	6区	X-12, Y77	-	-	-	-	-	-	東	無	-	7C	
H-25	6区	X-11, Y77	(5.60)	(4.40)	0.47	-	-	-	伊	有	北東	4C	
H-26	6区	X-11, Y76	2.80	3.24	0.68	横長方形	N-85°-E	東	無	南東		7C後～8C初	
H-27	4区	X-18, Y78	(2.10)	(1.10)	0.20	-	-	-	有	-		10Cか	
H-28	2区	X-16, Y98	(2.80)	(1.80)	0.35	-	-	-	無	-		6C後～7C前	
H-29	5区	X-21, Y76	6.34	(3.36)	0.31	-	-	-	無	-			
H-30	欠番												
H-31	6区	X-9, Y76	(1.50)	(3.80)	0.26	-	N-91°-E	東	無	-	環、占綴(元豊通宝)	66~69	8C
H-32	6区	X-11, Y76	2.85	3.26	0.47	長方形	-	無	無	無		9C	
H-33	欠番												
H-34	6区	X-6, Y76	(3.90)	(4.40)	0.06	-	N-85°-E	東	-	南東	耳皿	70~79	9C後～10C前
H-35	5区	X-25, Y76	3.84	(3.58)	0.10	横長方形	N-91°-E	東	有	南西	不明鉄製品	80~84	9C末
H-36	6区	X-10, Y77	(0.70)	(1.80)	0.24	-	-	-	-	-			
H-37	欠番												
H-38	6区	X-10, Y76	5.50	(5.60)	0.62	-	N-74°-E	東	有	南東			
H-39	欠番												
H-40	6区	X-8, Y76	2.50	(1.66)	0.20	-	-	-	有	-			
H-41	5区	X-20, Y76	(1.78)	4.14	0.37	-	-	-	無	-			
H-42	6区	X-5, Y77	(1.10)	(0.34)	0.20	-	-	-	-	-			
H-43	6区	X-6, Y77	4.70	5.14	0.47	長方形	-	有	北東	白付甕	85~86	4C	

Tab.4 積穴住居跡（古墳～平安）一覧表（2）

遺構名	位 置			規 模 (m)		平面形状	主軸方位	施	壁	窓	柱	主な出土遺物	揭露遺物番号	時 期
	地区	グリッド	東西	南北	壁高									
H-44	5区	X-7, Y77	(0.70)	(3.20)	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	9C
H-45	5区	X-22, Y76	2.84	3.60	0.28	横長方形	N-92°-E	東	無	無	-	-	-	8C
H-46	欠番													
H-47	6区	X-2, Y77	(3.10)	(4.40)	0.32	-	-	-	-	-	-	-	-	10C前
H-48	6区	X-3, Y77	(4.20)	(1.20)	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-	
H-49	6区	X-4, Y76	(3.00)	(1.20)	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	
H-50	6区	X-4, Y77	(3.50)	(3.20)	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	
H-51	2区	X-15, Y95	(1.80)	(3.50)	0.12	-	-	-	-	-	-	有	-	
H-52	7区	X-6, Y74	(2.06)	3.04	0.43	横長方形	N-65°-E	東	無	無	不明鉄製品	87~89	7C末~8C前	
H-53	7区	X-7, Y75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6C後
H-54	7区	X-6, Y73	(5.40)	(5.40)	0.50	-	-	-	有	北西	坪、台付甕	90~91	4C	
H-55	1区	X-10, Y101	(2.62)	(2.43)	0.21	横長方形	N-91°-E	東	無	-	-	-	-	10C前
H-56	6区	X-9, Y77	3.90	(1.30)	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	9C
H-57	6区	X-1, Y77	(1.60)	(3.90)	0.49	-	N-91°-E	東	無	南東	-	-	-	10C
H-58	6区	X0, Y76	(1.80)	(2.20)	0.12	-	N-105°-E	東	無	-	釘、土製文脚	92~95	6C	
H-59	6区	X0, Y76	(2.50)	(0.85)	0.12	-	-	東	無	-	平瓦	96~99	9C末~10C前	
H-60	6区	X0, Y77	(4.80)	(4.00)	0.28	-	N-55°-E	東	無	石製支脚	100~101	6C		
H-61	7区	X-6, Y71	(1.80)	(1.80)	0.49	-	-	-	無	-	-	-	-	6C
H-62	7区	X-6, Y70	(3.50)	3.50	0.60	正方形	-	-	有	-	-	-	-	6C後
H-63	7区	X-7, Y71	(2.40)	(3.40)	0.53	-	-	-	無	-	-	-	-	6Cか
H-64	7区	X-6, Y69	2.70	(2.20)	0.33	-	-	東	無	-	-	102~103	6C後	
H-65	欠番													
H-66	7区	X-6, Y68	(0.70)	4.30	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-	
H-67	7区	X-7, Y68	3.24	3.20	0.54	正方形	N-109°-W	西	有	南西	臼玉、輪車	104~107	6C	
H-68	7区	X-6, Y64	3.80	4.28	0.30	長方形	-	-	有	-	刀子。不明鉄製品	108~110	9C後~10C前	
H-69	8区	X-6, Y63	(2.20)	(3.10)	0.14	-	-	東	無	無	-	-	-	9C
H-70	8区	X-6, Y62	-	-	0.20	-	-	東	-	南東	竹鍼車	111	9C	
H-71	7区	X-7, Y64	(2.90)	3.60	0.35	横長方形	N-66°-E	東	有	南東	灰陶陶器輪	112~114	10C前	
H-72	7区	X-6, Y72	-	-	0.45	-	-	-	-	-	-	-	-	
H-73	8区	X0, Y60	3.54	2.30	0.20	-	N-87°-E	東	無	-	-	115~116	10C	
H-74	8区	X1, Y60	2.50	(3.20)	0.37	-	-	東	有	-	砍齒	117~118	8C	
H-75	欠番													
H-76	8区	X2, Y60	(3.20)	2.86	0.34	-	N-126°-B	南	-	-	-	-	-	10C
H-77	8区	X2, Y61	-	-	0.30	-	-	南	-	-	-	119	8C後~9C初	
H-78	8区	X2, Y61	(3.20)	(3.90)	0.17	-	N-79°-E	東	有	-	-	-	-	8C
H-79	8区	X3, Y60	(2.00)	(1.80)	0.32	-	N-125°-E	東	-	-	灰陶陶器輪、羽釜	120~123	10C	
H-80	8区	X3, Y60	3.48	(3.75)	0.24	横長方形	N-92°-E	東	-	南東	臼玉	124~125	8C	
H-81	8区	X3, Y60	4.40	3.80	0.30	長方形	-	-	無	無	-	-	-	
H-82	欠番													
H-83	8区	X6, Y60	(2.50)	(4.90)	0.14	-	-	東	-	-	灰陶陶器輪、釘	126~132	9C後~10C前	
H-84	8区	X16, Y58	2.70	2.04	0.40	縦長方形	N-84°-E	東	無	無	-	-	-	9C
H-85	8区	X6, Y60	3.20	(2.00)	0.24	-	-	-	-	-	釘、鐵錐	133~135	9~10C	
H-86	8区	X7, Y60	(2.80)	(0.66)	0.30	-	-	-	-	-	平瓦	136~137		
H-87	8区	X7, Y59	3.40	(2.86)	0.24	-	N-75°-E	東	無	-	-	138~139	9C	
H-88	8区	X9, Y59	3.80	3.10	0.25	縱長方形	N-96°-E	東	無	無	灰陶陶器設置、板瓦	140~141	10C	
H-89	8区	X8, Y59	3.30	4.40	0.14	横長方形	N-87°-E	東	有	無	刀子、火打金、土鍬	142~145	8C~9C後	
H-90	8区	X9, Y61	(1.60)	(2.00)	0.29	-	-	東	-	-	-	-	-	
H-91	8区	X10, Y59	5.10	(3.50)	0.37	-	N-64°-E	東	有	-	-	-	-	
H-92	8区	X5, Y59	(2.70)	(3.10)	0.20	-	-	東	-	-	-	-	-	
H-93	8区	X5, Y60	(2.50)	(3.60)	0.28	-	-	東	-	-	-	-	-	
H-94	7区	X-7, Y70	-	-	-	-	-	東	-	-	-	-	-	

Tab.5 穫穴住居跡（古墳～平安）一覧表（3）

遺構名	位置			規模 (m)	平面形状	主軸方位	備 考	貯藏穴	主な出土遺物	揭露遺物 番号	時期
	地区	グリッド	東西	南北	壁高						
H-95 8区	X17、Y59		3.34	2.80	0.40	縦長長方形	N-57°-E	東右 壁 有	無		BC後
H-96 欠番											
H-97 8区	x19、Y58		2.00	1.92	0.35	正方形	N-91°-E	東 無	無		6C後
H-98 8区	X8、Y59		4.32	(3.00)	0.26	-	N-111°-W	東 無 北東	刀子	146-150	6C後～7C
H-99 8区	X21、Y58		3.48	3.90	0.62	横長長方形	N-50°-E	東 右 壁 有	無	151-156	7C後～8C
H-100 8区	X9、Y60		(3.00)	(0.90)	0.46	-	-	-	南東		

Tab.6 穫穴状造構一覧表

遺構名	位置			規模 (m)	平面形状	時 期	備 考			
	地区	グリッド	東西	南北	壁高					
T-1 6区	X-8、Y77		3.10	3.30	0.25	正方形			南西側の床面約1/4が一段低くなる、比高0.30m	
T-2 8区	X18、Y58		4.26	2.90	0.11	-			H-97に切られる	

Tab.7 性格不明造構一覧表

遺構名	位 置			規 模 (m)	平面形状	時 期	備 考			
	地区	グリッド	東西	南北	壁高					
X-1 2区	X-15、Y95		(0.80)	(6.10)	0.07	-			H-51を切り、D-23に切られる。	
X-2 5区	X-24、Y77		(1.70)	(3.40)	0.25	-	加曾利E4式期		H-19に切られる	
X-3 8区	X-4、Y63		6.20	7.10	0.46	不整形				
X-4 8区	X-2、Y62		(3.70)	(1.94)	1.20	-	諸穂 C 式期	底面は西側が低い、比高0.65m、J-04を切る		
X-5 8区	X0、Y61		(2.00)	(3.50)	(0.85)	不整形			底面は階段状に北へ下がる、H-100を切り、H-73に切られる	

Tab.8 道路状造構一覧表

遺構名	位 置			規 模 (m)	主軸方位	備 溝	時 期	備 考
	地区	グリッド	全長	幅幅	深さ			
A-1 5区	X-21、Y77		(5.50)	0.40	-	N-89°-E	無	帶状に延びる硬化面、H-19・23を切る
A-2 6区	X-10-11、Y77		(9.70)	0.90	-	N-88°-E	無	帶状に延びる硬化面、H-24～26・32、D-21を切る
A-3 7区	X-6・7、Y66		(5.30)	5.00	0.50	N-77°-E	有	両側に側溝をもつ内法2.90～3.40m幅の道、側溝は上側0.60～1.35m、深さ0.50m
A-4 8区	X-21-22、Y57～59		(5.38)	0.60	-	N-0°-E	無	帶状に延びる硬化面、H-99を切る

Tab.9 清跡一覧表

遺構名	位 置			規 模 (m)	主軸方位	時 期	備 考
	地区	グリッド	全長	上幅	深さ		
W-1 1区	X-15、Y103		-	-	-	N-84°-W	
W-2 1-2区	X-9、Y101、X-15、Y98		(39.50)	2.30	0.95	N-54°-W	
W-3 欠番							
W-4 1区	X-12、Y101		(5.03)	0.78	0.25	N-0°-E	
W-5 3区	X-7、Y89		5.19	1.56	1.65	N-8°-E	H-11・12・13を切る
W-6 欠番							
W-7 4区	X-18、Y78～83		(22.30)	(1.65)	0.35	N-4°-W	H-15・16・18、D-24を切る
W-8 欠番							
W-9 欠番							
W-10 6区	X-0～5、Y77		(27.40)	(1.90)	(0.50)	-	東西方向から北側へ「L」字状に屈曲する、H-60を切る
W-11 欠番							
W-12 8区	X22、Y58		(5.70)	1.50	0.36	N-15°-W	
W-13 8区	X-3、Y61-62		(5.50)	0.65	0.20	N-0°-E	
W-14 欠番							
W-15 欠番							

Tab.10 土坑一覧表

造標名	位 置		規 模 (m)			平 面 形 状	時 期	備 考
	地 区	グリッド	長 軸	短 軸	深 底			
D-1	3区	X-9, Y89	1.30	1.20	0.16	円形		
D-2	欠番							
D-3	欠番							
D-4	欠番							
D-5	欠番							
D-6	欠番							
D-7	欠番							
D-8	欠番							
D-9	欠番							
D-10	5区	X-23, Y76	0.62	0.44	0.12	椭円形		
D-11	5区	X-24, Y77	0.70	0.63	0.20	円形		
D-12	5区	X-23, Y76	3.30	3.00	0.53	不整形	H-19を切る	
D-13	欠番							
D-14	6区	X-6, Y77	2.84	1.45	0.60	長方形	10C	H-43を切り、H-34に切られる
D-15	6区	X-3, Y77	0.75	0.72	0.56	円形		
D-16	6区	X-3, Y76	0.68	0.50	0.19	円形		
D-17	6区	X-2, Y76	0.70	0.66	0.34	円形		
D-18	欠番							
D-19	6区	X-5, Y76	0.46	0.45	0.06	円形	H-49を切る	
D-20	欠番							
D-21	6区	X-10, Y77	1.12	0.78	0.23	不整形	H-38を切り、H-32に切られる	
D-22	1区	X-11, Y101	(1.40)	1.58	0.25	—		
D-23	2区	X-15, Y96	0.65	(0.45)	0.10	—	X-1を切る	
D-24	4区	X-18, Y78	(1.64)	(0.68)	0.22	椭円形か	馬骨出土、W-7に切られる	
D-25	欠番							
D-26	8区	X-5, Y62	0.76	0.66	0.30	円形		
D-27	7区	X-7, Y64	0.86	0.58	0.93	椭円形	H-68・71を切る	
D-28	8区	X-2, Y61	0.80	0.70	0.23	円形		
D-29	8区	X-2, Y61	0.94	0.84	0.22	円形		
D-30	8区	X-2, Y61	1.00	0.79	0.22	円形		
D-31	8区	X-2, Y61	0.78	0.72	0.80	円形		
D-32	8区	X-2, Y62	0.80	0.78	0.61	円形		
D-33	欠番							
D-34	欠番							
D-35	8区	X-5, Y59	0.64	(0.38)	0.57	—		
D-36	7区	X-7, Y63	(1.20)	—	0.20	椭円形か		
D-37	8区	X6, Y60	(4.00)	2.04	0.84	不整形	H-85に切られる	
D-38	欠番							
D-39	8区	X19, Y59	0.66	0.59	0.36	円形		
D-40	欠番							

Tab.11 捕文時代 遺物観察表

番号	遺跡番号 出土位置	器種 種別	①口径②器高 ③底径	④胎土⑤焼成⑥色調⑦遺存度	器形の特徴・整形・調整技法	備考
1	J-1-1 埋土	深鉢 縹文土器	①-③-③-	①粗粒・礫②焼成良好③暗褐色④破片	器形：口縁部は液状となり、底部は中空の角状となる。内崩壊した後に口唇部で外反する。文様：集合沈振による横線、矢作型。一部に斜縞文。	縞模b式
2	J-1-2 埋土	深鉢 縹文土器	①-②-③-	①粗粒・礫②焼成良好③暗褐色④破片	器形：口縁部は液状となり、内崩壊した後に口唇部で外反する。文様：集合沈振による横線、液泡型。	縞模b式
3	J-1-3 埋土	深鉢 縹文土器	①-③-③-	①粗粒・礫②焼成良好③暗褐色④破片	器形：口縁部は液状となる。脚部は「く」の字状に屈曲する。文様：斜縞文を地文とする。集合沈振による横線、縦位の短縞。	縞模b式
4	J-1-4 埋土	深鉢 縹文土器	①-②-③-	①粗粒・礫②焼成良好③暗褐色④破片	器形：綾妙に上延、文様：斜縞文を地文とする。集合沈振による横線、「X」字文、縦位の短縞。	縞模b式
5	J-1-5 埋土	石器 石器	全長：2.0、幅：1.9、厚さ：0.5、石材：黒曜石、重さ：0.10g	未認定品。抉りと刃部に微調整を開始している。		
6	J-1-6 埋土	不明石製品	全長：7.7、幅：6.3、厚さ：2.4、石材：砂岩、遺存度：完形、重さ：56.77g	扁平な凸円錐の上半部2/3割り洋漆形とし、上部の側面左右より切込を入れ、頭部を形成する。表面は頭部の中央部に長軸方向に先行する節理面があり、この両面を浅く削り取っている。裏面は節理面の片側を削っている。		
7	J-2-1 埋土	深鉢 縹文土器	①(40.0)②-③-	①粗粒・礫②焼成良好③暗褐色④1/3	器形：キャリバー形。文様：地文が斜縞文。上半部が2/3の平行沈振と削り穴による液状文、沈振による底面文。下半部が沈振による逆「U」字状の区画、両面内に沈振による底面文。	加曾利E4式
8	J-2-2 埋土	深鉢 縹文土器	①(41.2)②-③-	①粗粒・礫②焼成良好③暗褐色④1/3	器形：キャリバー形。文様：地文が斜縞文、口縁部が比較的深緑による椭円形の区画文。脚部が沈振を重ねさせた底面純文。	加曾利E4式
9	遺跡外-1 8区	石器 石器	全長：1.5、幅：1.2、厚さ：0.2、石材：黒曜石、重さ：0.30g、遺存度：完形	凹基無茎課。		
10	遺跡外-2 7区	石器 石器	全長：1.6、幅：1.5、厚さ：0.2、石材：黒曜石、重さ：0.50g、遺存度：完形	凹基無茎課。		
11	遺跡外-3 7区	石器 石器	全長：(1.8)、幅：1.3、厚さ：0.2、石材：チャート、重さ：3.30g、遺存度：先端部欠損	凹基無茎課。		
12	遺跡外-4 7区	石器 石器	全長：2.8、幅：1.2、厚さ：0.2、石材：黑色密緻安山岩、重さ：0.30g、遺存度：完形	凹基有茎課。		
13	遺跡外-5 7区	石器 石器	全長：(3.4)、幅：1.7、厚さ：0.6、石材：頁岩、重さ：13.30g、遺存度：先端部欠損	薄い擬長脚片の両側縁に片面からの彫細な押圧削離を施す。		
14	遺跡外-6 8区	石器 石器	全長：(3.5)、幅：4.2、厚さ：0.7、石材：黒曜石、重さ：5.40g、遺存度：つまみ部先端欠損	傾型。		

Tab.12 古墳～平安時代 遺物観察表 (1)

番号	遺跡番号 出土位置	器種 種別	①口徑②器高 ③底径	④胎土⑤焼成⑥色調⑦遺存度	器形の特徴・整形・調整技法	備考
15	H-3-1 埋土	环 土管器	①(10.8)②(6.1)③(8.0)	④粗粒・片岩⑤焼成⑥明褐色⑦4/1	口縁部：やや内傾、横振で。体部外面：無調整。体部内面：横振で。底部：平底状、削り。	見込みに焼成後の線刻。
16	H-3-2 埋土	环 土管器	①12.4②3.3③-	④粗粒⑤焼成⑥明赤褐色⑦2/3	口縁部：直立後傾で。体部外面：無調整。体部内面：横振で。底部：丸底、削り。	
17	II-3-3 埋土	甕 土罐器	①(15.0)②(16.4)③-	④中粒・礫⑤焼成⑥淡黄褐色⑦4/1	口縁部：やや外傾、横振で。脚部外面：寛削り。脚部内面：集合痕、削り。	
18	H-3-4 埋土	針 鍼製品	全長：(5.6)、所面：幅0.7×厚さ0.6、重さ：11.78g、遺存度：先端部欠損	断面：断じ後、逆「L」字形に折り曲げる。断面：矩形。		
19	H-3-5 埋土	引手 鍼製品	全長：12.3、断面：幅0.9×厚さ0.9、所面：1.3~1.4、重さ：67.76g、遺存度：完形	形状：「く」の字形状引手。断面：矩形。		
20	II-4-1 埋土	高台付环 土罐器	①12.2②5.2③5.6	④中粒・雲母⑤焼成⑥暗褐色⑦3/4	焼成形状。口縁部：外反。底部：高台、糸切り。	見込みに焼成後の線刻。
21	H-4-2 床点	灰 灰陶陶器	①12.5②6.3③4.1	④中粒⑤泥元や甘い⑥胎土：灰白色、釉：淡褐色⑦5/6	焼成形状。液け掛け。口縁部：外反。底部：三日月窓、糸切り。	

Tab.13 古墳～平安時代 遺物観察表 (2)

番号	造営番号 出土位置	器種 種別	①口徑②器高 度	①鉢上②焼成③色調④遺存 度	器形の特徴・並形・調査技法	備考
22	H-4-3 埋土	水瓶 灰陶陶器	①-②-③-	①鉢底②灘元良好③鉢上：灰白色、釉・淡緑色④断片	輪縫整形。相輪状の垂部と底の外反する口縁部が接合して一体化した口縁部を持つ。	
23	H-4-4 床底	鐵片	長軸長：4.1、短軸長：4.0、厚さ：1.4、重さ：35.44 g、遺存度：不明		形状：鉢状、表面に鉄斑。	鉄造鉄片か。
24	H-8-1 埋土	蓋 須恵器	① [14.2] ② 2.9③-	①鉢底・縁②灘元③灰色④1/4	輪縫整形。口縁部：直角に崩折。天井部：回転斂削り。鋸：環状。	
25	H-8-2 埋土	坏 須恵器	① [14.4] ② 3.4③9.8	①鉢底・縁②灘元③灰色④1/2	輪縫整形。口縁部：やや内反。底部：平底、回転斂切り後、外周回転斂削り。	
26	H-8-3 龜内	丸瓦	長さ：(33.7) 幅：17.6、厚さ：2.5	①根密②焼成不良③淡赤橙色④MIZUZU	玉縁付き。1枚造り。四面に布目。	
27	H-8-4 埋土	逆輪 金剛鏡鏡	長軸長：1.7、短軸長：0.8、厚さ：0.1、重さ：0.78 g、遺存度：一部欠損		外面全面に鏡文。形状：梯形平面の鏡状。	
28	H-8-5 埋土	紡錘車 石製品	径：4.5、高さ：1.3、重さ：42.45 g、遺存度：表面一部欠落		断面：台形。	上面に「主」、側面に「丁」と直線の刻畫。
29	H-9-1 埋土	坏 須恵器	① [12.6] ② 3.6③7.4	①中粒・纏・塵②灘元③灰白色④L'3	輪縫整形。口縁部：外反。底部：平底、回転糸切り無調整。	
30	H-9-2 埋土	段皿 灰陶陶器	① [14.2] ② 3.0③6.4	①根密②灘元やや甘い③鉢上：灰白色、縁：淡緑色④1/3	輪縫整形。済け掛け。口縁部：外反。底部：三日月高台、回転糸切り。	
31	H-9-3 埋土	不明 鐵製品	全長：一、断面：幅一、厚さ一、重さ：10.89 g、遺存度：破片		形状：「H」字状。断面：不明。	
32	H-11-1 埋土	坏 土師器	① 10.7 ② 3.4 ③-	①中粒②焼化③明赤橙色④完形	口縁部：やや外傾、二段模様で。体部との接点に後を有す。体部：丸底、削り。	
33	H-11-2 埋土	坏 土師器	① 11.3 ② 3.6 ③-	①中粒②焼化③明赤橙色④完形	口縁部：やや外傾、二段模様で。体部との接点に後を有す。体部：丸底、削り。	
34	H-11-3 埋土	坏 土師器	① 11.5 ② 3.6 ③-	①中粒②焼化③明赤橙色④完形	口縁部：やや外傾、二段模様で。体部との接点に後を有す。体部：丸底、削り。	
35	H-11-4 埋土	坏 土師器	① 11.3 ② 3.6 ③-	①中粒②焼化③明赤橙色④1/2	口縁部：やや外傾、模様で。体部との接点に後を有す。体部：丸底、削り。	
36	H-11-5 埋土	坏 土師器	① 10.8 ② 3.7 ③-	①中粒②焼化③明橙色④完形	口縁部：やや外傾、模様で。体部との接点に後を有す。体部：丸底、削り。	
37	H-11-6 埋土	坏 土師器	① 11.2 ② 3.6 ③-	①中粒②焼化③明橙色④完形	口縁部：やや外反、模様で。体部との接点に後を有す。体部：丸底、削り。	
38	H-11-7 埋土	坏 土師器	① 11.3 ② 3.8 ③-	①中粒②焼化③明橙色④完形	口縁部：やや外反、模様で。体部との接点に後を有す。体部：丸底、削り。	
39	H-11-8 埋土	坏 土師器	① 11.3 ② 3.6 ③-	①中粒②焼化③明橙色④完形	口縁部：やや内凹、模様で。体部：丸底、削り。	
40	H-11-9 埋土	坏 土師器	① 15.0 ② 5.4 ③-	①中粒②焼化③明橙色④完形	口縁部：やや内縫、模様で。体部：丸底、削り。	
41	H-11-10 埋土	無蓋高坏 須恵器	① [16.6] ② 6.5③-	①根粒・縁②灘元良好③黒灰色④环断片	輪縫整形。口縁部：2条の沈線。体部：回転斂削り。	
42	H-11-11 埋土	壺 須恵器	① [15.8] ② 22.0③-	①根粒・縁②灘元やや不良③灰褐色④1/2	輪縫整形。口縁部：外平反。体部：肩部が張り、2条の沈線。底部：丸底、回転斂削り。見込：指痕の塗り。	
43	H-11-12 埋土	円筒瓶 須恵器	① (24.0) ② (3.0)③-	①中粒・黒色粒②灘元良好③灰褐色④1/8	輪縫整形。中央部が浅く凹み、台部には透かしが入る。	使用され滑らかとなる。
44	H-13-1 床底	刀子 鉄製品	全長：(8.4)、刃基部幅：1.6、厚さ：0.3、重さ：9.05 g、遺存度：刃部破片		形状：刃面。	曲げられている。
45	H-16-1 埋土	蓋 須恵器	① 17.2 ② 4.8 ③-	①中粒・縁②灘元・良好③灰褐色②/3	輪縫整形。口縁部：直角に崩折。天井部：回転斂削り。鋸：環状。	
46	H-16-2 埋土	高台付瓶 須恵器	① [13.6] ② 2.7③6.5	①中粒・蓋母②灘元やや甘い③灰褐色④1/2	輪縫整形。口縁部：外反。底部：高台、回転糸切り。	

Tab.14 古墳～平安時代 遺物觀察表 (3)

番号	造物番号 出土位置	器種 種別	①口徑②器高 ③底径	①地上②焼成③色調④遺存 度	器形の特徴・整形・調査技法	備考
47	II-16-3 墓内	丸瓦	長さ：39.5、 幅：17.4、厚 さ：1.9	①粗・深②焼化やや不良③ 淡赤褐色④	1枚造り、凸面に布目。	
48	II-16-4 壇上	錫 銅製品	全長：16.6、 基部幅：3.2、厚さ：0.2、重 さ：50.91 g、遺存度：完形		形状：曲刃、基部上半を直角に折り曲げている。	
49	H-19-1 墓内	甕 土師器	① 20.6 ② (23.5)③ -	①中紋・雲母②焼化③淡 褐色④1/3	口縁部：最大径を持ち外反、横撫で。底部：長胴、 外面削り、内面挽抜で。	
50	H-19-2 墓内	甕 土師器	① 22.6 ② (23.0)③ -	①中紋・繩②焼化③淡 褐色④2/3	口縁部：最大径を持ち外反、横撫で。底部：長胴、 外面削り、内面挽抜で。	
51	H-19-3 壇上	不明 銅製品	全長：(3.9)、幅：(0.9)、厚さ：0.4、重 さ：5.09 g、遺存度：破片		形状：台形断面。	刀子茎部分。
52	H-20-1 壇土	高台付甕 須恵器	① 12.8 ② 2.8 ③6.0	①中紋・繩②蓮元やや青い ③淡褐色④2/3	輪縁笠形。口縁部：外反。底部：高台、回転糸切 り。	表面に「安」か の墨書き。
53	H-20-2 壇土	釘 鐵製品	全長：(3.9)、幅：(0.9)、厚さ：0.7、重 さ：24.25 g、遺存度：先端と頭部欠損		形状：長方形断面。	刀子茎部分。
54	H-21-1 壇上	坏 土師器	① 10.4 ② 2.9 ③ -	①中紋・繩②焼化③橙色④ 3/4	口縁部：内脣・横撫で。体部外面：削り。体部内 面：横撫で。底部：丸底、削り。	
55	H-21-2 壇土	坏 土師器	① 13.3 ② 4.2 ③ -	①中紋・繩②焼化③明赤橙 色④3/4	口縁部：内脣・横撫で。体部外面：削り。体部内 面：横撫で。底部：丸底、削り。	
56	H-21-3 壇土	坏 土師器	① 17.2 ② 5.4 ③ -	①中紋・繩②焼化③明赤橙 色④3/4	口縁部：内脣・横撫で。体部外面：削り。体部内 面：横撫で。底部：丸底、削り。	
57	H-21-4 墓内	甕 土師器	① 22.0 ② 33.7 ③4.9	①中紋・繩②焼化③明赤橙 色④2/3	口縁部：最大径を持ち外反、横撫で。底部：長胴、 外面挽抜り、内面挽抜で。	
58	H-21-5 墓内	甕 土師器	① 23.4 ② 32.5 ③5.4	①中紋・繩②焼化③明赤橙 色④2/3	口縁部：最大径を持ち外反、横撫で。底部：長胴、 外面削り、内面挽抜で。	
59	H-21-6 墓内	甕 土師器	① 22.0 ② (35.3)③ -	①中紋・繩②焼化③淡褐色 ④2/3	口縁部：最大径を持ち外反、横撫で。底部：長胴、 外面挽抜り、内面挽抜で。	
60	H-21-7 壇土	白玉 石製品	径：1.3mm 厚さ：0.6mm 重 さ：1.38g 遺存度：完形		側面研磨。	
61	H-23-1 壇土	壺 須恵器	① (15.0) ② 3.7(3) -	①中紋・繩②焼化、不良③明 赤橙色④2/3	輪縁笠形。口縁部：直角に屈折。天井部：回転糸 削り・鋸歯：水平。	
62	H-23-2 高台付坏 壇上	高台付坏 須恵器	① (14.7) ② 6.2(6.8)	①中紋・繩②蓮元不真③灰 色・明赤橙色④1/2	輪縁笠形。口縁部：外反。底部：高台、回転糸切 り。	
63	H-23-3 墓内	平瓦	長さ：42.2、 幅：17.8、厚 さ：2.6	①粗粒・繩②焼化不良③明 赤橙色④	1枚造り。凹面に布目。	凹面に「千」の 焼成前綴記。
64	H-23-4 壇土	纺錘車 土製品	径：5.0、厚 さ：1.6、孔 径：0.6	①繩粒②蓮元良好③灰色④ 完形	須恵質の纺錘車で、巻きが施される。	
65	H-23-5 墓内	釘 銅製品	長軸長：(10.2)、幅：1.2、厚さ：0.8、重 さ：40.34 g、遺存度：破片		断面長方形。端部と先端部を欠損する。	
66	H-31-1 壇土	坏 土師器	① (14.0) ② (3.4)③ -	①中紋②焼化③明赤橙色④ 1/2	口縁部：内脣・横撫で。体部外面：無調整。体部 内面：横撫で。底部：丸底、削り。	
67	H-31-2 壇上	坏 土師器	① (13.0) ② 3.8③ -	①中紋②焼化③明赤橙色④ 1/2	口縁部：外脣・横撫で。体部外面：底部との境に 接線、削り。体部内面：横撫で。底部：丸底、削り。	
68	H-31-3 壇土	錫 銅製品	全長：(15.0)、基部幅：3.4、厚さ：0.2、重 さ：57.22 g、遺存度：先端部を欠損		曲刃。基部上半を折り曲げている。	
69	H-31-4 壇土	古銅 銅製品	径：2.5、厚さ：0.15、重さ：2.87 g、遺 存度：完形		元豐通宝(1078年)。篆書。	
70	H-34-1 壇土	耳皿 須恵器	① 9.3 ② (3.2) (3.6)	①中紋・黑色粒②蓮元③灰 色④口縁部一部欠損	輪縁調整。口縁部：外反。底部：高台、回転糸切 り。	
71	H-34-2 床直	高台付坏 須恵器	① [13.4] ② 5.1③ 5.2	①粗粒・繩母②蓮元不良③ 淡褐色④口縁部3/4欠損	輪縁調整。口縁部：外反。底部：高台、回転糸切 り。	

Tab.15 古墳～平安時代 遺物観察表 (4)

番号	遺構番号 出土位置	器種 種別	①口怪②器高 ③底径	①船上②焼成③色調④遺存 度	器形の特徴・整形・調整技法	備考
72	H-34-3 埋土	高台付环 須恵器	① [14.6] ② 5.3③[6.4]	①粗粒・縦②壺元良好③明 灰色④1/2	燒成調整。口縁部：外反。底部：高台、回転条切 り。	
73	H-34-4 埋土	高台付环 須恵器	① [14.8] ② 5.4 3.6	①粗粒・縦②壺元良好③明 灰色④1/2	燒成調整。口縁部：外反。底部：高台、回転条切 り。	
74	H-34-5 埋土	高台付环 須恵器	① [14.8] ② 5.7 3.6	①粗粒・縦②壺元良好③明 灰色④1/2	燒成調整。口縁部：外反。底部：高台、回転条切 り。	
75	H-34-6 埋土	高台付环 須恵器	① [15.0] ② 5.8 3.7	①粗粒・縦②壺元良好③明 灰色④1/2	燒成調整。口縁部：外反。底部：高台、回転条切 り。	
76	H-34-7 埋土	高台付环 須恵器	① [14.2] ② 5.4 3.6	①粗粒・雲母②壺元不良③ 淡赤褐色④はざ形	燒成調整。口縁部：外反。底部：高台、回転条切 り。	
77	H-34-8 埋土	高台付环 須恵器	① [14.3] ② 5.8 3.6	①粗粒・雲母②壺元や不 良③淡褐褐色④口縁部1/2 欠損	燒成調整。口縁部：外反。底部：高台、回転条切 り。	
78	H-34-9 埋土	高台付环 須恵器	① [14.3] ② 5.4 3.5	①粗粒・縦②壺元良好③明 灰色④定形	燒成調整。口縁部：外反。底部：高台、回転条切 り。	
79	H-34-10 埋土	环 須恵器	① [13.8] ② 5.0③	①粗粒・縦②壺元不良③淡 褐褐色④口縁部1/2欠損	燒成調整。口縁部：外反。底部：回転条切り。	
80	H-35-1 埋土	高台付环 須恵器	① [10.6] ② 5.8③	①粗粒・縦②壺元良好③明 褐色④1/2	燒成調整。口縁部：外傾。底部：高台、回転条切 り。	
81	H-35-2 埋土	环 須恵器	① [11.0] ② 4.0 3.6	①粗粒・縦②壺元良好③明 灰色④はざ形	燒成調整。口縁部：外傾。底部：回転条切り無済 整。	
82	H-35-3 埋土	环 須恵器	① [12.0] ② 3.7 3.6	①粗粒・縦②壺元や不良 ③灰色④口縁部1/4欠損	燒成調整。口縁部：やや外反。底部：回転条切り 無済整。	
83	H-35-4 埋土	不明 鉄製品	長軸長：(9.0)、幅： (1.6)、厚さ： 0.4、重 さ：20.06g、遺存度： 破片	両端部を欠損する。断面は細長い台形を呈す。	直刀の茎部分。	
84	H-35-5 埋土	不明 石製品	長軸長：(1.0)、幅： (0.6)、厚さ： 0.4、重 さ：0.02g、遺 存度：完形、石材：凝灰岩	断面の形状に類似する。荒削りの凸面が存在 し、その他の面は研磨されている。	防鏃車の未製 品か。	
85	H-43-1 床板	火 土師器	① 10.4 (6.3)③-	①粗粒・縦②微化③暗褐色 色④1/2	口縁部：外反、鶲毛目。肩部：球崩、外面崩毛目 内面撫で。	
86	H-43-2 埋土	台付壺 土師器	① - ② (5.3) 3.8.9	①中粒・縦②微化③暗褐色 色④口部1/2	内面：擦痕部を折り返す。外面：刷毛目。	
87	H-52-1 埋土	环 土師器	① 10.8 ② 3.3 ③-	①粗粒・縦②微化③明赤褐 色④1/2	口縁部：内側、横條で。体部：無調整。底部：九 底、削り。	
88	H-52-2 埋土	善 須恵器	① 15.0 ② 3.3 ③-	①粗粒・縦②壺元や不良 ③灰褐色④口縁部一部欠損	燒成調整。口縁部：造り布り。天井部：回転崩り。 鉢：環状。	
89	H-52-3 埋土	不明 鉄製品	長軸長：(3.7)、幅： 1.6、厚さ： 0.1、重 さ：4.36g、遺存度： 破片	板状を呈し、端部を曲げている。		
90	H-54-1 埋土	环 土師器	① 11.2 ② 6.2 3.9	①中粒・縦②微化③暗褐色 色④7/8	口縁部：大きく開く、削き。肩部：扁平、削き。底 部：上げ底。	
91	H-54-2 埋土	台付壺 土師器	① [14.2] ② (6.4)③	①中粒・縦②微化③暗褐色 色④1/8	口縁部：s字状口縁部、外面崩毛で、内面磨き。肩 部：内面削き、外面崩毛目。	
92	H-58-1 床板	环 土師器	① 12.9 ② 4.3 ③-	①中粒・縦②微化③暗褐色 色④7/8	口縁部：外反、二段横條で。底部：丸底、削り。	
93	H-58-2 埋土	支脚 土製品	① - ② (5.9) ③-	①中粒・縦②微化③暗褐色 色④1/8	内面：指頭による擦り、外面：擦り、削り。	
94	H-58-3 埋土	釘 鉄製品	長軸長：(3.4)、断面： 0.4×0.3、重 さ：2.21g、遺存度： 破片	頭部を泡「J」字形に曲げている。		小孔は欠損の可能性がある。
95	H-58-4 埋土	不明 石製品	長軸長：(8.5)、幅： 1.6、厚さ： 1.2、重 さ：1.86g、石材：蛇紋岩、遺存度： 欠損	端部に穿孔、全体に研磨。		縄文時代の遺 物か。
96	H-59-1 床底	环 土師器	① 10.6 ② 4.4 3.4.0	①中粒・縦②微化③暗褐色 色④口縁部一部欠損	燒成調整。口縁部：外反。底部：回転条切り無済 整。	

Tab.16 古墳～平安時代 遺物観察表 (5)

番号	遺物番号 出土位置	番種別 （底径）	①口径②器高 ③底径	①胎土②焼成③色調④遺存 度	器形の特徴・整形・調整技法	参考
97	H-59-2 埋土	环 須恵器	①14.4 ②4.3 ③6.0	①中粒・黒②焼成不良③明 灰色④完形	軸健調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り無調 整。	
98	H-59-3 墓内	高台付环 須恵器	① 16.1 ④.5 ③-	①中粒・黒②遺元良好③明 灰色④高台欠損	軸健調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り。	
99	H-59-4 墓内	平瓦	長さ : (22.8) 幅 : (12.4) 厚さ : 2.3	①粗粒・黒②遺元良好③明 灰色④1/8	円面に布目。凸凹撫で消し。	凸面に施記号。
100	H-60-1 埋土	环 土師器	①12.8 ②4.9 ③-	①中粒・黒②酸化③赤茶帶 色④4/5	口縁部：内傾、横撫で。体部との境に稜を有す。 体、底部：丸底削り。	
101	H-60-2 埋土	支脚 石製品	高さ : (5.9)、重さ : 208.95 g、石材：安 山岩、遺存度：下部欠損		断面：不整の多角形となる。	
102	H-64-1 埋土	环 土師器	① 11.0 ② 4.0 ③-	①粗粒・黒②焼成③暗褐色 色④口縁部一部欠損	口縁部：内傾、朱色との境に稜を有す。横撫で。 体部、底部：削り。丸底。	
103	H-64-2 墓内	夷 土師器	① 20.7 ③(36.0) ④(3.3)	①粗粒・黒②酸化③朱赤色 ④底部欠損	口縁部：外反、横撫で。胴部：長脚、外面前り、内 面撫で。	
104	H-67-1 埋土	环 土師器	① 16.1 ② 12.1 ③(3.3)	①粗粒・黒②焼成③桜紅色 ④完形	口縁部：やや外反、横撫で。胴部：長脚、外面前り、内 面撫で。丸底削り。	
105	H-67-2 埋土	夷 土師器	① 14.2 ② (18.4) ③ -	①粗粒・黒②焼成③赤橙色 ④3/4	口縁部：外反、横撫で。胴部：長脚、外面前り、内 面撫で。底部丸底。	
106	H-67-3 埋土	白玉 石製品	径 : 1.4、厚さ : 0.8、重さ : 2.46 g、材質 ：滑石、遺存度：完形		研磨。	
107	H-67-4 埋土	絹錦半 石製品	径 : -、厚さ : -、重さ : 9.12 g、材質： 滑石、遺存度 : 1/3		側面に線刺の格子文を三角形に配す。	
108	H-68-1 埋土	环 土師器	① 11.0 ② 3.6 ③-	①中粒・黒②焼成③明赤帶 色④3/4	口縁部：やや内脇、横撫で。体部、底部：外面前 り、内面撫で。丸底。	
109	H-68-2 埋土	不明 鉄製品	全長 : (8.1)、断面 : 0.6×0.3、重さ : 9.16 g、遺存度：両端部欠損		長方形断面の棒状を呈する。	
110	H-68-3 埋土	刀子 鉄製品	全長 : (4.3)、厚さ : 0.2、幅 : 0.8、重さ : 3.67 g、遺存度：刃部片		刀子の切先片である。	
111	H-70-1 埋土	絹錦車 石製品	径 : 4.2、厚さ : 1.5、重さ : 45.94 g、石 材 : 滑石、遺存度 : 完形		上面の中央部が凹む。研磨。	
112	H-71-1 埋土	碗 灰釉陶器	①(14.0) ② 5.1 ③6.0	①颗粒②遺元やや青い③胎 土: 嘉祥色、釉: 深緑色④ 1/3	軸健調整。横け割け。蓋ね焼き。口縁部：外反。底 部：長方形断面の高台。	底部に「七」の 墨書き。
113	H-71-2 埋土	碗 灰釉陶器	① 14.7 ② 5.0 ③7.3	①颗粒②遺元やや青い③胎 土: 嘉祥色、釉: 深緑色④ 3/4	軸健調整。刷毛走り。重ね焼き。口縁部：外反。底 部：三ヶ月状断面に近い高台。	
114	H-71-3 埋土	高台付环 須恵器	① 14.1 ② 4.9 ③6.0	①中粒・黒②遺元不良③黒 色④1環部一部欠損	軸健調整。口縁部：外反。底部：三角形の高台、 回転糸切り。	
115	H-73-1 床土	环 須恵器	① 11.6 ② 3.2 ③6.0	①粗粒・黒②遺元不良③黒 色④完形	軸健調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り無調 整。	
116	H-73-2 墓内	高台付环 土師器	① 13.0 ② 5.3 ③(5.8)	①中粒・黒②酸化良好③黒 色④1/2	軸健調整。口縁部：外反。底部：三角形の高台、 回転糸切り。	
117	H-74-1 埋土	环 土師器	① 13.0 ② 4.9 ③-	①中粒・黒②酸化良好③黒 色④1/2	口縁部：外反、横撫で。体、底部：丸底、削り。	
118	H-74-2 埋土	鉄鎌 鉄製品	身部長 : (4.2)、身部厚 : (0.4)、頭部長 : 4.0、頭部断面 : 0.9×0.7、重さ : 17.45 g 遺存度：逆刺・先端・基部無欠損	身は丸柱造り、平根で、逆刺を持つ。頭部は台形 断面となり、台形窓を有す。		
119	H-77-1 埋土	环 須恵器	① 12.0 ② 3.3 ③7.8	①中粒・黒②遺元良好③明 灰色④完形	軸健調整。口縁部：外傾。底部：平底、回転糸切 り外周回転削り。	
120	H-79-1 埋土	环 土師器	① 11.2 ② 4.6 ③6.4	①中粒・黒②酸化良好③明 灰色④完形	口縁部：やや外反、横撫で。体部：上半無調整带 下平削り。底部：平底、削り。	
121	H-79-2 埋土	高台付环 須恵器	① 14.0 ② 6.1 ③4.8	①中粒・黒②遺元不良③黒 色④口縁部一部欠損	軸健調整。口縁部：外反。底部：三角形の高台、 回転糸切り。	

Tab.17 古墳～平安時代 遺物觀察表 (6)

番号	遺物名 出土位置	器種 種別	①上径②器高 ③底径	①胎土②成形③色調④邊存 度	器形の特徴・整形・調整技法	備考
122	H-79-3 埋土	碗 灰釉陶器	①13.7 ②4.2 ③7.5	①縦密②邊元やや甘い③胎 土：灰褐色、釉：淡青色④ 7/8	輪縁整形。清け掛け。重ね焼き。口縁部：外反。底 部：三日月高台。	
123	H-79-4 室内	羽釜	① 19.8 ② (20.0)③-	①中粒・疊②整化良好③釉 褐色④1/4	輪縁整形。口縁部：内傾。肩部：輪縁日が明瞭。	
124	H-80-1 床板	环 土器部	①10.1 ②3.5 ③-	①川紋・疊②整化良好③明 橙色④完形	口縁部：内埠、横撫で。体部、底部：丸底、削り。	
125	H-80-2 埋土	臼玉 石製品	径：1.0、厚さ：0.9、重さ： 1.87kg、材質 滑石、道存度：完形		研磨。	
126	H-83-1 埋土	环 土器部	①11.6 ②4.6 ③5.8	①中粒・疊②整化良好③黑 色灰④1/2	輪縁調整。口縁部：外反。底部：平底、回転糸切 り無調整。	
127	H-83-2 埋土	灰釉陶器	①13.8 ②4.0 ③7.2	①縦密②邊元良好③胎土： 灰白色、釉：淡緑色④7/8	輪縁整形。清け掛け。重ね焼き。口縁部：外反。底 部：三日月高台。	
128	H-83-3 埋土	不明 鉄製品	全長：(3.0)、断面： 0.6×0.2、重さ： 9.11g、材質：鉄、道存度：成片		断面板状で、紙やかに蛇行する。両端を欠損する。	
129	H-83-4 埋土	不明 鉄製品	全長：(6.2)、断面： 0.6×0.2、重さ： 3.02g、材質：鉄、道存度：破片		断面板状で、「L」字形に曲がる。両端を欠損する。	
130	H-83-5 埋土	不明 鉄製品	余長：(4.4)、重さ： 11.06g、材質：鉄、 道存度：破片		「C」字形に曲げられており、内端部が扁平され、 右端の端部が脇状、左端の端部が鶴状となる。両 端を欠損する。	
131	H-83-6 埋土	釘 鉄製品	全長：(8.2)、断面： 0.6×0.7、重さ： 19.7g、材質：鉄、道存度：破片		断面折形。頭部を扁平し、逆「L」字形とする。先 端を欠損する。	
132	H-83-7 埋土	釘 鉄製品	全長：(13.0)、断面： 0.8×0.8、重さ： 20.01g、材質：鉄、道存度：破片		断面方形。頭部を扁平し、逆「L」字形とする。頭 部を欠損する。	
133	H-85-1 高台付坪 土上	① [12.4] ② 高台付坪 土上埋器	①中粒・疊②整化良好③釉 褐色④口縁部7/8欠損		輪縁調整。口縁部：外反。底部：高台。	
134	H-85-2 埋土	釘 鉄製品	全長：(4.5)、頭部径：1.3、断面： 0.5×0.6、重さ： 5.84g、材質：鉄、道存度： 破片		断面折形。頭部は別造りで、円頭、先端を欠損す る。	
135	H-85-3 灰陶 埋土	灰陶 器	全長：(14.6)、断面： 0.8×0.8、重さ： 19.97g、材質：灰、道存度：ほぼ完 成		瓶又做で、内側に刃感がつく。台形闘。断面方形。 颈部先端と肩部先端の一部を欠損する。	
136	H-86-1 埋土	高台付坪 土上埋器	① [13.6] ② 高台付坪 土上埋器	①織紋②整化良好③胎褐色 ・内黒④口縁部2/3	輪縁調整。口縁部：外反。内面：焼き。内底底部 ：高台、回転糸切り。	
137	H-86-2 埋土	平瓦	長さ：(15.8)、 幅：(10.1)、 厚さ：2.0	①織紋・疊②整化③明褐色 ・破片	凸面焼で滑し、凹面を有す。	凸面に「生」の 跡点。
138	H-87-1 埋土	环 須恵器	① [13.0] ② 4.23×7.8	①中粒・黑色釉②邊元良好 ③灰褐色④1/3	輪縁調整。口縁部：外反。底部：回転糸切り無調 整。	
139	H-87-2 埋土	壺 土器部	① 19.2 ② 18.7×7.8	①環状・疊②整化③赤褐色 ④1/4	口縁部「コ」の字口縁部、横撫で。肩部：最大脇 厚を上位に持ち、外面削り、内面焼で。	
140	H-88-1 埋土	段鉢 灰釉陶器	① (14.2) ② 3.10×(7.1)	①縦密②邊元・長石③胎土 ：灰白色、釉：明緑色④1/4	段鉢。輪縁整形。清け掛け。重ね焼き。口縁部：外 反。底部：三日月高台。	
141	H-88-2 埋土	短頭壺 灰釉陶器	① ②・③	①綱密②邊元・長石③胎土 ：灰白色、釉：淡緑色④破 片	輪縁整形。	
142	H-89-1 埋土	高台付坪 須恵器	① [13.8] ② 5.7×7.7	①中粒・疊②邊元やや不良 ③湖灰色④1/3	輪縁調整。口縁部：外反。底部：高台、回転糸切 り。	
143	H-89-2 埋土	刀子 鉄製品	全長：(9.3)、刃部基幅：1.1、厚さ： 0.2、重さ： 7.59g、材質：鉄、道存度：基部端 欠損		背開直角、刀開施為、切先強いふくら。	刃部が曲がっ ている。
144	H-89-3 埋土	火打金 鉄製品	全長：5.6、厚さ： (1.5)、重さ： 0.3、重 さ：10.07g、道存度： 上部端欠損		三角形の板状。刃部が厚くなる。	刃部中央は凹 む。
145	H-89-4 埋土	土錐 上製品	長さ 3.9、 径 0.9、重さ： 1.8g	①織紋・疊②整化③淡赤褐色④ 完形	小型。	
146	H-98-1 埋土	环 土器部	① 12.2 ② 4.3 ③-	①綱密・疊②整化③明褐色 ④完形	口縁部：外反、体部との間に梗を有す。横腹で。 体部、底部：削り丸底。	

Tab.18 古墳～平安時代 遺物観察表 (7)

番号	遺物番号 出土位置	器種 種別	①11径②器高 ③底径	①船上②焼成③色調④遺存 度	器形の特徴・整形・調整技法	備考
147	H-98-2 埋土	坏 土師器	①12.4 ②4.1 ③-	①織紋・縦②酸化③明橙色 ④7/8	口縁部：外反、体部との境に段を有す。横撫で。 体部、底部：削り。丸底。	
148	H-98-3 埋土	坏 土師器	①14.6 ②5.1 ③-	①織紋・縦②酸化③淡赤橙 色④1/2	口縁部：内彎、横撫で。体部、底部：削り。丸底。	
149	H-98-4 埋土	坏 土師器	①【18.2】 ② 10.7③-	①織紋・縦②酸化③淡橙色 ④破片	口縁部：外反、横撫で。胴部：削り。	
150	H-98-5 埋土	刀子 鉄製品 鋲	全長：(4.6)、刃部基幅：1.0、厚さ：0.3、 重さ：5.50 g、遺存度：先端部・基部焼失 損傷		背開無し、刃部無内カ。	
151	H-99-1 埋土	坏 土師器	①10.5 ②3.4 ③-	①粗粒・縦②酸化③明橙色 ④完形	口縁部：外反、体部との境に段を有す。横撫で。 体部、底部：削り。丸底。	
152	H-99-2 墓内	高坏 土師器	①【11.8】 ② (2.7)③-	①粗粒・縦②酸化③明橙色 ④耳部片	坏部：直状、口縁部横撫で、体部削り。	
153	H-99-3 埋土	蓋 須恵器	①8.2 ②(2.9) ③-	①織紋・長石②還元③明灰色 ④痕欠振	織紋調整。口縁部：返りを有す。外面回転荒削り。	
154	H-99-4 床直	蓋 須恵器	①8.6 ②(1.7) ③-	①織紋・長石②還元③明灰色 ④1/8	織紋調整。口縁部：返りを有す。外面回転荒削り。	
155	H-99-5 床直	坏 土師器	①【18.2】 ② (6.5)③-	①織紋・縦②酸化③赤橙色 ④1/4	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴、外表面削り、 内面撫で。	
156	H-99-6 墓内	變 土師器	①【18.2】 ② (23.3)③- 1/4	①織紋・縦②酸化③縦色④	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴、外表面削り、 内面撫で。	
157	遺物外-1 8区	高台付墨 缺脚陶器	①13.8 ②2.8 ③6.6	①織紋②還元③船土：灰色 料：濃紺色④1/3	織紋調整。内外面に密き。口縁部：外反、横撫で。 胴部：長胴、外表面削り、内面撫で。	
158	遺物外-2 8区	刀子 鉄製品 鋲	全长：(7.1)、刃部基幅：1.1、厚さ：0.2、 重さ：5.70 g、遺存度：先端部・基部焼失 損傷		直角肩間。小型。	

付編 自然科学分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

前橋市域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることにより、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようにになっている。

そこで、年代が不明な住居跡が検出された元総社小見遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった遺構は、H-25号住居跡である。

2. 土層層序

H-25号住居跡では、褐色土（層厚5cm）からなる貼床構造が認められる（図1）。床面の覆土は、下位より灰色軽石混じりで若干色調が暗い褐色土（層厚33cm、軽石の最大径6mm）、灰色軽石混じり暗褐色土（層厚14cm、軽石の最大径5mm）、成層したテフラ層（層厚7.4cm）、砂混じり灰褐色土（層厚37cm）、灰褐色砂質土（層厚22cm）、灰褐色作土（層厚17cm）から構成される。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より桃褐色細粒火山灰層（層厚2cm）、粗粒火山灰混じり黄灰色細粒火山灰層（層厚0.6cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚1.1cm）、黄色がかった灰色細粒火山灰層（層厚0.7cm）、黄色細粒火山灰層（層厚0.4cm）、白色軽石混じり灰色粗粒火山灰層（層厚0.2cm、軽石の最大径3mm）、粗粒火山灰混じり黄灰色細粒火山灰層（層厚0.6cm）、黄色細粒火山灰層（層厚0.2cm）、かすかに成層した黄灰色細粒火山灰層（層厚1.6cm）からなる。この成層したテフラ層は、その層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ層（Hr-FA、新井，1979、坂口，1986、早田，1989、町田・新井，1992）に同定される。

3. テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

遺構の層位や年代に関する資料を得るために、H-25号住居跡の貼床構成層から採取された、また覆土において基本的に厚さ5cmごとに採取された試料の合計6点についてテフラ検出分析を行った。分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。貼床構成層の試料11には、スポンジ状によく発泡した灰白色軽石（最大径2.8mm）が少量含まれている。軽石の斑晶には、斜方輝石や單斜輝石が認められる。この軽石は、その上位の覆土より採取された試料からも、比較的多く検出される（最大径9.1mm）。最上位の試料1には、この軽石のほかに、さほど発泡の良くない白色軽石（最大径1.3mm）がごく少量認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

軽石の起源を明らかにするために、貼床構成層の試料11を対象に屈折率測定を行うことにした。屈折率測定方法は、温度一定型屈折率測定法（新井，1972, 1993）による。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。試料11に含まれる火山ガラス（n）の屈折率は、1.515-1.521である。重鉱物としては、斜方輝石や單斜輝石のほか、ごく少量の角閃石が含まれている。斜方輝石（?）の屈折率は、1.706-1.711である。

5. 考察

野外での土層の観察やテフラ検出分析により検出された灰白色軽石は、層位、岩相、重鉱物の組み合わせ、さらに火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、4世紀中葉^{*1}に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979）に由来すると考えられる。貼床構成層にこの軽石が含まれていることから、H-25号住居跡の層位は、As-Cより上位にあると考えられる。また上述のように覆土中にHr-FAの堆積が認められることから、Hr-FAより下位にあることは明らかである。なお、試料1に含まれるさほど発泡の良くない細粒の白色軽石については、その岩相から5世紀に榛名火山から噴出した榛名有馬火山灰（Hr-AA, 町田ほか, 1984）に由来する可能性が考えられる。ただし、検出された量が非常に少ないとから、このテフラと遺構との関係について詳細に論述することは難しい。

6.まとめ

元總社小見遺跡において、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、H-25号住居跡の覆土中に榛名ニツ岳浜川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）の堆積が認められ、貼床構成層から浅間C軽石（As-C, 4世紀中葉^{*1}）が検出された。このことから、H-25号住居跡の層位は、As-Cより上位でHr-FAより下位にあることが明らかになった。

*1 現在では4世紀を越とする説が有力になっているようである（たとえば、若狭, 2000）。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀終末」と考えておくのが妥当なのかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更については、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

〈文献〉

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
- 新井房夫 (1993) 溫度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2-研究対象別分析法」, p.138-149.
- 荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質。地図研専報, no.45, 65p.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫・小田勝夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学-考古学研究に関係するテフラのカタログ。古文化財収集委員会「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 坂口 一 (1986) 植名ニツ岳起源FA・FP層下の土器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青森遺跡」, p.103-119.
- 早田 鮎 (1989) 6世紀における植名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
- 若狭 徹 (2000) 群馬の弥生土器が終わるとき。かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く-古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	輝石の量	輝石の色調	輝石の最大径
H-25号住居跡	1	++	灰白>白	4.3, 1.3
	3	++	灰白	5.4
	5	++	灰白	9.1
	7	++	灰白	5.6
	9	++	灰白	4.8
	11	+	灰白	2.8

++++: とくに多い、+++: 多い、++: 中程度、+: 少ない、-

-: 認められない。最大径の単位は、mm。

表2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス(a)	重晶石	斜方輝石(?)
H-25号住居跡	11	1.515-1.521	opx>cpx. (hn)	1.706-1.711

屈折率の測定は、温度一定型屈折率測定法(新井、1972、1993)による。

opx: 斜方輝石、cpx: 単斜輝石、hn: 角閃石、()は量が少ないと示す。

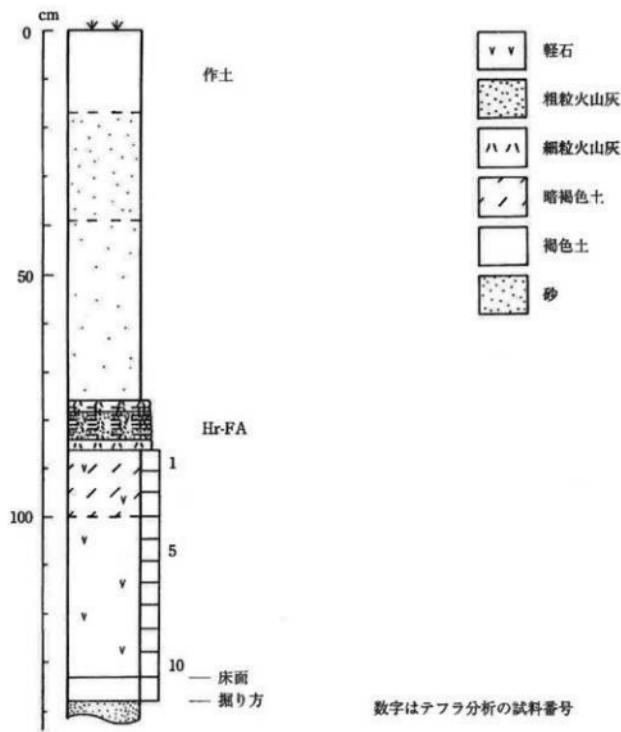


図1 H-25号住居跡覆土の土層柱状図

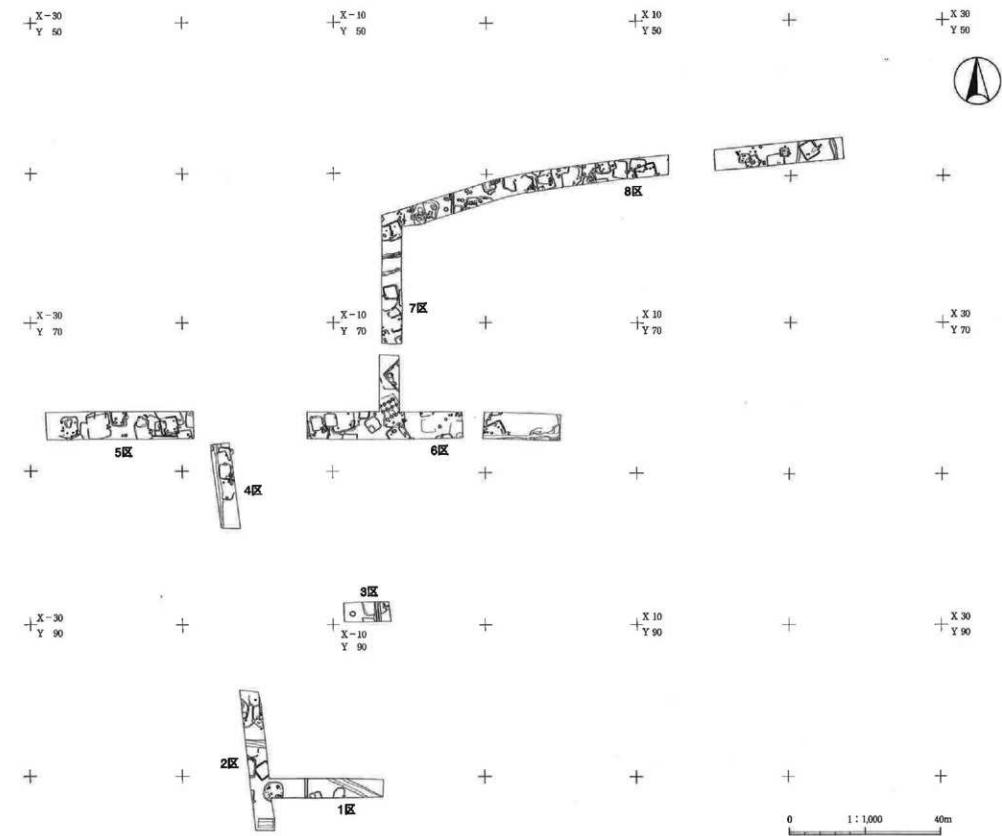


Fig.8 元総社小見進路全体図 (1 : 1,000)

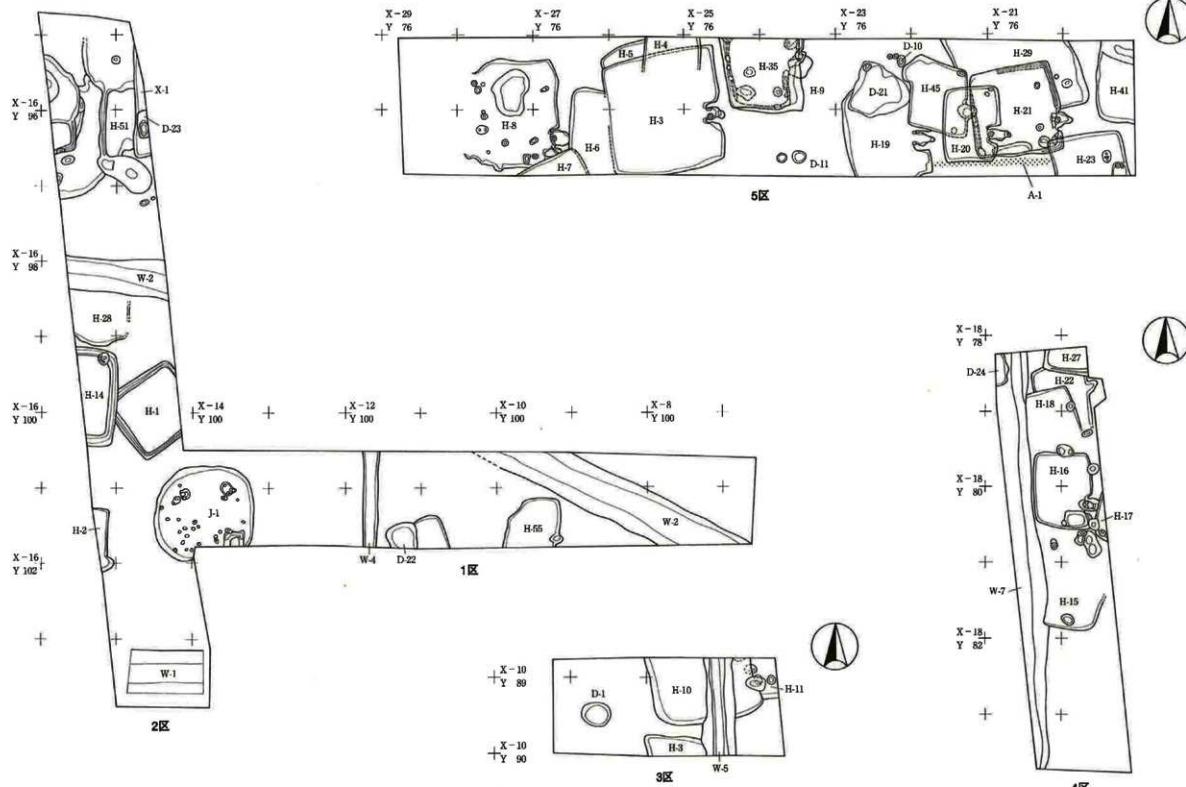


Fig.9 元總社小見遺跡1~5区遺構全体図 (1:200)

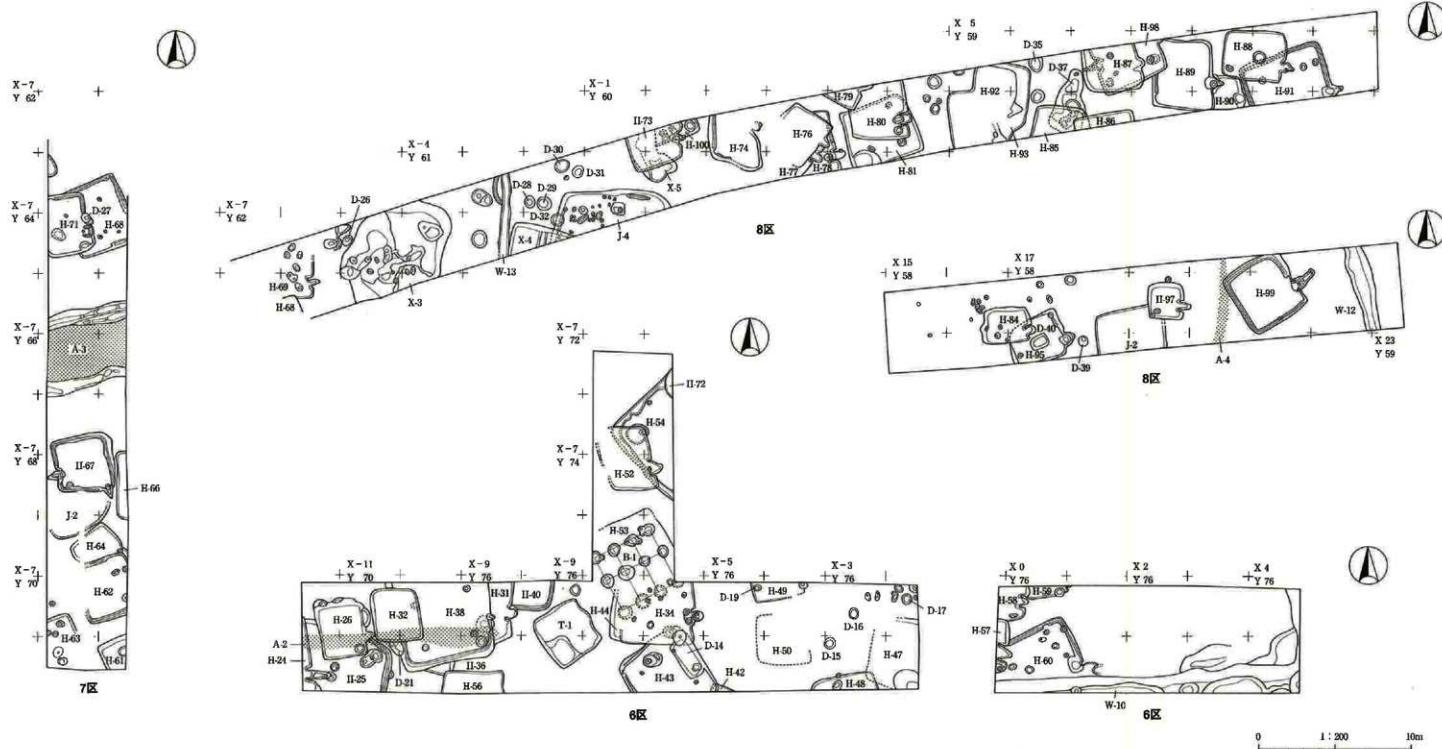
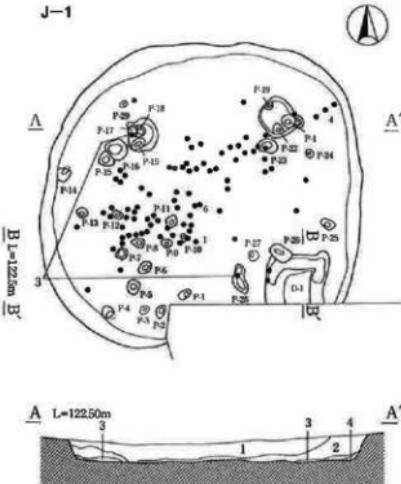


Fig.10 元総社小見遺跡6~8区遺構全体図 (1:200)

J-1



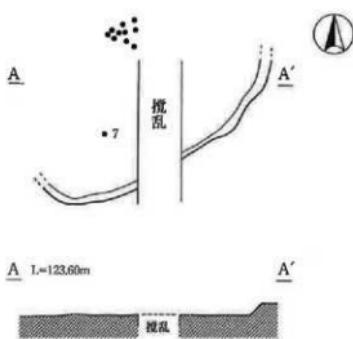
J-1号住居跡

1. 黄褐色土。褐色鉄石 (P2~5 mm) を多量に含む。しまり強。軟性弱。
2. 黄褐色土。褐色鉄石 (P2~3mm) を含む。しまり強。軟性弱。
3. 灰褐色土。褐色鉄土鉄縫からなり。褐色土土粒子を多く含む。しまり強。軟性弱。
4. 黄褐色土。塊山の面蓋土。

J-1号住居跡 柱穴・土壤計測表(単位:m)

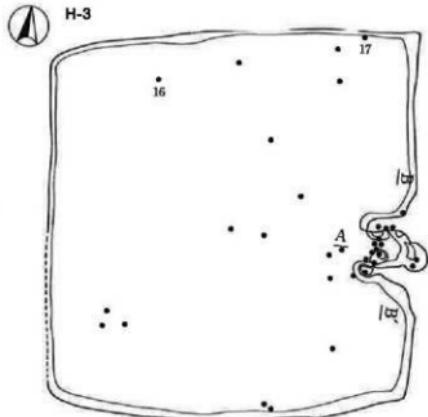
No.	長さ	径幅	深さ
P- 1	(0.20)	(0.15)	(0.25)
P- 2	(0.20)	(0.15)	(0.50)
P- 3	(0.15)	(0.12)	(0.41)
P- 4	(0.20)	(0.20)	(0.54)
P- 5	(0.24)	(0.20)	(0.28)
P- 6	(0.23)	(0.18)	(0.20)
P- 7	(0.20)	(0.18)	(0.40)
P- 8	(0.22)	(0.21)	(0.35)
P- 9	(0.17)	(0.14)	(0.05)
P-10	(0.12)	(0.10)	(0.22)
P-11	(0.20)	(0.18)	(0.24)
P-12	(0.18)	(0.13)	(0.26)
P-13	(0.18)	(0.17)	(0.21)
P-14	(0.23)	(0.21)	(0.21)
P-15	(0.24)	(0.22)	(0.31)
P-16	(0.36)	(0.29)	(0.83)
P-17	(0.17)	(0.15)	(0.40)
P-18	(0.18)	(0.15)	(0.18)
P-19	(0.24)	(0.16)	(0.31)
P-20	(0.18)	(0.10)	(0.31)
P-21	(0.38)	(0.22)	(0.44)
P-22	(0.18)	(0.16)	(0.11)
P-23	(0.24)	(0.10)	(0.48)
P-24	(0.13)	(0.22)	(0.21)
P-25	(0.25)	(0.16)	(0.47)
P-26	(0.37)	(0.23)	(0.44)
P-27	(0.17)	(0.17)	(0.45)
P-28	(0.49)	(0.18)	(0.36)
P-29	(0.14)	(0.10)	(0.16)
D- 1	(0.76)	(0.96)	(0.30)

J-2

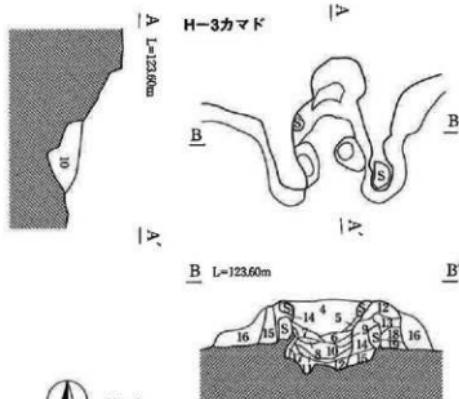


0 1:80 2m

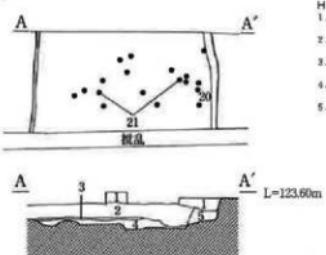
Fig.11 J-1・2号住居跡



- H-3号住居跡カマド
1. 黒褐色土 砂粒。黄褐色をまばらに含む。しまり強。粘性弱。
 2. 黄褐色土 砂粒。炭化物をまばらに含む。しまり強。粘性弱。灰青色削子。
 3. 黑褐色土 砂粒。炭化物をまばらに含む。しまり強。粘性弱。
 4. 黑褐色土 砂粒。灰化灰。薄層C鉱石 (AeC) 幅1-2mm、灰白色粘土をまばらに含む。しまり強。粘性弱。カマド煙道附近の層系と見られる。
 5. 墓塚土上 地上ブロックを多量に含む。
 6. 墓塚土上 地上ブロックを多量に含む。しまり強。粘性弱。
 7. 墓塚土上 砂粒。炭化物をまばらに含む。地上ブロックを多量に含む。しまり強。粘性弱。
 8. 墓塚土上 砂粒。炭化物。地中ブロック (径1mm) を多く含む。しまり強。粘性弱。
 9. 墓塚土上 砂粒。炭化物。地中ブロック (径1mm) を多く含む。しまり強。粘性弱。
 10. 墓塚土上 砂粒。炭化物。地中ブロック (径1-3mm) を多く含む。しまり強。粘性弱。
 11. 黑褐色土 砂粒。灰化灰。灰土をまばらに含む。
 12. 黑褐色土 砂粒。灰化灰。地中ブロック (径3mm) を多く含む。しまり強。粘性弱。
 13. 墓塚土上 砂粒。灰化物をまばらに含む。しまり強。粘性弱。
 14. 墓塚土上 砂粒。炭化物をまばらに含む。しまり強。粘性弱。
 15. にじい黄褐色土 上部。砂粒。墓塚土上。薄層C鉱石 (AeC) 幅1mm。灰化灰をまばらに含む。
 16. 墓塚土上 砂粒。まばらに含む。しまり強。粘性弱。
 17. 黑褐色土 砂粒。しまり強。粘性弱。
 18. 黑褐色土 砂粒。しまり強。粘性弱。
 19. 黑褐色土 砂粒。しまり強。粘性弱。



H-4号住居跡

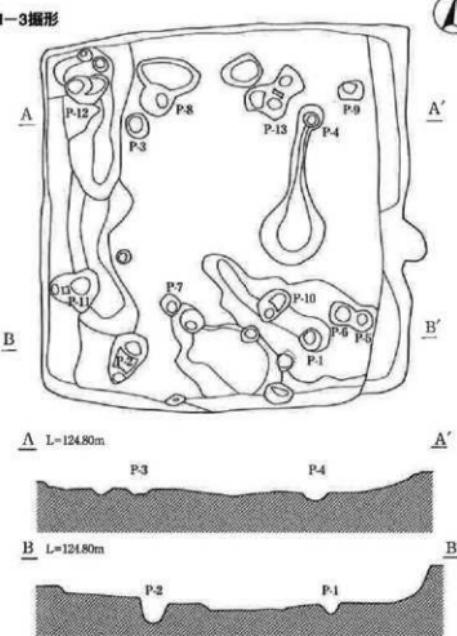


- H-4号住居跡
1. 黑褐色土 薄層C鉱石 (AeC) 幅2-3mmを多く含む。しまり強。
 2. 黑褐色土 薄層C鉱石 (AeC) 幅2-3mmを多く含む。しまり強。粘性弱。
 3. 黑褐色土 薄層C鉱石 (AeC) 幅2-3mmを多く含む。灰山ブロックを多く含む。しまり強。粘性弱。
 4. 黑褐色土 灰山ブロックを多く含む。灰山がふらるるが、時に液化していく。しまり強。粘性弱。
 5. 黑褐色土 薄層C鉱石 (AeC) 幅2-3mmを少量含む。しまり強。粘性弱。

0 1:40 1m
0 1:80 2m

Fig.12 H-3・4号住居跡

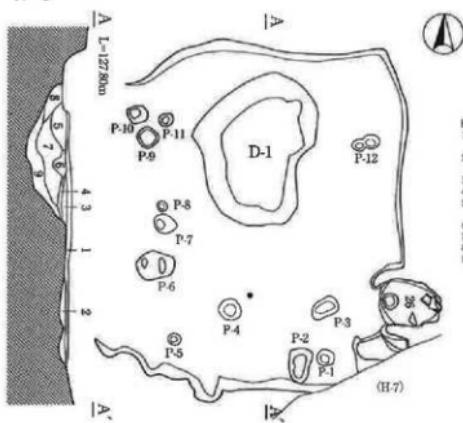
H-3号居跡



H-3号住居跡 柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.38	0.36	0.11
P-2	0.38	0.54	0.51
P-3	0.44	0.38	0.37
P-4	0.46	0.40	0.34
P-5	0.38	0.34	0.66
P-6	0.44	0.38	0.18
P-7	0.34	0.32	0.23
P-8	0.59	0.50	0.51
P-9	0.34	0.30	0.18
P-10	0.60	0.29	0.40
P-11	0.82	0.16	0.26
P-12	0.78	0.44	0.33
P-13	0.60	0.52	0.42

H-8



H-8号住居跡

1. 剥離地土 馬蹄形。地土ブロック(厚2~3mm)を少量含む。しまり強。
2. 剥離地土 馬蹄形。地土粒子を少度含み、細砂粒を多量に含む。しまり強。
3. 剥離地土 上部(厚2~3mm)を多く含む。しまり強。
4. にじい黄褐色土 上部(厚2~3mm)を多く含む。しまり強。
5. 剥離地土 地上ブロック(厚2~20mm)及び細砂を多量に含む。しまり強。
6. 剥離地土 褐色解石(厚1~3mm)。解離性を多量に含む。
7. 無機質土 灰白色解石(厚2~5mm)。
8. 剥離地土 褐色地土を多量に含む。しまり強。
9. 剥離地土 彩色ブロック(厚1~30mm)及び無機物を多量に含む。しまり強く軟。

0 1:80 2m

Fig.13 H-3・8号住居跡

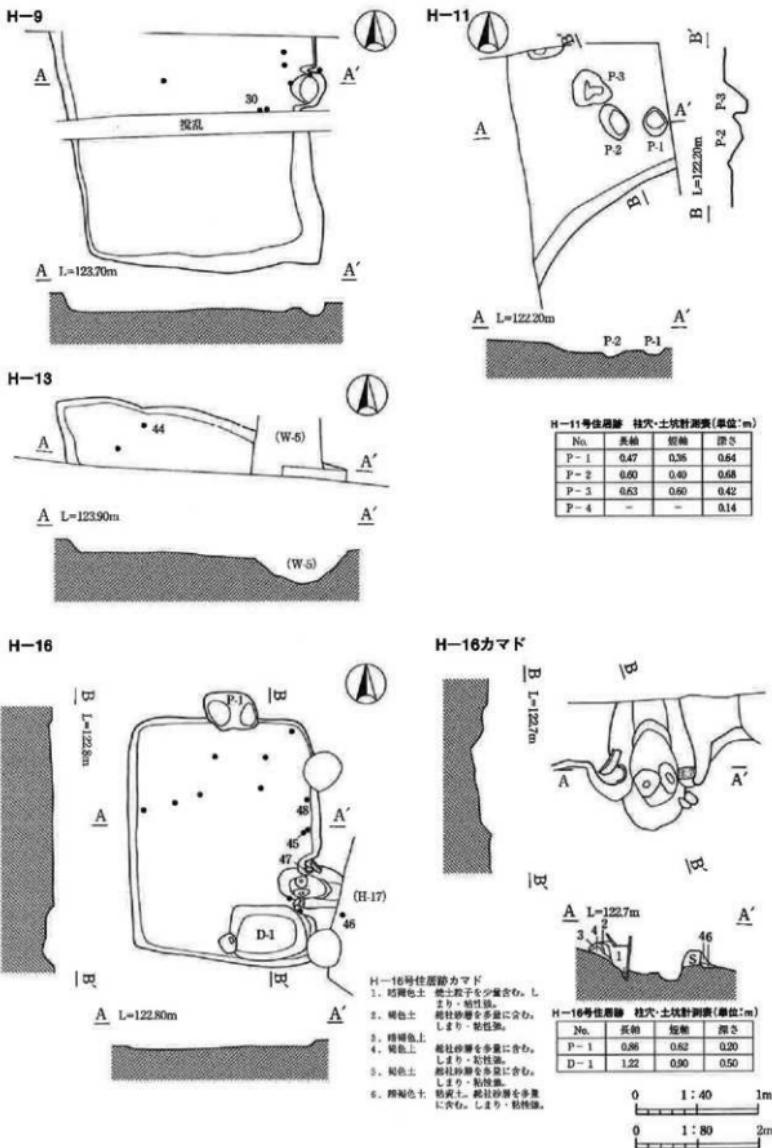
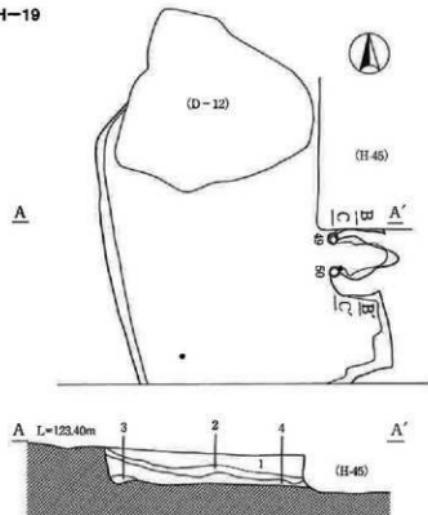
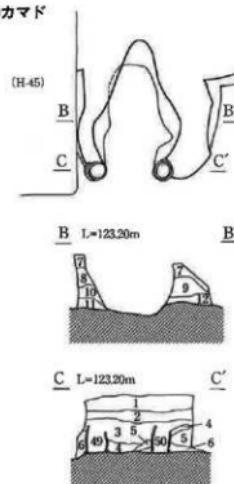


Fig.14 H-9・11・13・16号住居跡

H-19



H-19カマド



H-19号住居跡

1. 淡褐色土 淡褐色C種石 (Ase) 程2~5mmを多量に含む。しまり強く硬い。粘性弱。
2. 黒褐色土 淡褐色C種石 (Ase) 程2~3mmを多量に含む。しまり強く硬い。粘性弱。
3. 黑褐色土 淡褐色C種石 (Ase) 程2~3mm及び細砂やや多く含む。しまり強く硬い。粘性弱。
4. 淡褐色土 黑褐色土との接続部。淡褐色C種石 (Ase) 程2~3mm及び陶片土程石を多量に含む。

H-19号住居跡カマド

1. 淡褐色土 FP (径2~5mm) 及びAse (径2~3mm) を多量に含む。
2. 淡褐色土 Ase (径2~3mm) を多量に含む。しまり強く硬い。粘性強。
3. 黑褐色土 Ase (径2~3mm) を多量に含む。黑褐色土程石を少量含む。
4. 黑褐色土 上部FP (径2~3mm) 及びAse (径2~3mm) を多量に含む。
5. 黑褐色土 Ase (径2~3mm) を少々含む。しまり強く硬い。
6. 黑褐色土 黑褐色土程石を少々含み。土程石子を微量含む。しまり強く硬い。粘性強。
7. 淡褐色土 黑褐色土程石及び土程石子を含む。
8. 淡褐色土 PA程石 (径2~3mm) を少々含む。
9. 黑褐色土 土程石子を含む。
10. 黑褐色土 土程石子を多く含む。
11. 淡褐色土 黑褐色土程石を多く含み。土程石子を少量含む。
12. 黑褐色土

H-20

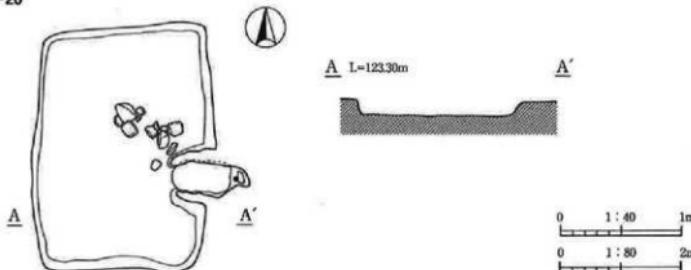
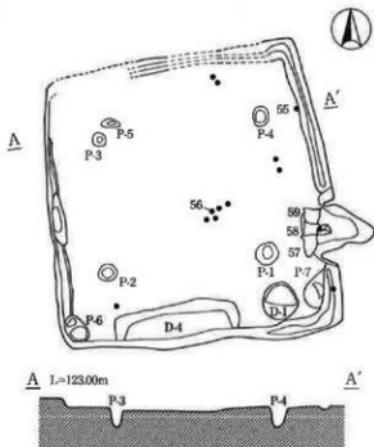


Fig.15 H-19・20号住居跡

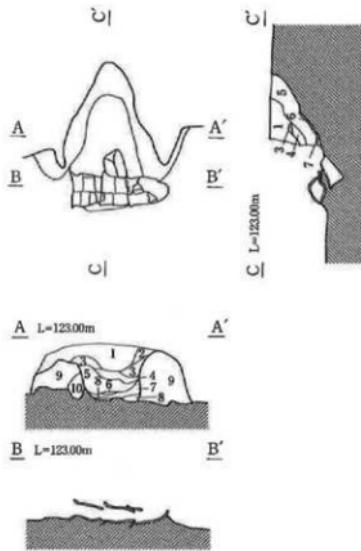
H-21



H-21号住居跡 杖穴・土坑剖面図(単位:m)

	長軸	短軸	深さ
Na.			
P-1	0.38	0.34	0.32
P-2	0.29	0.28	0.40
P-3	0.22	0.22	0.28
P-4	0.32	0.26	0.29
P-5	0.30	0.16	0.14
P-6	(0.40)	(0.32)	0.10
P-7	(0.56)	(0.34)	0.11
D-1	0.58	0.56	0.18
D-2	2.06	0.56	0.11

H-21カマド



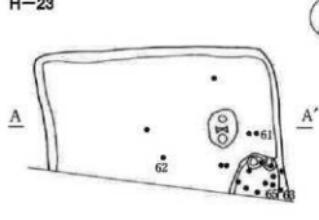
H-21号住居跡

1. 黒褐色上 (EAST C斜面 (Ase)) 砂2~5mmを多量に含み、FA鉱石を少く含む。しまり層くぼい。粘性強。
2. 黒褐色上 地上アプロート (厚2~5mm) 及び粒子を多量に含む。しまり層くぼい。粘性強。
3. 黑褐色上 地上アプロート (厚2~5mm) 及び粒子を多量に含む。しまり層くぼい。粘性強。
4. 黑褐色上 地上粒子を少量含む。しまり層くぼい。粘性強。
5. 黑褐色上 地上アプロート (厚2~3mm) 及び粒子を多く含む。しまり層くぼい。粘性強。
6. 黑褐色 地上アプロート (厚2~5mm) を多く含み、黒褐色土粒子を多量に含む。しまり層。地山崩れ土。
7. 黑色土 粉末及び灰を多量に含む。しまり層。
8. 黑色土 粉末。FA鉱石 (厚2~5mm) を多量に含む。
9. 黑褐色上 地下鉱石上を多量に含む。FA鉱石 (厚2~3mm) を多量に含む。黄色鉱石 (厚2~3mm) を少量含む。しまり層くぼい。粘性強。
10. 黑褐色土 9号と同様アプロート (厚2~5mm) を多量に含む。しまり層くぼい。粘性強。

0 1:40 1m
0 1:80 2m

Fig.16 H-21号住居跡

H-23

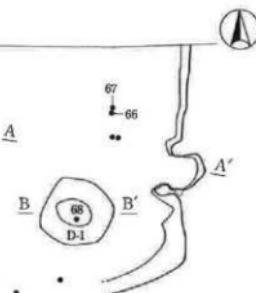
A L=123.00m

H-23号住居跡 穴穴・土坑剖面測定(単位:m)

No.	長轴	短轴	深さ
P- 1	0.58	0.56	0.18
P- 2	2.05	0.56	0.11

(A)

H-31

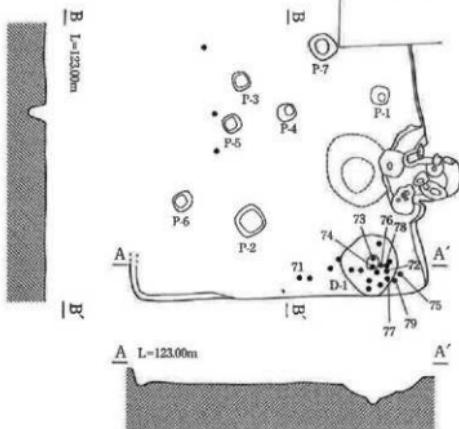
AA L=123.20mB L=123.20m

H-31号住居跡 穴穴・土坑剖面測定(単位:m)

No.	長轴	短轴	深さ
D- 1	1.22	1.04	0.22

(A)

H-34

B L=123.00mA L=123.00mA'

H-34号住居跡 穴穴・土坑剖面測定(単位:m)

No.	長轴	短轴	深さ
P- 1	0.31	0.29	0.21
P- 2	0.51	0.48	0.24
P- 3	0.28	0.26	0.06
P- 4	0.30	0.28	0.27
P- 5	0.30	0.26	0.23
P- 6	0.36	0.27	0.16
P- 7	0.50	0.42	0.46
D- 1	1.00	0.94	0.32

0 1:80 2m

Fig.17 H-23・31・34号住居跡

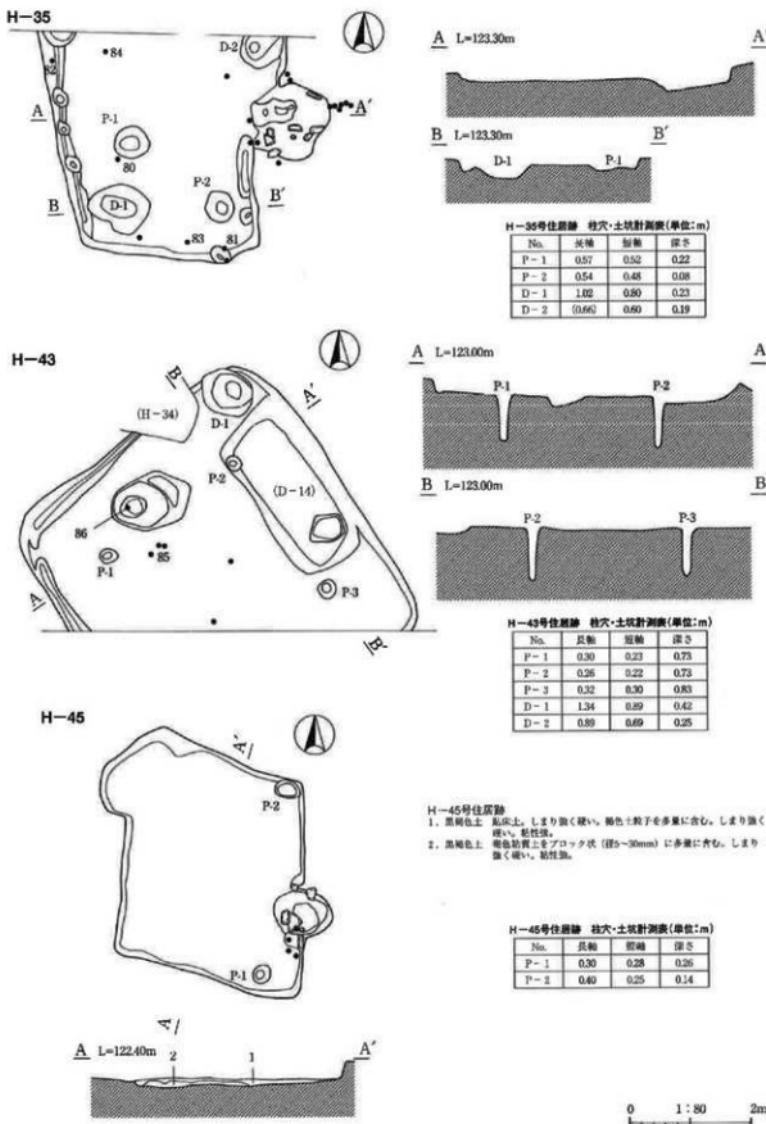
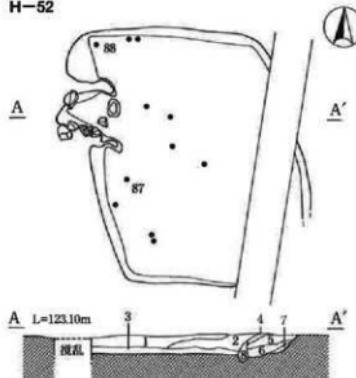


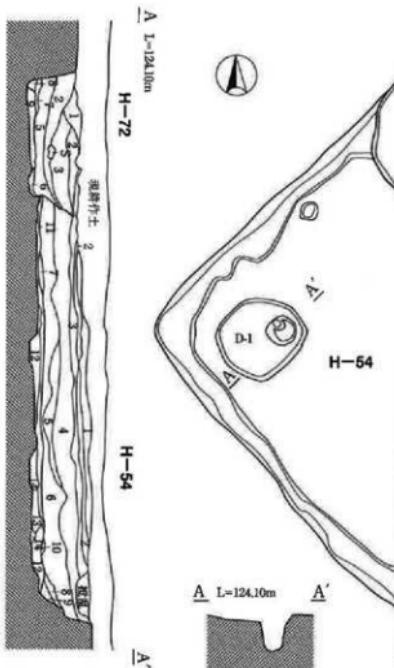
Fig.18 H-35・43・45号住居跡、D-14号土坑

H-52



H-52号住居跡

1. 砂褐色土 鈍棱アブロク (径1~3mm) 及び鵝卵、褐色礫石 (径2~5mm) を多量に含む。しまり強。粘性強。
2. 砂褐色土 仁木原石 (径10~20mm) 及び鵝卵、褐色礫石 (径2~5mm) を多量に含む。しまり強。粘性強。
3. 砂褐色土 褐色礫石 (径2~5mm)、白色礫石 (径2~10mm) を少量含む。しまり強。粘性強。
4. 砂褐色土 混合アブロク (径2~5mm) 及び鵝卵を多量に含む。褐色礫石 (径2~5mm) 及び鵝卵を少量に含む。しまり強。粘性強。
5. 砂褐色土 褐色礫石 (径2~5mm) 及び鵝卵を少量に含む。しまり強。粘性強。
6. 砂褐色土 粘性及び褐色粘性土、鵝卵を多量に含む。しまり粘性強。
7. 砂褐色土 地上鵝卵を多量に含む。しまり粘性強。
8. 砂褐色土



H-54号住居跡

1. 黒褐色土 黑砂を多量に含む。
2. 黑褐色土 黑砂を多量に含む。TA鉄子を混入する。部分的にPA・淡青褐色土が混存する。
3. 黑褐色土 白砂、褐色礫石 (径1~3mm) を多量に含む。
4. 海褐色土 白色礫石 (径1~3mm)、砂質アブロク (径5~30mm) を多量に含む。
5. 黑褐色土 混合アブロク (径5~20mm) 及び鵝卵、黒砂を多量に含む。白木原石 (径10~20mm) を少量含む。しまり強。粘性強。
6. 黑褐色土 混合アブロク (径5~50mm) 及び鵝卵、黒砂、白色礫石を多量に含む。しまり強。
7. 黑褐色土 混合アブロク (径5~10mm) 及び鵝卵を多量に含む。しまり強。
8. 黑褐色土 混合アブロク (径5~10mm) 及び鵝卵を多量に含む。
9. 黑褐色土 混合アブロク (径5~10mm) を少量含む。黒砂を多量に含む。
10. 黑褐色土 黑砂を多量に含む。
11. 黑褐色土 混合アブロク (径5~40mm) 及び鵝卵を多量に含む。
12. 黑褐色土 混合アブロク (径5~40mm) 及び鵝卵を多量に含む。
13. 黑褐色土 混合アブロク (径5~20mm) 及び鵝卵を多量に含む。
14. 动褐色土 混合 (黄角魚卵) を多量に含む。

H-72号住居跡

1. 黑褐色土 口白礫石 (径3~5mm)、黒砂を多量に含む。
2. 黑褐色土 鶴の友及び40種種を多量に含む。
3. 黑褐色土 鶴の友及び40種種を多量に含む。
4. 黑褐色土 白鳥原石 (径3~5mm)、黒砂を多量に含む。
5. 黑褐色土 口白礫石 (径3~5mm)、黒砂を多量に含む。本状況内鶴の友含む。
6. 黑褐色土 黒砂を多量に含む。
7. 黑褐色土 鶴の友及び鶴の子を多量に含む。
8. 黑褐色土 混合アブロク (径5~25mm) 及び黒砂を多量に含む。黒鶴の友含む。
9. 黑褐色土 混合アブロク及び黒砂を多量に含む。しまり強く硬い。黒鶴の友含む。

H-54号住居跡 牡穴・土壤計測値(単位:m)

No.	高さ	埋植	深さ
D-1	1.40	1.16	0.56

0 1:80 2m
— 47 —

Fig.19 H-52・54・72号住居跡

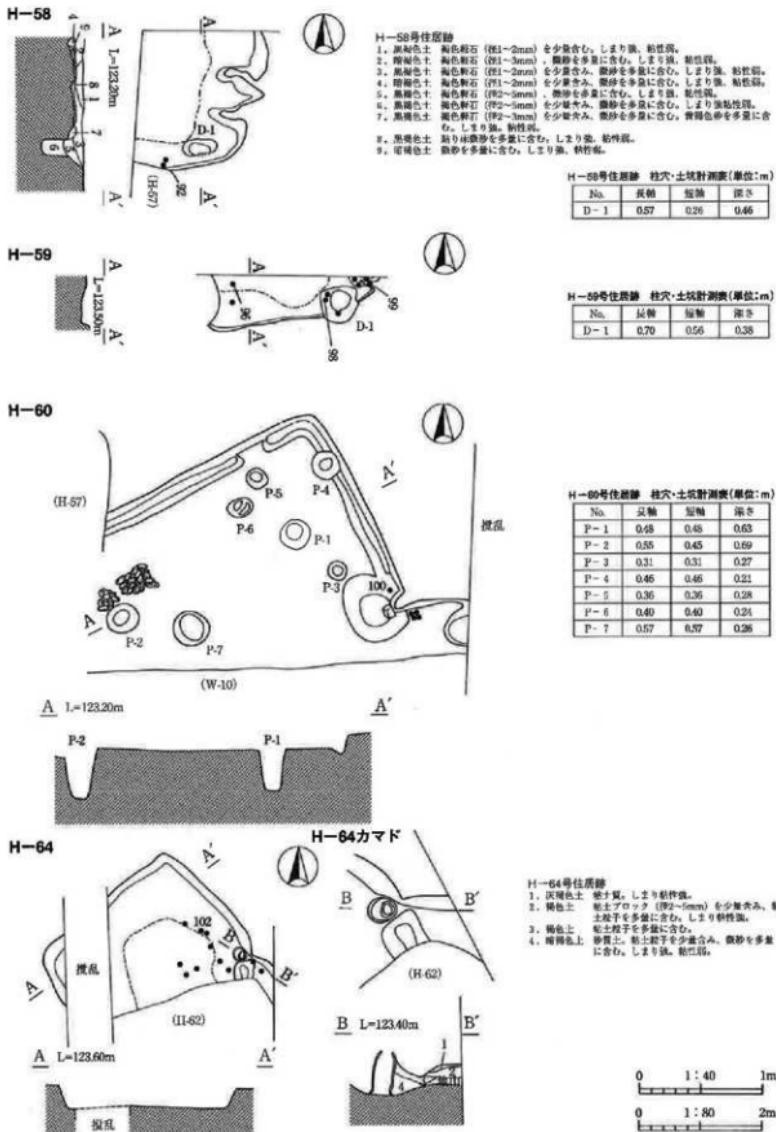


Fig.20 H-58・59・60・64号住居跡

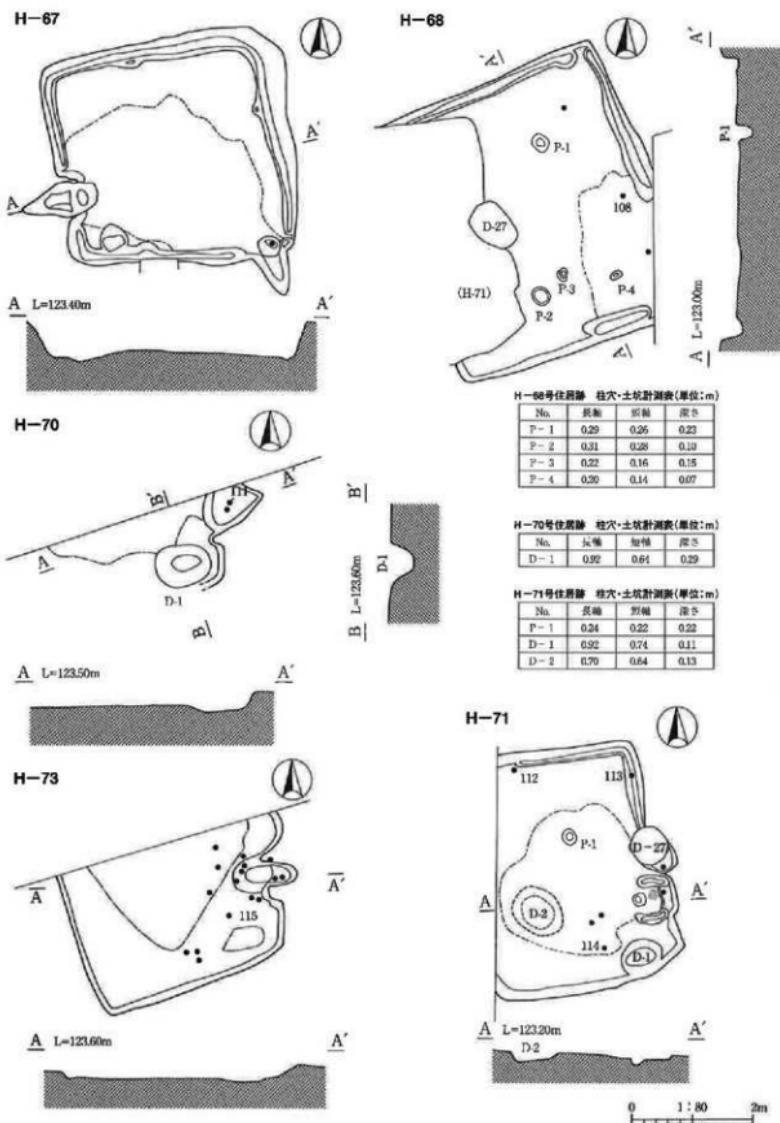


Fig.21 H-67・68・70・71・73号住居跡

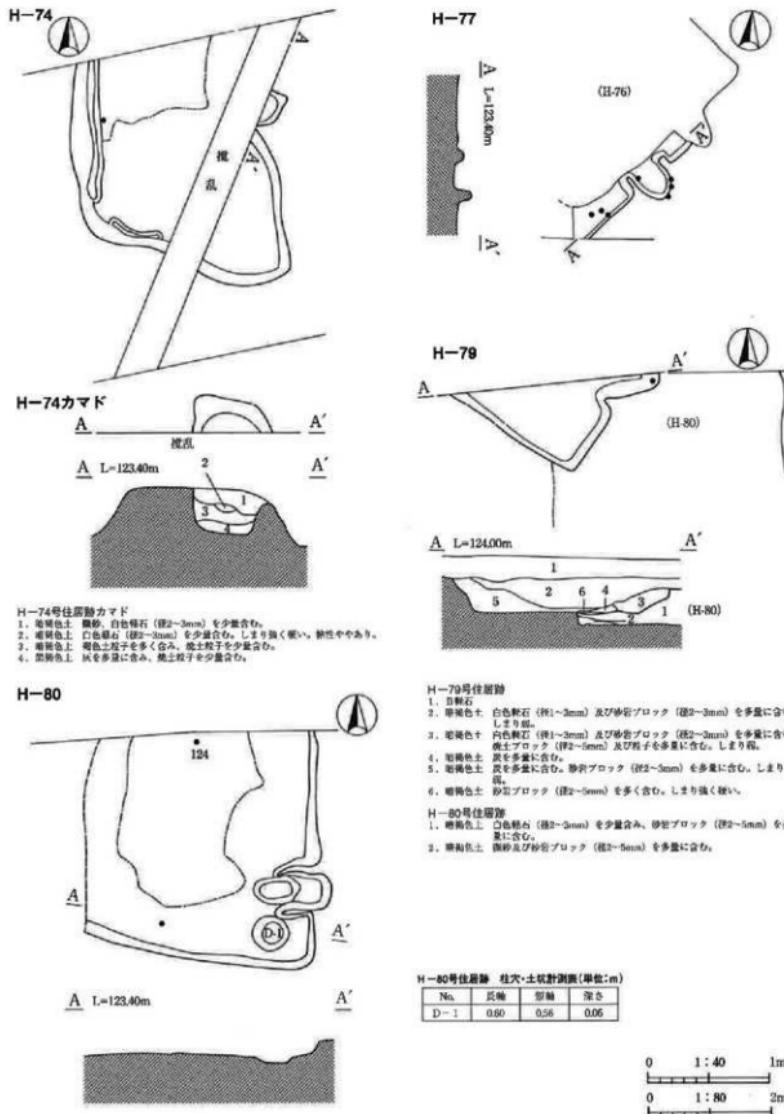


Fig.22 H-74・77・79・80号住居跡

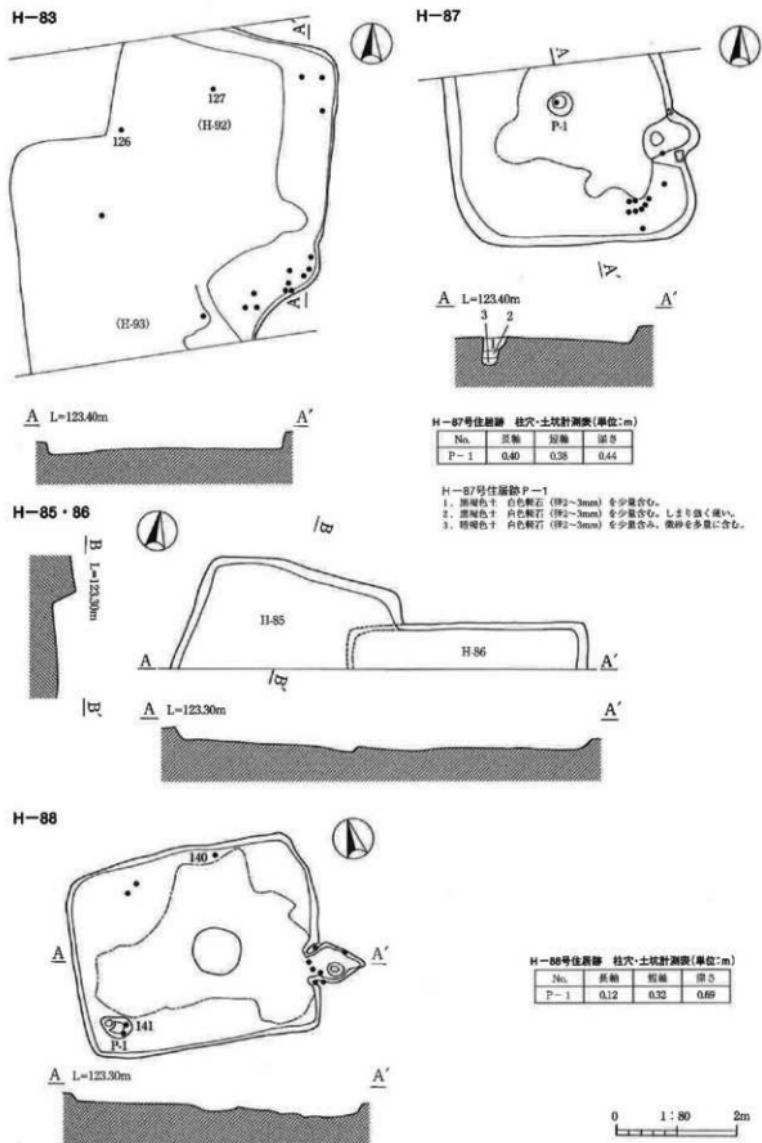
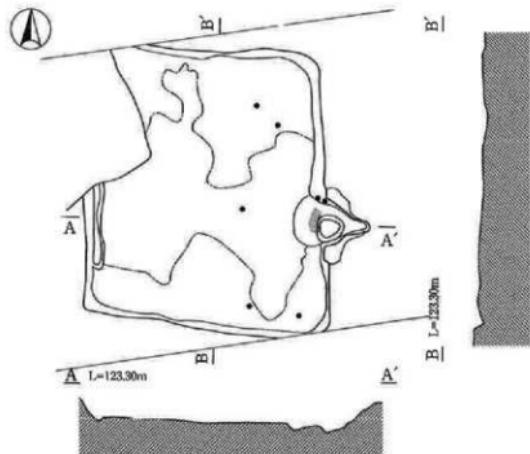


Fig.23 H-83・85~88号住居跡

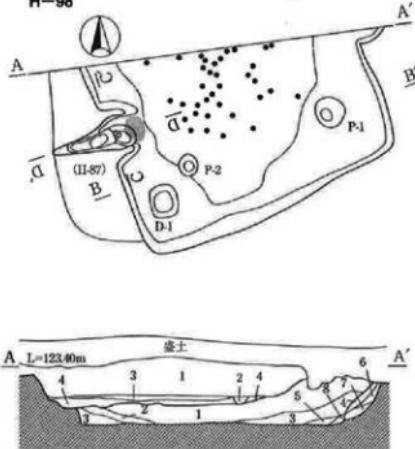
H-89



H-89号住居跡 土坑計測調査(単位:m)

No.	長幅	短幅	深さ
P-1	0.50	0.48	0.26
P-2	0.35	0.30	0.31
D-1	0.54	0.44	0.26

H-98



H-98号住居跡

- 褐色土・白砂岩 (径2~5mm) を多く含む。砂岩ブロック (径5~10mm) を少く含む。しまり強。鉄物やアリ。
 - 黒褐色土・白砂岩 (径2~3mm) 及び鐵物を多く含む。しまり弱。
 - 暗褐色土・白砂岩 (径2~3mm) を多く含み。砂岩ブロック (径2~5mm) を多量に含む。しまり弱。鉄物やアリ。
 - 暗褐色土・白砂岩 (径2~3mm) 少量含み。泥土粒子及びブロック (径5~20mm) を多く含む。しまり強。鉄物やアリ。
 - 褐褐色土・白砂岩 (径2~5mm) 及び鐵物を少く含む。しまり弱。鉄物やアリ。
 - 暗褐色土・白砂岩 (径2~3mm) 及び鐵物を多く含む。地表粒子少く含む。しまり弱。
 - 暗褐色土・泥土粒子 (径2~10mm) を多く含む。しまり強。鉄物やアリ。
 - 暗褐色土・泥土粒子を少々含む。鐵物やアリ多く含む。しまり強。
- H-87号住居跡
- 褐色土・白砂岩 (径2~3mm)、砂岩ブロック (径5~10mm) を多く含み。砂岩ブロック (径5~10mm) を少く含む。しまり強。鉄物やアリ。
 - 暗褐色土・白砂岩 (径2~5mm) 及び枝条を多く含む。しまり強。鉄物やアリ。
 - 暗褐色土・白砂岩 (径2~3mm) を少し含み。砂岩をや多く含む。しまり強。鉄物やアリ。
 - 暗褐色土・白砂岩 (径2~5mm) 及び鐵物をや多く含む。しまり強。

B L=123.40m

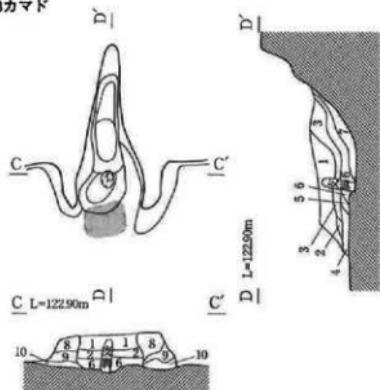
B'



0 1:80 2m

Fig.24 H-89・98号住居跡

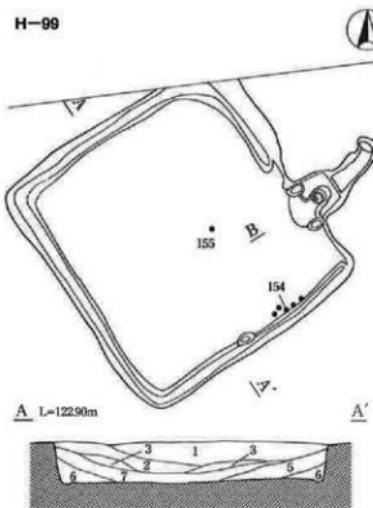
H-98カマド



H-98号住居跡 A'

1. 黒褐色土 地面付近を少々含む。しまり固い。
2. 砂質色土 菌包粒子及び無砂を多く含む。しまり粘性強。
3. 砂質色土 砂岩ブロック (径5~10mm) 及び粒子を多く含む。
4. 砂質色土 菌包土粒子及び焼土粒子を少々含む。しまり強。
5. 砂質色土 烧土粒子を多く含む。しまり強。
6. 砂質色土 砂岩ブロック (径5~10mm) を多く含む。燒土粒子を少々含む。しまり固。
7. 砂質色土 砂岩ブロック (径5~10mm) を十や多く含み。無砂を多量に含む。しまり弱。
8. 砂質色土 砂質を多く含む。しまり強。粘性ややあり。
9. 砂質色土 焼土粒子を少々含む。しまり強。
10. 明褐色土 砂砂を多く含む。沙粒感あり。

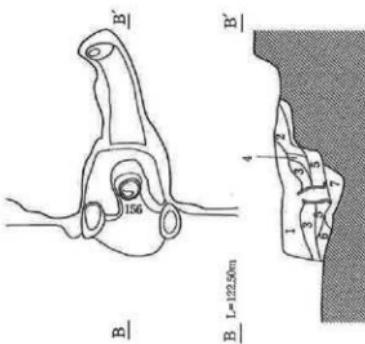
H-99



H-99号住居跡

1. 黑褐色土 地面付近を多く含み。白色輕石 (径2~5mm) を少量含む。しまり強。
2. 砂質色土 砂砂を多く含み。白色輕石 (径2~5mm) を多量に含む。しまり強。
3. 砂質色土 砂砂及び砂岩ブロック (径5~20mm) を多量に含む。しまり強。
4. 加熱色土 白色をやや多く含み。加熱土粒子を多く含む。白色輕石 (径2~5mm) をやや多く含む。しまり強。
5. 砂質色土 砂岩ブロック (径5~10mm) 及び燒土をやや多く含み。白色輕石 (径2~3mm) を少々含む。しまり強。
6. 黑褐色土 砂砂及び白色輕石 (径2~5mm) を少々含む。しまり強。

H-99カマド



H-99号住居跡 A'

1. 砂質色土 灰色細石 (径2~3mm) を少々含み。無砂を多く含む。
2. 砂質色土 砂岩及び砂岩ブロック (径3~90mm) を多量に含む。
3. 砂質色土 灰色細胞層。
4. 赤褐色土 砂岩が焼化したもの。大井頭器器。
5. 烧土土 烧土粒子を多量に含む。
6. 砂質色土 地上粒子を多量に含む。
7. 砂質色土 無砂。地上粒子を少々含む。

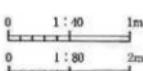
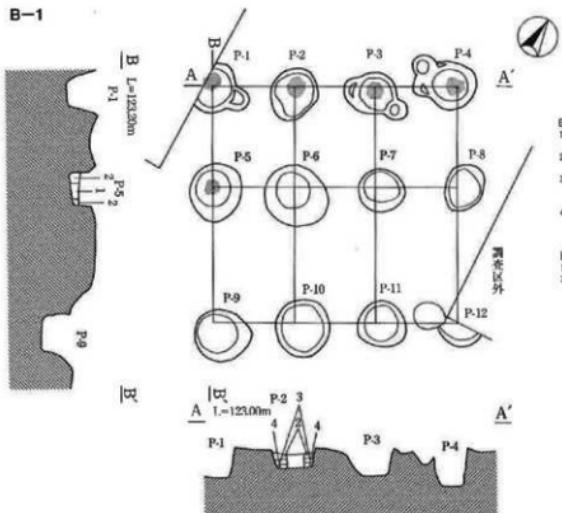
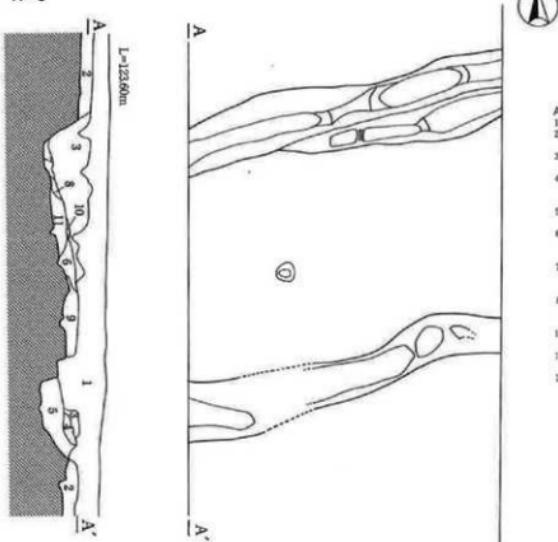


Fig.25 H-98・99号住居跡

B-1



A-3



0 1:80 2m

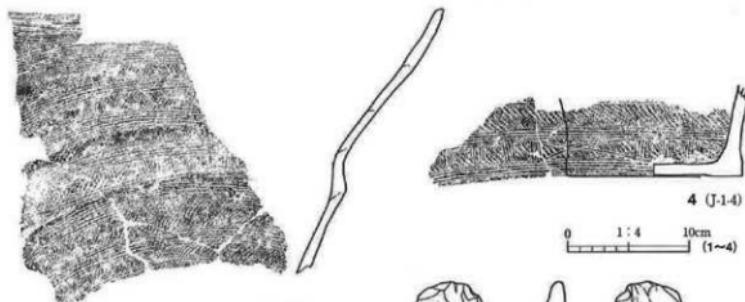
Fig.26 B-1号掘立柱建物跡、A-3号道路状遺構



1 (J-1-1)



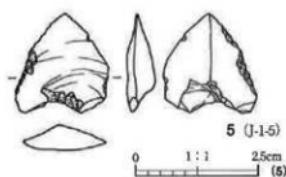
2 (J-1-2)



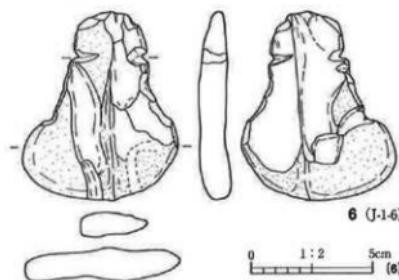
4 (J-1-4)

0 1 : 4 10cm
(1~4)

3 (J-1-3)



5 (J-1-5)



6 (J-1-6)

Fig.27 J-1号住居跡、遺構外出土遺物

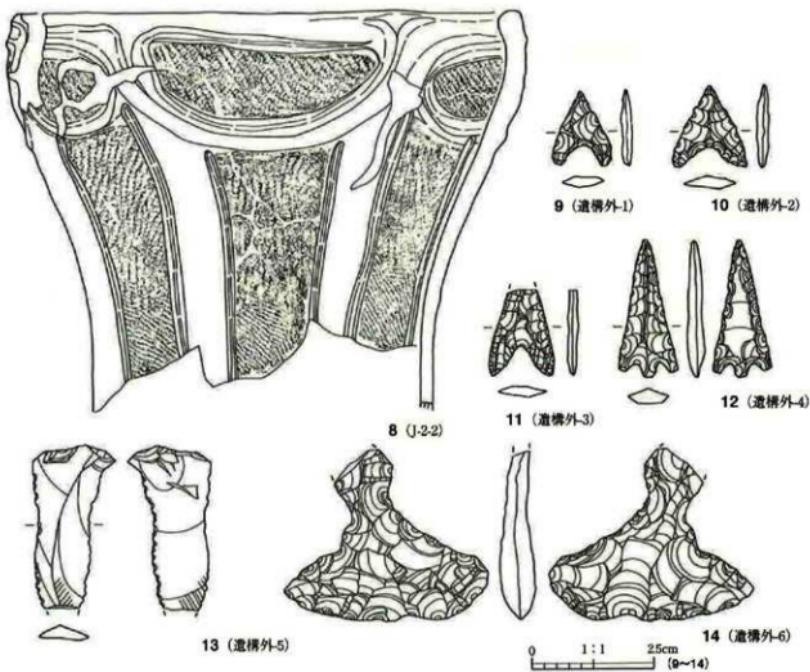
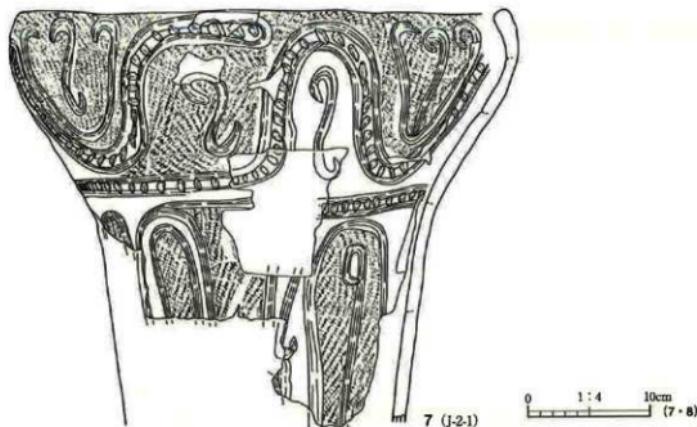


Fig.28 J-2号住居跡、造模外出土遺物

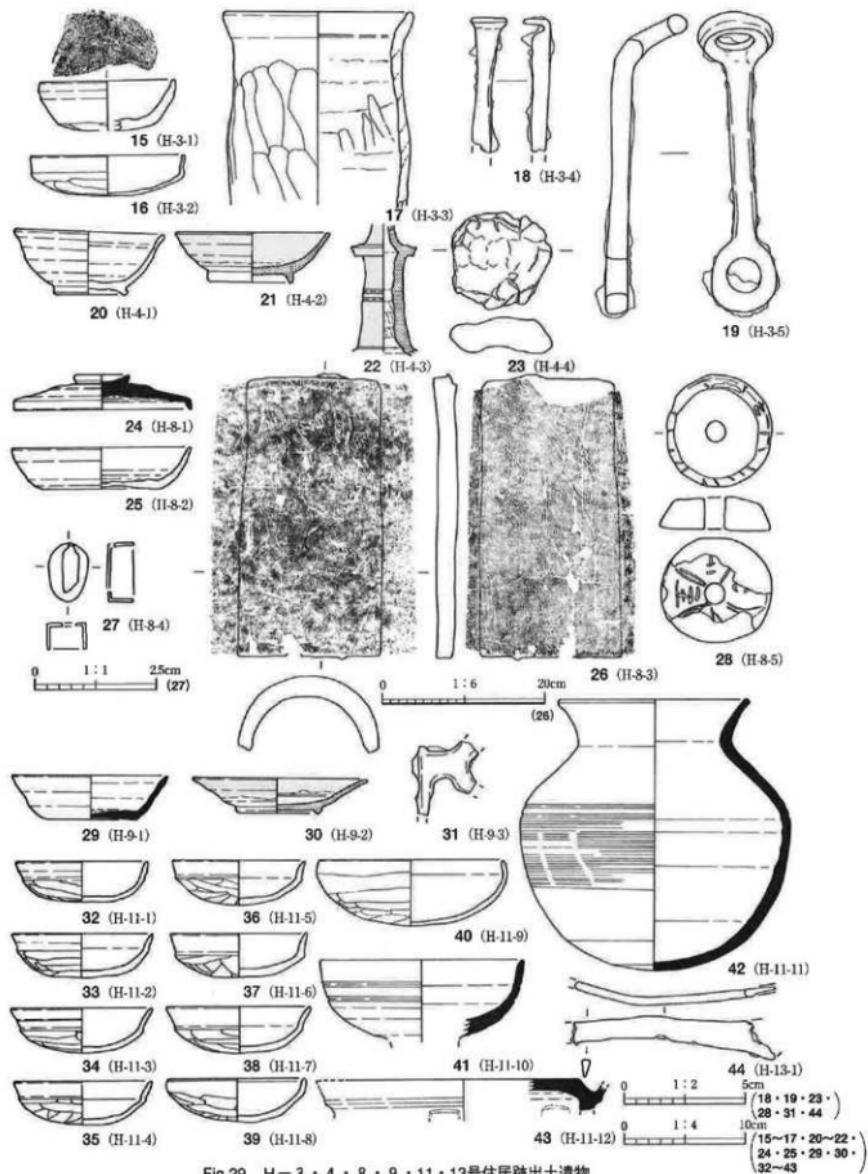


Fig.29 H-3·4·8·9·11·13号住居跡出土遺物

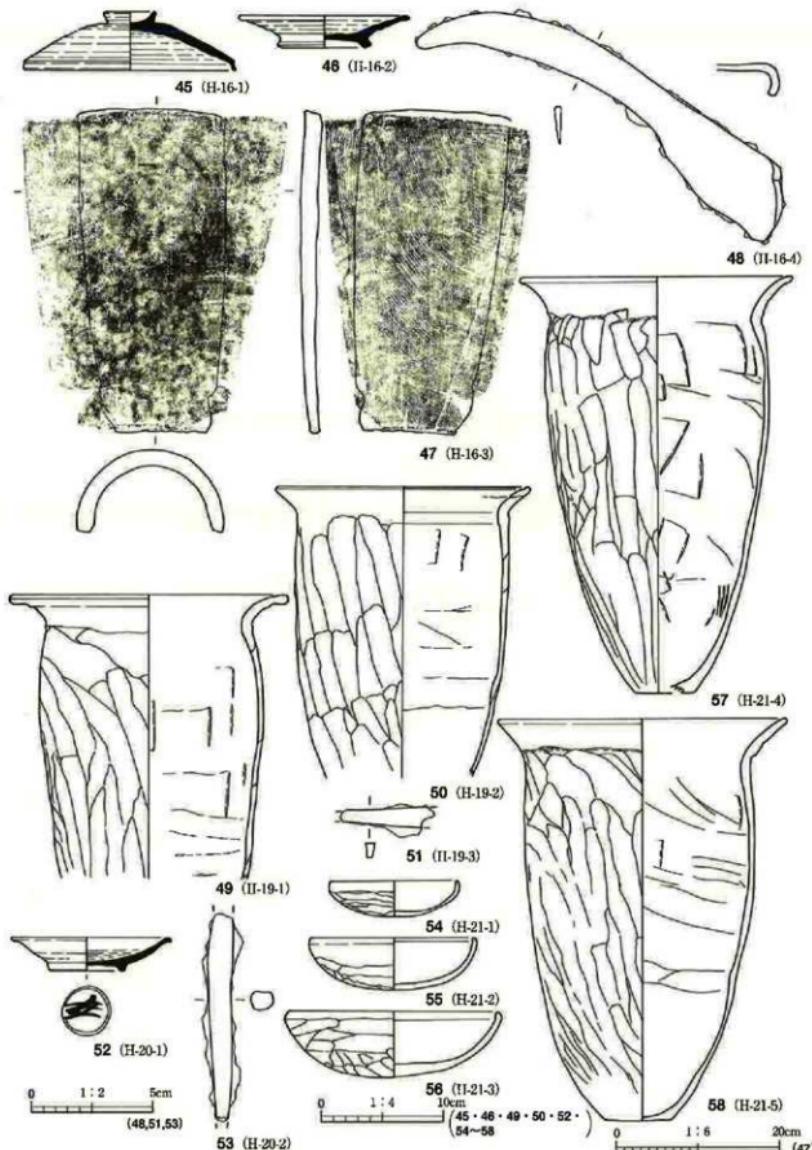


Fig.30 H-16・19～21号住居跡出土遺物

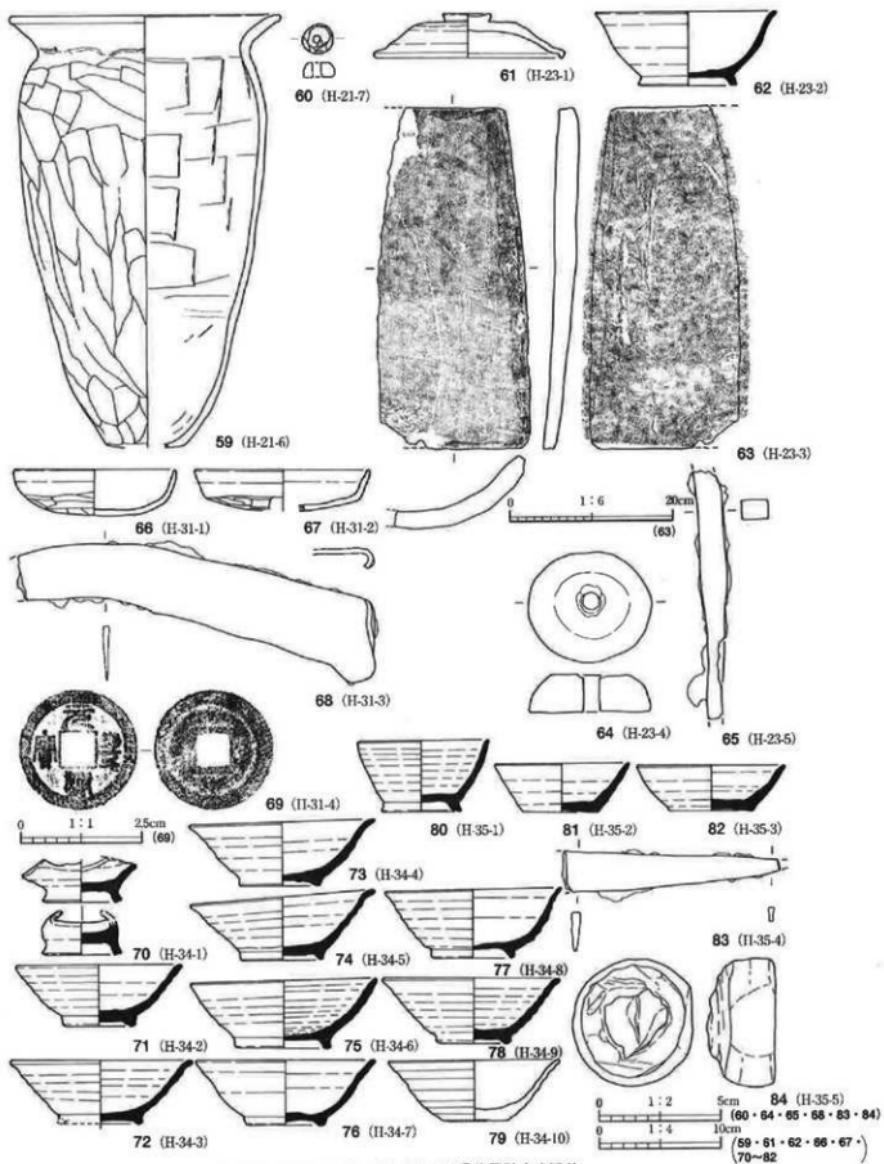


Fig.31 H-21·23·31·34·35号住居跡出土遺物

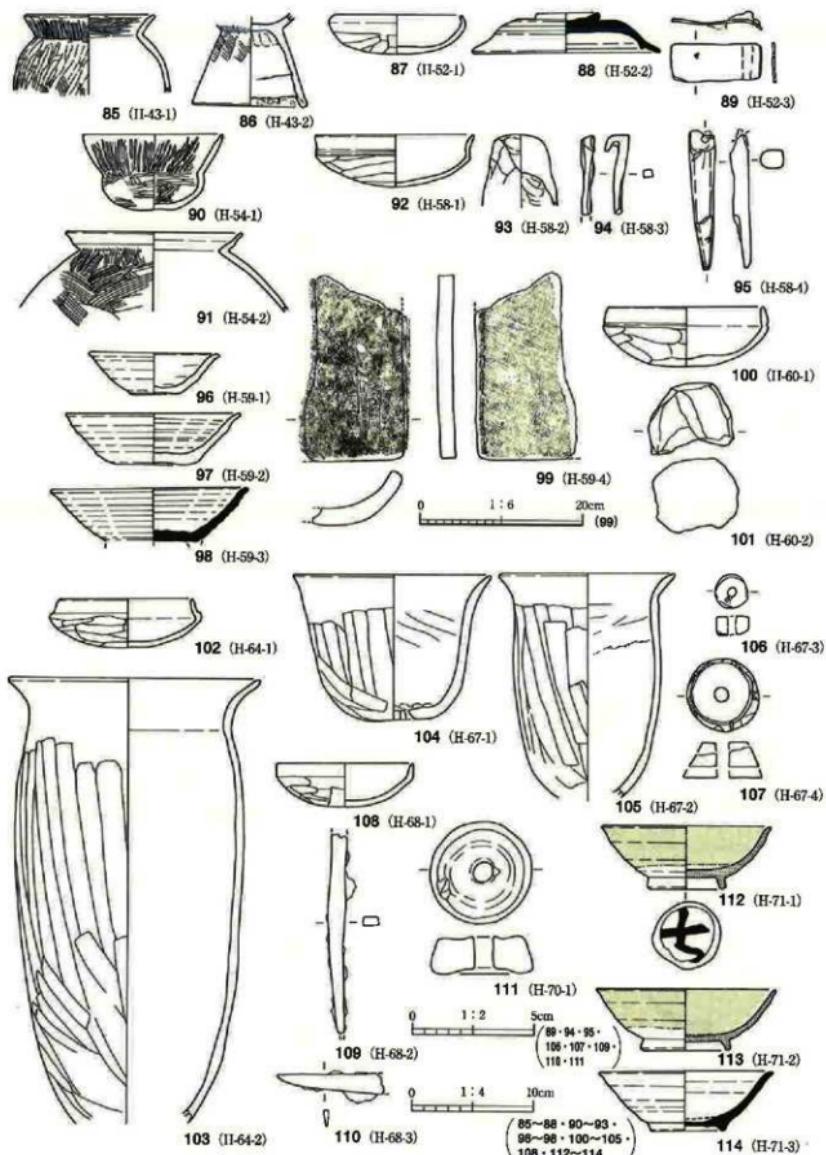


Fig.32 H-43·52·54·58~60·64·67·68·70·71号住居跡出土遺物

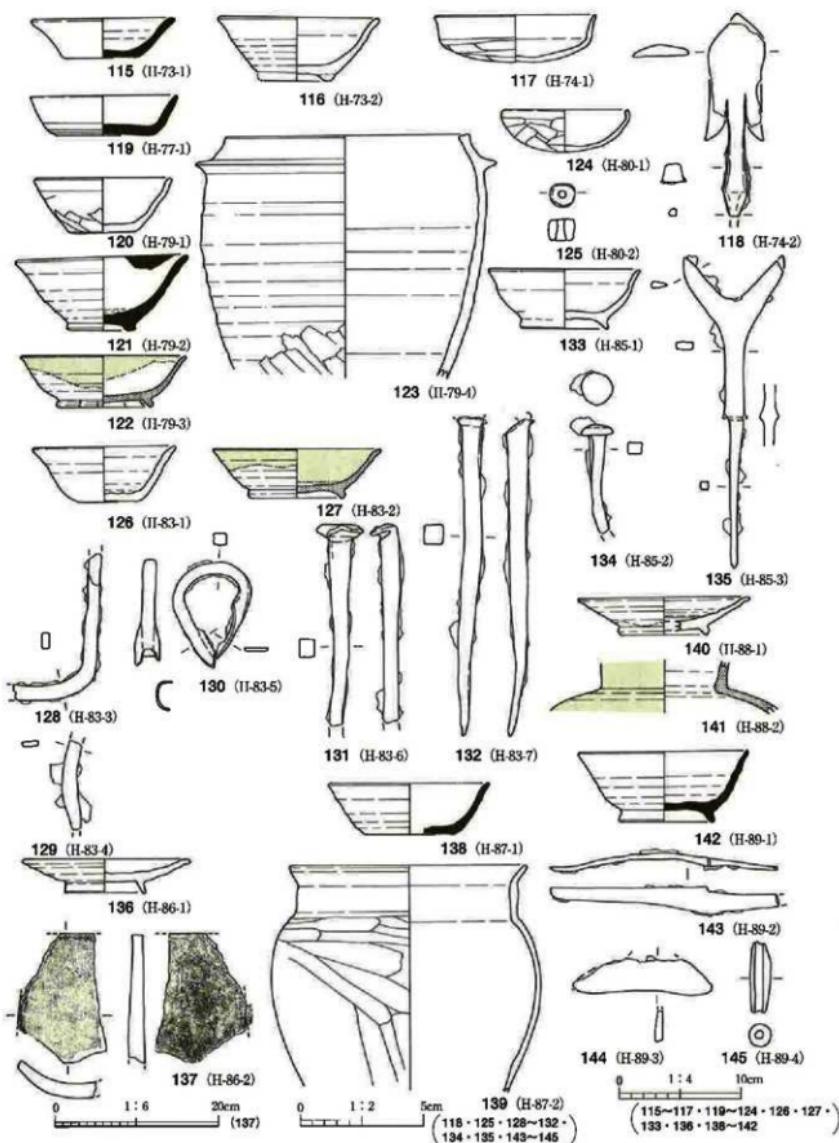


Fig.33 H-73・74・77・79・80・83・85～89号住居跡出土遺物

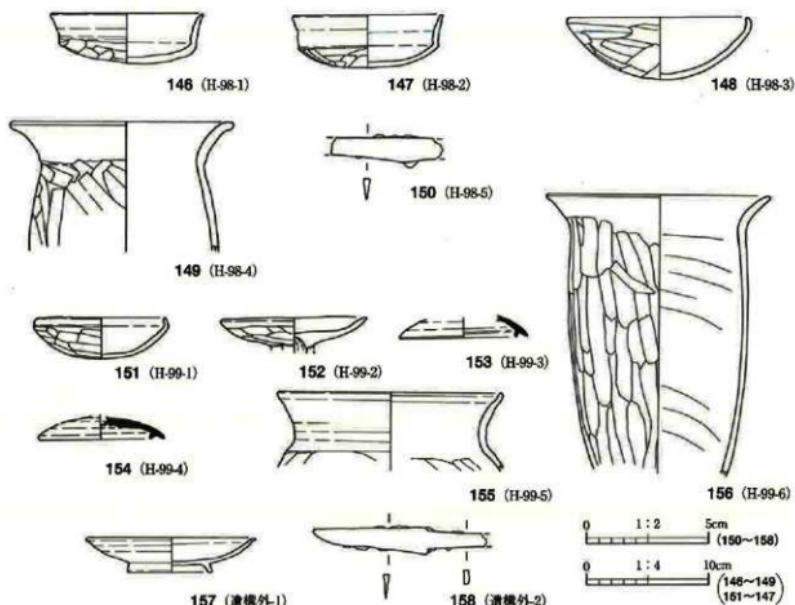


Fig.34 H-98・99号住居跡、遺構外出土遺物



調査前現況（南西から）



J-1号住居跡遺物出土状況（西から）



J-1号住居跡全景（西から）



J-2号住居跡遺物出土状況（北から）



J-4号住居跡全景（東から）



H-1号住居跡全景（南西から）



H-2号住居跡全景（北から）



H-3号住居跡全景（西から）

PL.2



H-3・5号住居跡全景（南西から）



H-4号住居跡全景（西から）



H-7・8号住居跡全景（西から）



H-9号住居跡全景（西から）



H-10号住居跡全景（西から）



H-11号住居跡全景（西から）



H-14号住居跡全景（北から）



H-15~18・22・27号住居跡全景（南西から）



H-16号住居跡全景（西から）



H-19号住居跡全景（西から）



H-19号住居跡全景（西から）



H-20号住居跡全景（北西から）



H-21・29号住居跡全景（西から）



H-21号住居跡全景（西から）



H-23号住居跡全景（西から）



H-25・26・32号住居跡全景（西から）

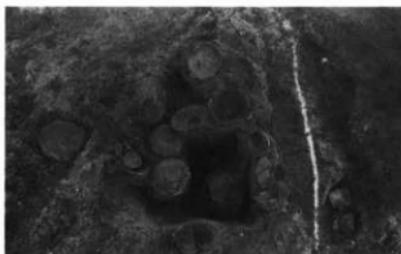
PL.4



H-26号住居跡全景（西から）



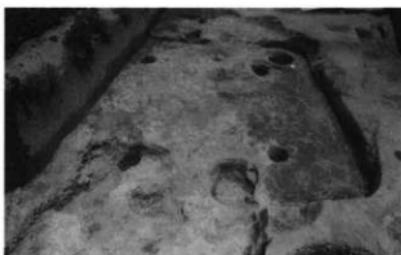
H-32号住居跡全景（西から）



H-34号住居跡貯蔵穴遺物出土状況（西から）



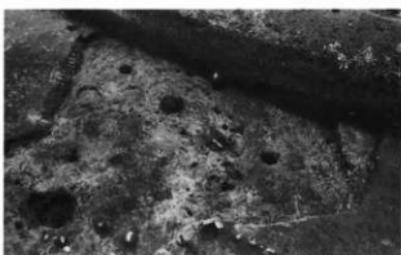
H-35号住居跡全景（西から）



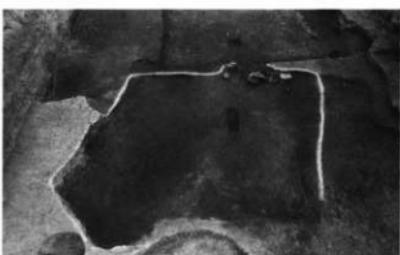
H-38・31号住居跡全景（西から）



H-40号住居跡全景（西から）



H-42・43号住居跡全景（北西から）



H-45号住居跡全景（西から）



H-47号住居跡全景（北西から）



H-52号住居跡全景（西から）



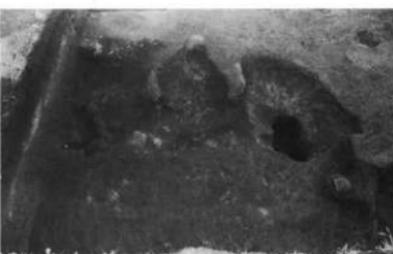
H-55号住居跡全景（西から）



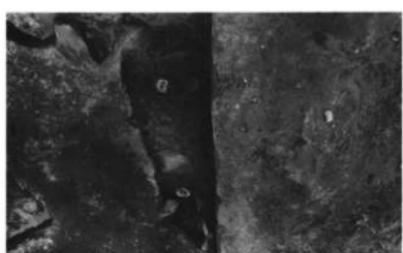
H-54・72号住居跡全景（南西から）



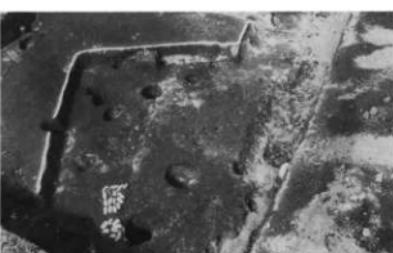
H-57号住居跡全景（北から）



H-58号住居跡全景（西から）



H-59号住居跡全景（西から）



H-60号住居跡全景（西から）



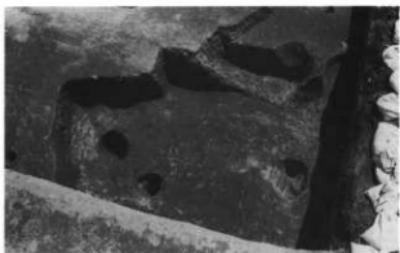
H-60号住居跡遺物出土状況（西から）



H-61号住居跡全景（西から）



H-62号住居跡全景（西から）



H-63号住居跡全景（西から）



H-64号住居跡全景（南西から）



H-64号住居跡遺物出土状況（南西から）



H-67号住居跡全景（北から）



H-68・71号住居跡、D-27号土坑全景（西から）



H-69・70号住居跡全景（西から）



H-73号住居跡全景（西から）



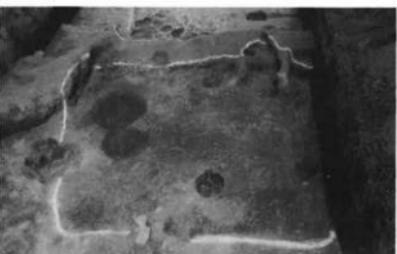
H-73号住居跡全景（西から）



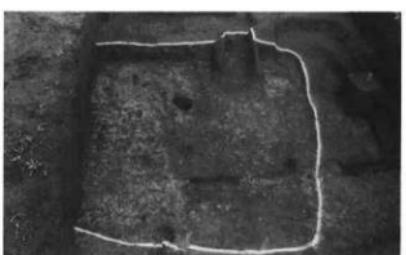
H-74号住居跡全景（西から）



H-76～78号住居跡全景（西から）



H-78号住居跡全景（西から）



H-80号住居跡全景（西から）



H-81号住居跡全景（西から）

PL.8



H-83・92・93号住居跡全景（西から）



H-84号住居跡全景（西から）



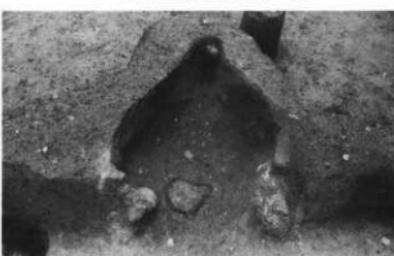
H-85・86号住居跡全景（西から）



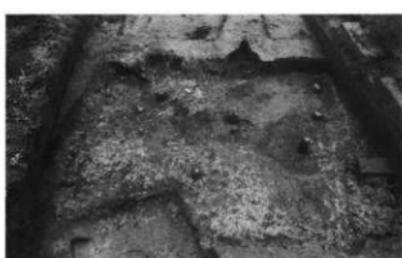
H-87号住居跡全景（西から）



H-88号住居跡全景（西から）



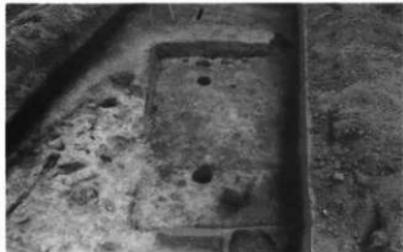
H-88号住居跡全景（西から）



H-89号住居跡全景（東から）



H-90号住居跡掘形全景（西から）



H-91号住居跡全景（西から）



H-95号住居跡全景（西から）



H-97号住居跡全景（西から）



H-98号住居跡全景（東から）



H-98号住居跡西竈全景（東から）



H-99号住居跡全景（西から）



H-99号住居跡全景（西から）

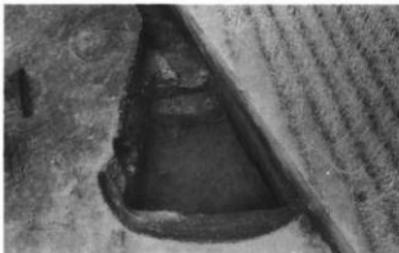


H-99号住居跡遺物出土状況（北から）

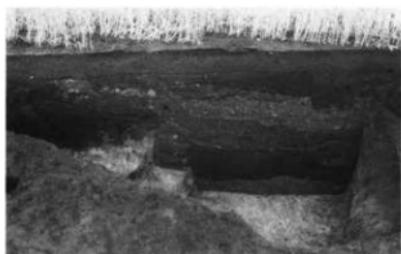
PL.10



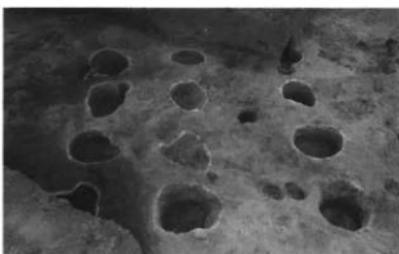
H-100号住居跡全景（西から）



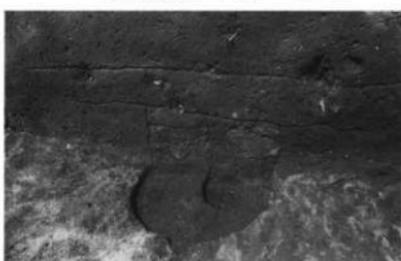
X-4号不明遺構跡全景（西から）



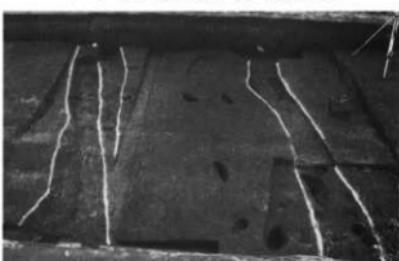
X-4号不明遺構跡セクション（北から）



B-1号掘立柱建物跡全景（南西から）



B-1号掘立柱建物跡P-1セクション（東から）



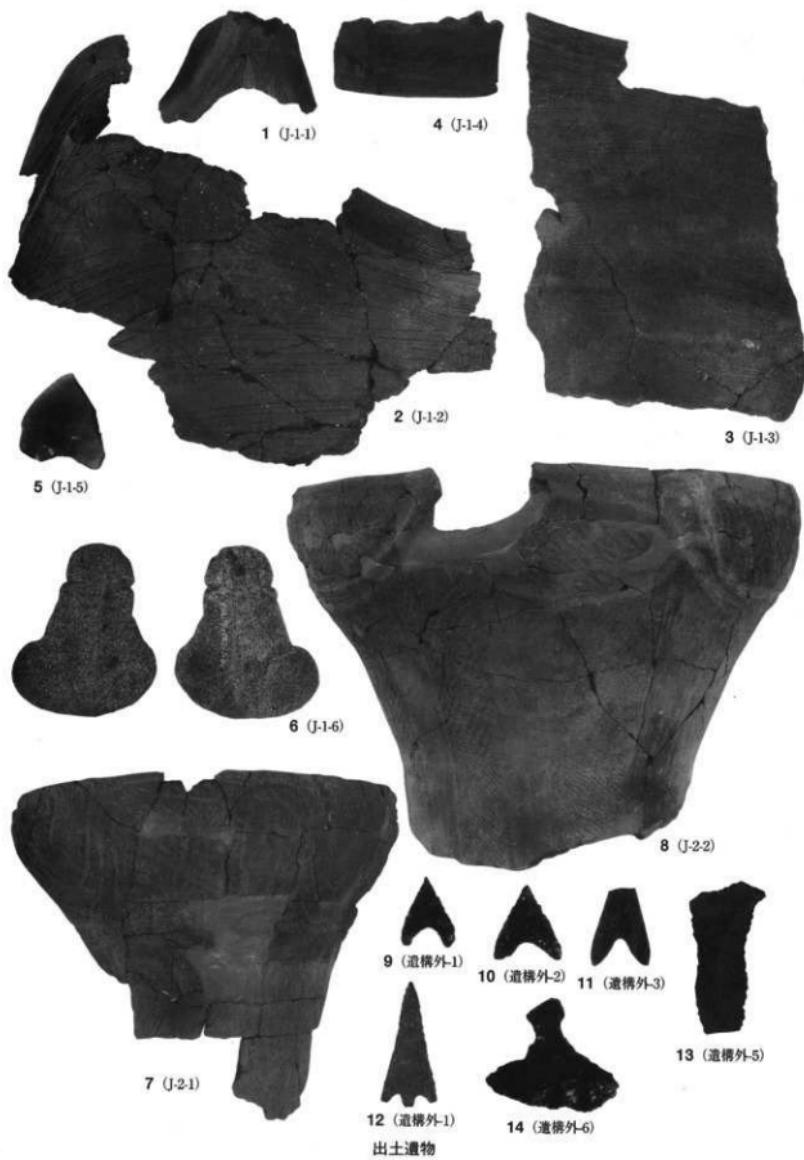
A-3号道路状遺構（西から）



W-7号溝跡（南から）



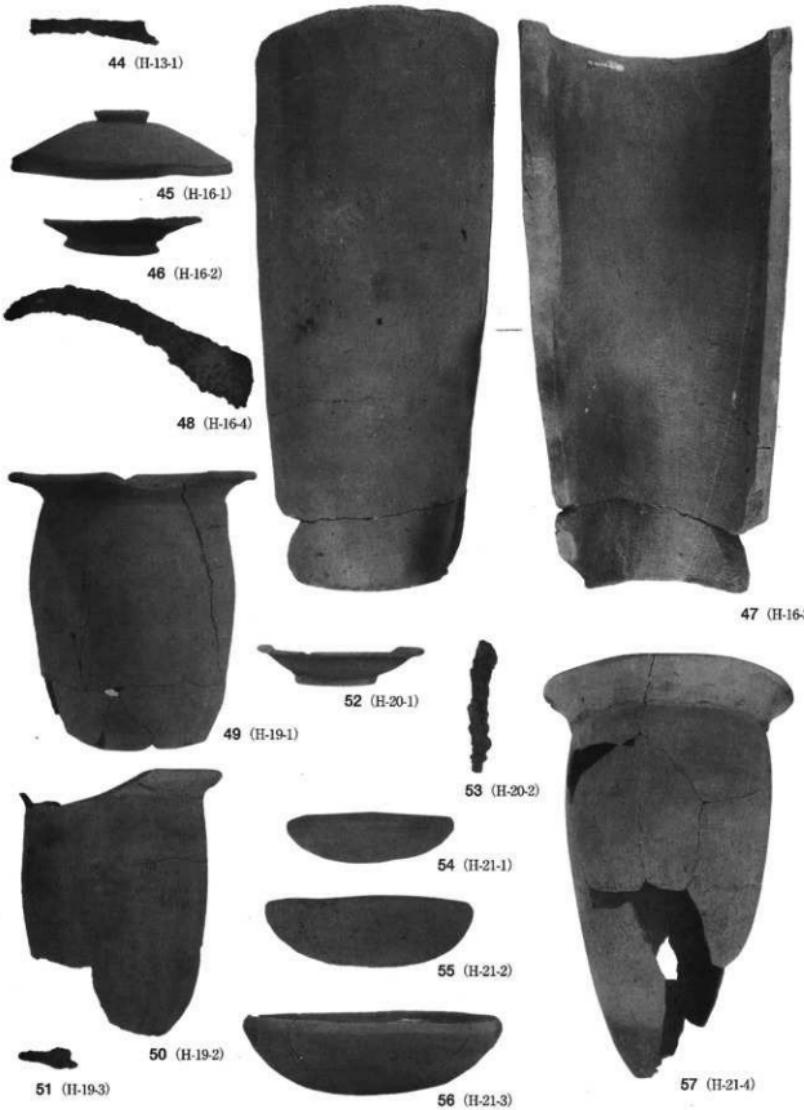
8区調査終了状況（西から）



PL.12



出土遺物



出土遺物

PL.14



58 (H-21-5)



61 (H-23-1)



62 (H-23-2)



64 (H-23-4)



65 (H-23-5)



59 (H-21-6)



68 (H-31-3)



60 (H-21-7)



66 (H-31-1)

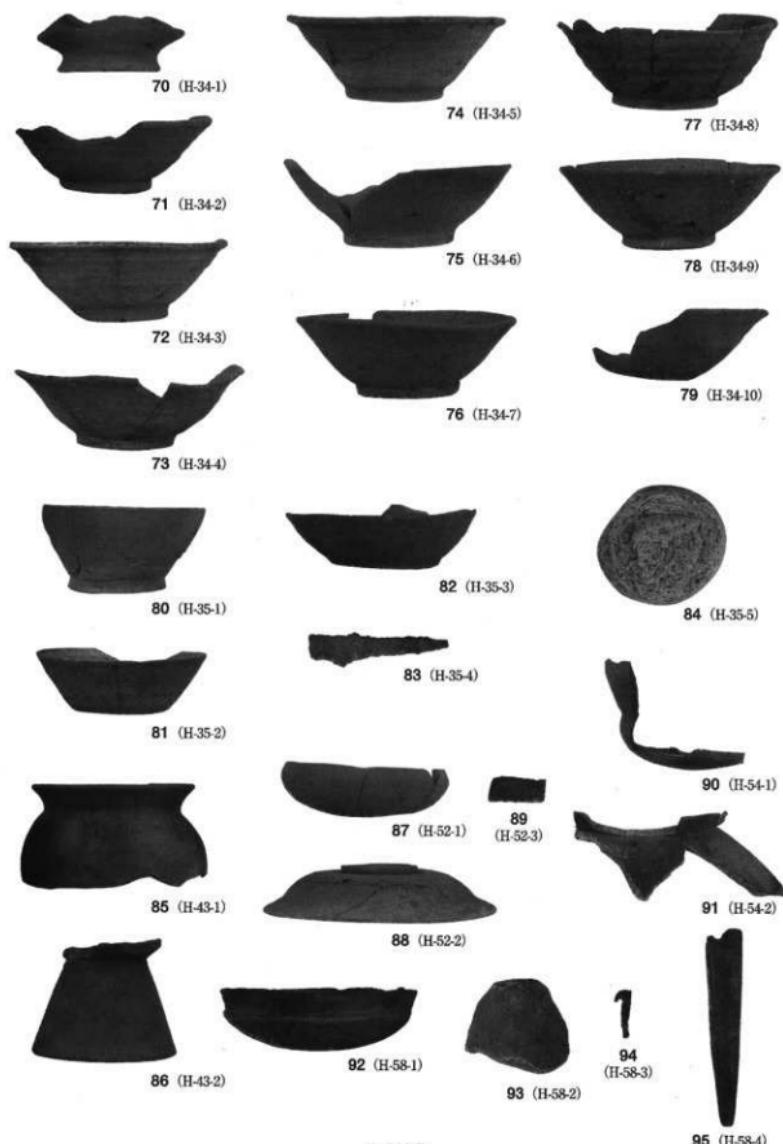


67 (H-31-2)



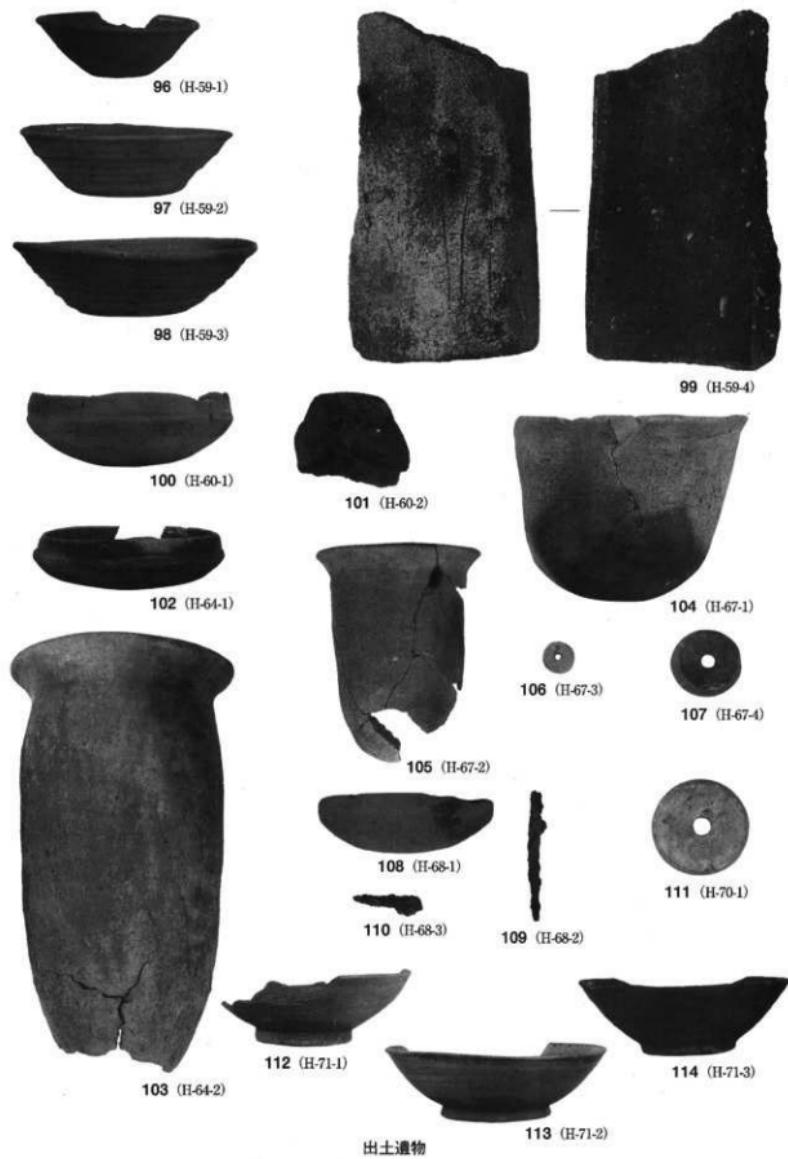
69 (H-31-4)

出土遺物

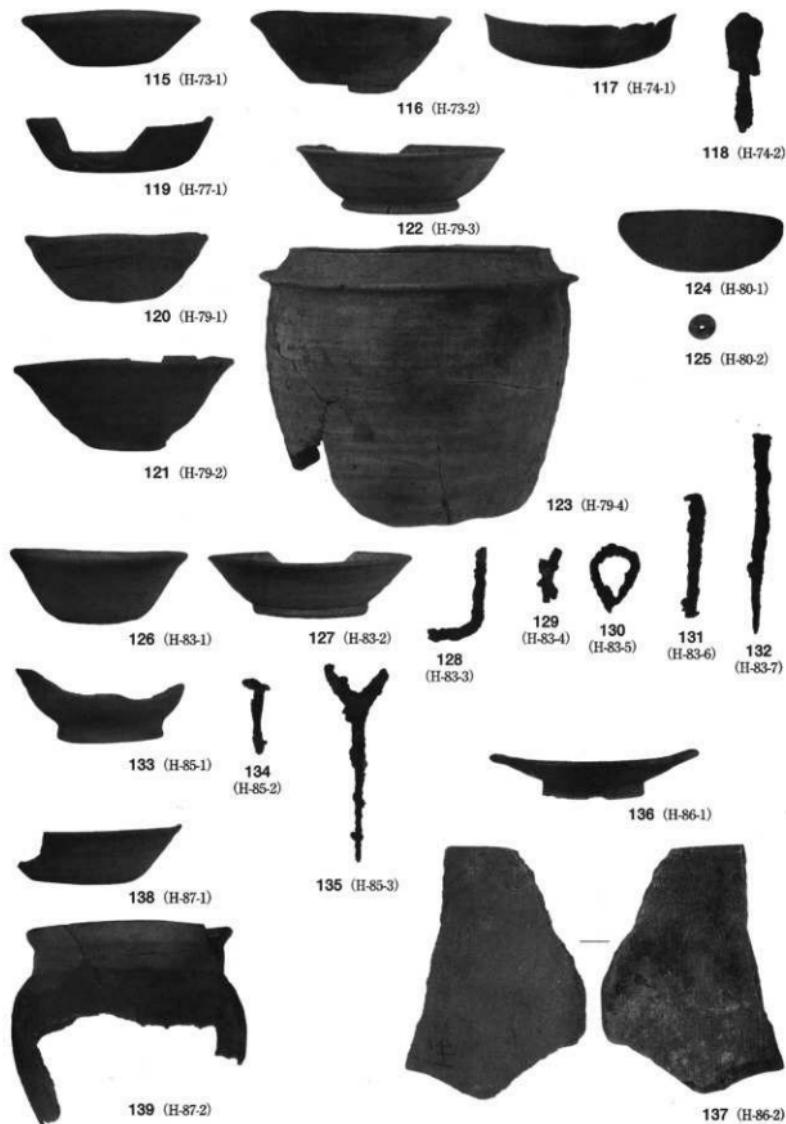


出土遺物

PL.16



出土遺物



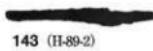
PL.18



140 (H-88-1)



142 (H-89-1)



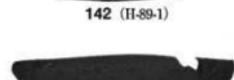
143 (H-89-2)



145 (H-89-4)



141 (H-88-2)



148 (H-98-3)



146 (H-98-1)



144 (H-89-3)

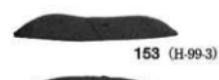


150 (H-98-5)

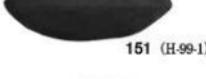
149 (H-98-4)



147 (H-98-2)



153 (H-99-3)



151 (H-99-1)



152 (H-99-2)



154 (H-99-4)



155 (H-99-5)



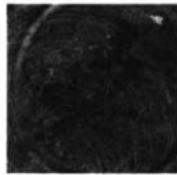
156 (H-99-6)

157 (遺構外-1)

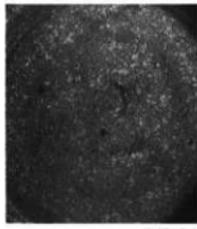
158 (遺構外-1)



28 (H-8-5)



52 (H-20-1)



112 (H-71-1)



63 (H-23-3)



137 (H-86-2)

出土遺物

報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオミイセキ							
書名	元総社小見遺跡							
調書名	元総社著海土地区整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	鈴木雅浩、長谷川一郎、折原洋一、湯原勝美							
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団、山武考古学研究所							
所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2 〒286-0045 千葉県成田市並木町221番地							
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団							
所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2							
発行年月日	西暦2001年3月23日							
所取遺跡名	所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元総社小見	群馬県前橋市 元総社町地内	10201	12A107	36°23'25"'	139°1'52"'	20010209～ 20010323	2.150m ²	土地区画整理事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項
元総社小見	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 性格不明遺構	3軒 2基	諸磯b・c式土器、加曾利E4式土器、石器、石鏃、石匙			
	集落跡	古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 竪穴状遺構 性格不明遺構 道路状遺構 溝跡 土坑	90軒 1棟 2基 3基 4条 8条 24基	上師器壇、台付甕・坏・甕、須恵器蓋・坏・高台付坏・無蓋高坏・高台付皿・耳皿・羽釜・円面碗・灰釉陶器碗・段皿・短頸壺・水瓶・縁釉陶器高台付皿・金属製品（鍔鏡・引手・逆輪・刀子・鏡・釘・火打金・元豐通宝）、土製品（紡錘車・丸瓦・平瓦）、石製品（白玉・支脚）			

元總社舊海遺跡群

元總社小見遺跡

2001年3月16日 印刷
2001年3月23日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷所 千葉県富里町日吉台1-23-12
TEL 0476-93-0593
